新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 272 集

県内遺跡発掘調査報告書Ⅴ

平成26・27年度県内遺跡試掘・確認調査

２０１７

新　潟　県　教　育　委　員　会

県内遺跡発掘調査報告書Ⅴ

平成26･27年度県内遺跡試掘・確認調査

２０１７

新　潟　県　教　育　委　員　会

序

新潟県教育委員会では、平成25年度から国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を直営の体制で行っており、本書は平成26年度３月及び平成27年度に実施した調査成果をまとめたものです。

本書には18か所で実施した試掘確認調査の結果を掲載しました。国土交通省が新直轄道路として村上市朝日から山形県鶴岡市まで建設する一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）の試掘・確認調査が平成27年度から本格化しており、今回の試掘確認調査により範囲・内容の一部が明らかになった上野遺跡は縄文時代後期の大規模集落と予想されます。

一般国道253号上越三和道路では、弥五郎遺跡や舘遺跡の本発掘調査範囲が把握できました。また、一般国道17号六日町バイパスの藤塚遺跡・坂之上遺跡などでは遺跡範囲や内容の一部が確認でき、今後の試掘確認調査で本発掘調査範囲を明らかにしていきます。

本書が県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料となり、地域の歴史に興味を持つ多くの方にも活用されることを願っています。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各国道事務所に対し、厚くお礼申し上げます。

平成29年３月

新潟県教育委員会

教育長　池　田　幸　博

例　　言

1　本報告書は、新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）が平成26･27年度に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査）の記録である。

2　本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、県教委が主体となって実施した。

3　出土遺物の注記は、調査年度（平成27年）と略号を用い、トレンチ番号･層位等を記載した。朝日温海道路は「27アサ」、紫竹山道路は「27シチ」、六日町バイパスは「27六日」、宝田遺跡は「27タカ」、上越三和道路は「27上三」である。

4　出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は一括して県教委が保管・管理している。

5　本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は株式会社吉田建設に委託した。

6　各事業の図版の構成は、第１図位置図、第２図トレンチ位置図、第３図土層柱状図、第４図遺構図面を基本とし、複数ある場合は枝番を付した。それ以降を写真図版とし､遺構図面が無い場合は第４図から１点ごとに連番を付した。

7　土層柱状図は分層を行ったが、同一層名を付したトレンチがある。各トレンチ内で分層は可能だが、相対的に同じ層として捉えられると判断した場合、そのように記載した。

8　本書の執筆は石川智紀・加藤元康が行った。調査位置図・トレンチ位置図・土層柱状図・遺構平面図の作成は石川・牧野耕作が行った。

凡　　例

第２図トレンチ位置図

凡例１			
	平成27年度 調査対象範囲		調査トレンチ （遺構検出）
	平成26年度以前 調査対象範囲		調査トレンチ （中世以前の遺物出土）
	調査トレンチ （遺構･遺物出土）		調査トレンチ （遺構･遺物なし）
凡例２			
	本調査必要範囲		判断保留範囲

第３図土層柱状図

●　：中世以前の遺物が出土した層

目　　次

第Ⅰ章　事業の概要

1　調査に至る経緯と体制…… 1

2　調査の概要…… 1

第Ⅱ章　平成26年度調査の結果

1　一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係
（村上市桧原・板屋越地区試掘調査）…… 4

第Ⅲ章　平成27年度調査の結果

1　一般国道７号勝木地区事故対策関係
（村上市勝木地区試掘調査）…… 6

2　一般国道113号鷹ノ巣道路関係（関川村大内渕地区試掘調査①）…… 7

3　一般国道113号鷹ノ巣道路関係（関川村大内渕地区試掘調査②）…… 9

4　一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係
「推定地１」･「周知１」（村上市川端・猿沢・桧原地区試掘・確認調査）… 11

5　一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係
「推定地８」（村上市大須戸地区試掘調査）…… 42

6　一般国道７号新発田拡幅関係（新発田市小舟町地区試掘調査）…… 46

7　一般国道７号高浜入口交差点改良関係
（新発田市島潟地区試掘調査）…… 48

8　一般国道７号紫竹山道路関係（新潟市紫竹山試掘調査）…… 50

9　一般国道116号吉田下中野地区事故対策関係
（燕市吉田下中野地区試掘調査）…… 52

10　一般国道８号猪子場新田南地区事故対策関係
（三条市猪子場新田地区試掘調査）…… 57

11　一般国道17号和南津改良関係（長岡市川口和南津地区試掘調査）…… 60

12　一般国道17号浦佐バイパス関係（魚沼市大浦地区試掘調査）…… 62

13　一般国道17号六日町バイパス関係（南魚沼市余川地区試掘調査）…… 66

14　一般国道17号六日町バイパス関係（南魚沼市竹俣地区試掘調査）…… 74

15　一般国道17号石打自転車歩行者道整備関係
（南魚沼市下一日市～南田中地区試掘調査）…… 78

16　一般国道８号柏崎バイパス関係
（柏崎宝田・藤井地区、宝田遺跡確認調査）…… 83

17　一般国道253号上越三和道路関係
（上越市駒林・三和区岡木地区試掘・確認調査）…… 86

第Ⅰ章　事業の概要

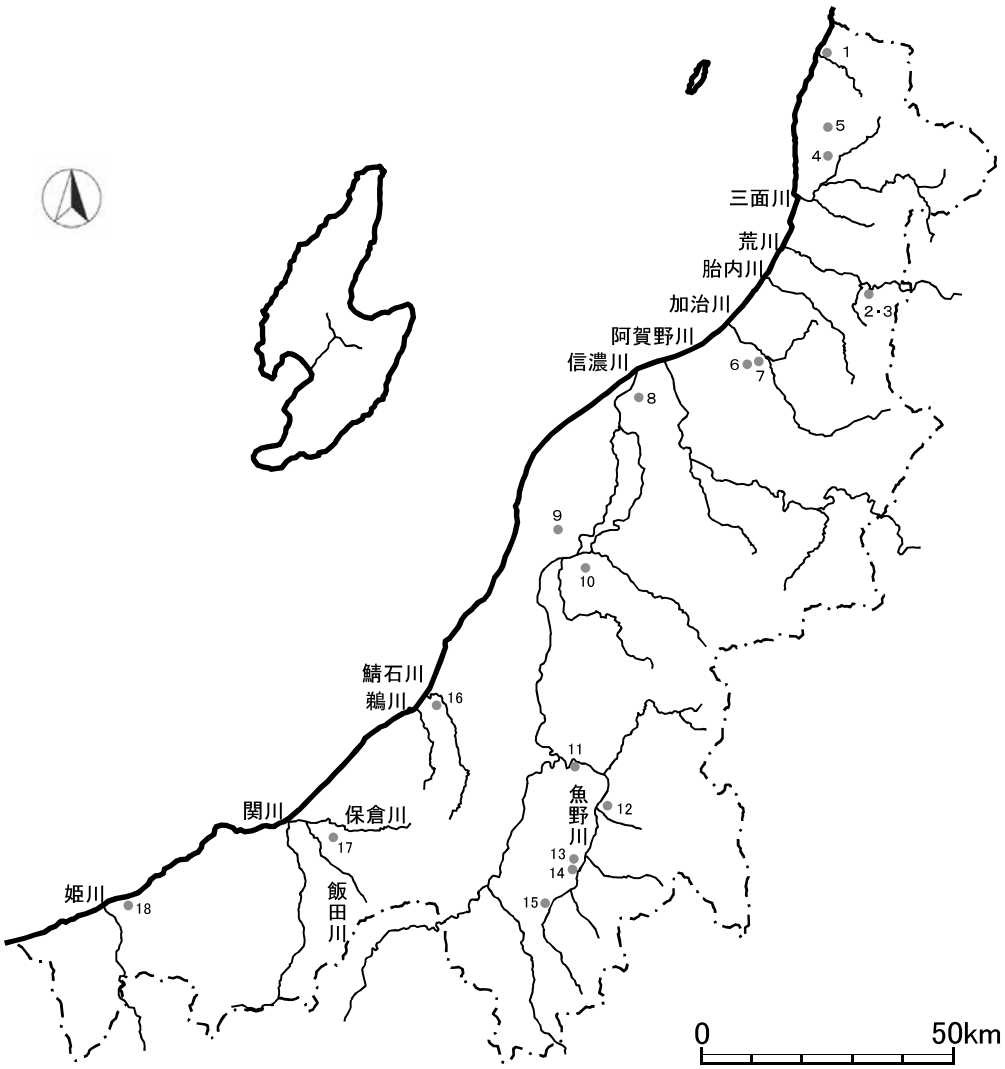
1　調査に至る経緯と体制

新潟県教育委員会（以下、県教委）では、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査（試掘･確認調査、詳細分布調査）を平成25年度から県教委が直営で行っている。調査に係る体制は以下のとおりである。

平成26年度
総　　括　斎藤　靖則（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理　松本美奈子（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導　澤田　　敦（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当　佐藤　友子（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
調 査 員　滝沢　規朗（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
　　加藤　元康（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
平成27年度
総　　括　斎藤　靖則（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理　斉藤　　尚（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導　滝沢　規朗（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当　石川　智紀（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
調 査 員　佐藤　友子（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
　　加藤　元康（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）
　　牧野　耕作（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
　　工藤　祐大（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

2　調査の概要

平成27年３月から平成28年３月までに行った調査は、第１表、調査か所は第１図のとおりである。ここでは試掘・確認調査、立会調査の主な成果について述べる。



第１図　試掘・確認調査位置図

※番号は第１表「地図番号」と一致する。

年度	事業者名		調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査※			調査結果			
								当初面積	実績面積	調査面積	本調査必要範囲	時代	遺跡名等	遺構面数
平成26年度	国土交通	新潟国道	試掘確認	一般国道７号朝日温海道路	4	村上市桧原～板屋越	３月19･20日	３,000	３,000	70.８				
			実施：１件１か所				小計	３,000	３,000	70.８				
	実施：１件１か所						小計	３,000	３,000	70.８				
平成27年度	国土交通省	羽越河川国道	試掘確認	一般国道７号勝木地区事故対策	1	村上市勝木	３月４日	80	80	9				
			試掘確認	一般国道113号鷹ノ巣道路	2	岩船郡関川村大字大内淵	10月26･27日	２,960	３,578	52				
					3	岩船郡関川村大字大内淵	11月26･27日	３,320	４,167	110				
		実施：２件３か所					小計	６,360	７,825	171				
		新潟国道	試掘確認	一般国道７号朝日温海道路	4	村上市猿沢～桧原	６月４・５・８～12･15～19・22～26日、10月13～16・19～23･26･27日、11月５・６・９～11日、12月14･15日	250,000	123,129	４,462	20,000㎡以上	縄文	◆上野	2
					5	村上市大須戸	12月７～11日	12,440	12,440	305				
			試掘確認	一般国道７号新発田拡幅	6	新発田市小舟町	６月１・２日、８月４日	２,100	２,100	105				
			試掘確認	一般国道７号高浜入口交差点改良	7	新発田市島潟	８月５日、３月３日	１,702	１,702	64				
			試掘確認	一般国道７号紫竹山道路	8	新潟市中央区紫竹山三丁目	５月29日	200	200	16				
			試掘確認	一般国道116号吉田下中野地区事故対策	9	燕市吉田下中野	９月２～４日、12月21･22日	２,370	３,516	200				
		実施：５件６か所					小計	268,812	143,087	５,152				
		長岡国道	試掘確認	一般国道８号猪子場新田南地区事故対策	10	三条市猪子場新田	９月29･30日、10月１日、12月14～16日	５,736	３,619	195				
			試掘確認	一般国道17号和南津改良	11	長岡市川口和南津	７月28日	３,540	１,390	49				
			試掘確認	一般国道17号浦佐バイパス	12	魚沼市大浦	９月15～18日	10,380	８,086	305				
			試掘確認	一般国道17号六日町バイパス	13	南魚沼市余川	７月６～10日、11月16～19日	19,270	22,884	665	９,870	古墳平安	◆六日町藤塚	2
											３,780	平安	◆坂之上	1
					14	南魚沼市竹俣・竹俣新田	11月20･24～27日、12月１～３日	11,000	10,572	338				
			試掘確認	一般国道17号石打自歩道	15	南魚沼市南田中・君沢・下一日市	５/25～27日、10月２日	１,370	２,006	99				
			試掘確認	一般国道８号柏崎バイパス	16	柏崎市宝田・藤井	12月17･18日	－	４,231	48	不要	中世平安	◆宝田	
		実施：６件７か所					小計		52,788	１,699				
		高田河川国道	試掘確認	一般国道253号上越三和道路	17	上越市駒林・三和区岡木	８月25～28日	５,000	８,850	429	１,950	古墳	◆弥五郎	1
											３,980	平安	◆舘	1
		実施：１件１か所					小計	５,000	８,850	429				
	鉄道・運輸機構		立会	北陸新幹線	18	糸魚川市大和川	６月11日、７月27･28日	－	－	－	不要	古墳縄文	◆六反田南	
		実施：１件１か所					小計							
	実施：15件18か所						小計	280,172	212,550	７,451				

第１表　試掘・確認調査ほか一覧

※「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は取扱い判断をした面積、「調査」はトレンチ面積を示す。

第Ⅱ章　平成26年度調査の結果

１　一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）関係

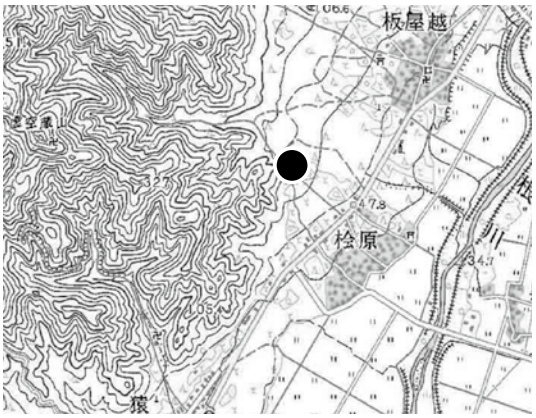
「推定地２」（村上市桧原（ひばら）・板屋越（いたやごし）地区）試掘調査

（１）立　地

高根川右岸の丘陵地裾に位置する。丘陵を形成する花崗岩が風化崩壊し、真砂土となり、丘陵地裾に厚く堆積する。標高は約60.６ｍ～65.５ｍで、現況は杉林である。

（２）調査の概要

６か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。平成26年９月に北側隣接区を調査したが、遺構・遺物は検出できなかった。



第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「塩野町」1:50,000原図 平成元年発行）

（３）層　序

Ⅰ　層　黒褐色腐植土である。

Ⅱ　層　暗赤褐色土で、Ⅰ層とⅢ層の漸移層である。

Ⅲ　層　褐色土である。

Ⅲ’層　にぶい黄褐色土で粗い真砂土である。

Ⅳ　層　にぶい褐色土である。２㎜～５cm大の真砂土である。

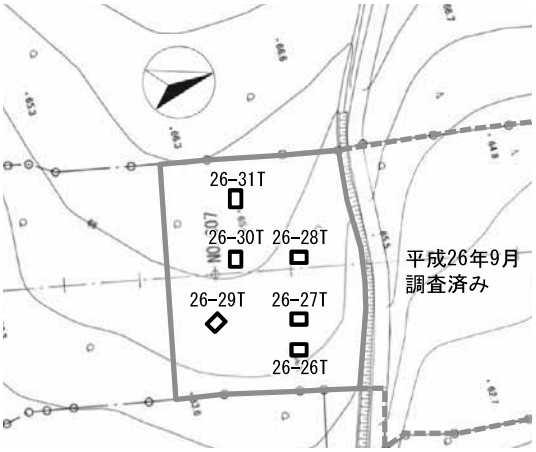
Ⅴ　層　にぶい褐色の細粒の真砂土である。３～10cm大の花崗岩を含む。

（４）遺構・遺物

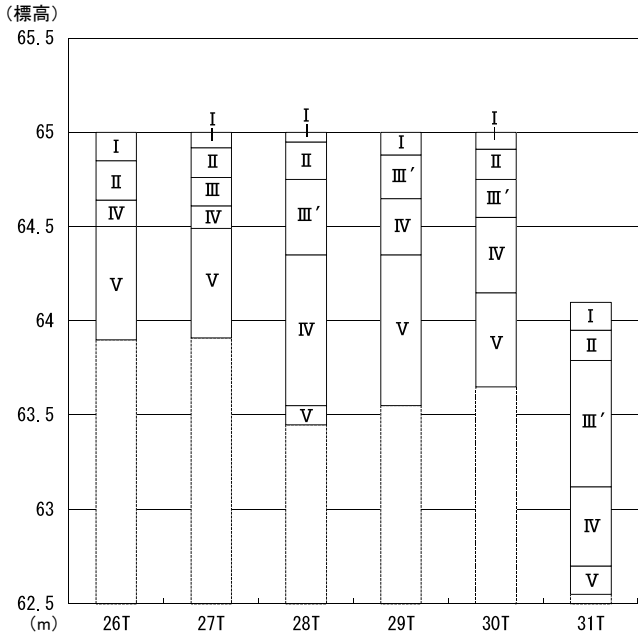
なし。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１：２,000）



第３図　土層柱状図（１：40）

第４図　調査前全景（北から）

第５図　26T土層断面（西から）

第６図　28T土層断面（東から）

第７図　31T土層断面（北から）

第Ⅲ章　平成27年度調査の結果

１　一般国道７号勝木地区事故対策関係

村上市勝木（がつぎ）地区試掘調査

（１）立　地

勝木川右岸の氾濫原で、同河川の旧流路に位置すると見られる。標高は約７.２ｍである。現況は宅地である。

（２）調査の概要

調査対象範囲が狭小なため、１か所のトレンチで試掘調査を行った。平成26年12月に南側隣接区を調査したが、遺構・遺物は検出できなかった。

（３）層　序

Ⅰａ層　暗褐色シルト。表土･旧耕作土である。

Ⅰｂ層　暗褐色シルト。旧耕作土である。

Ⅰｃ層　灰褐色粘質シルト。床土である。

Ⅱ層　褐色粘質シルト。砂質少量で、有機物含む。

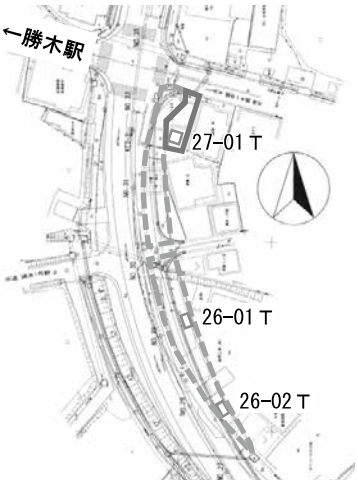
Ⅲ層　明褐色砂礫。河川堆積物である。

（４）遺構・遺物

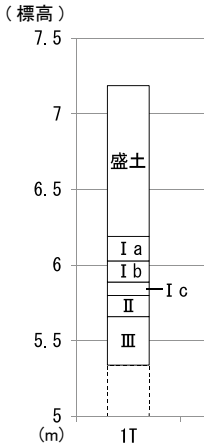
なし。

（５）調査の結果と取扱い

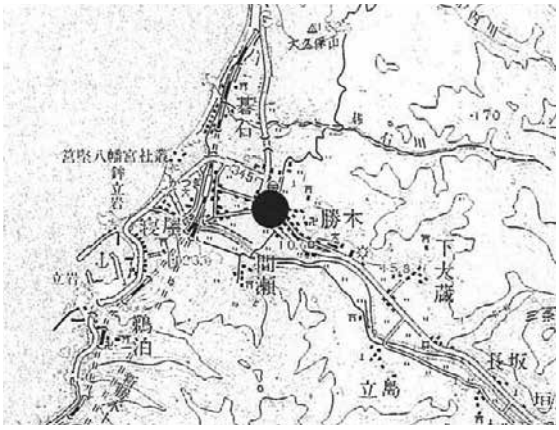
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図
（１：２,000）



第３図　土層柱状図
（１：50）



第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「勝木」1:50,000原図 平成元年発行）

第４図　１Ｔ土層断面（北から）

2　一般国道113号鷹ノ巣道路事業関係

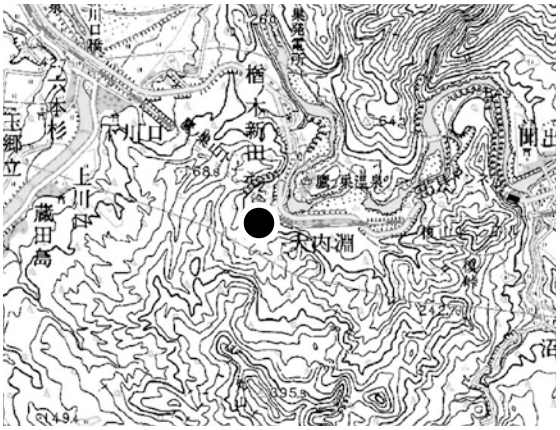
関川村大内渕（おおうちぶち）地区試掘調査

（1）立　地

荒川左岸の河岸段丘上で、北側に開けた谷間である。標高は70.9～86.3ｍで、現況は山林･荒蕪地（旧畑地・旧水田含む）である。

（2）調査の概要

調査対象範囲は工事用道路と本線丘陵部で、計９か所のトレンチで試掘調査を実施した。平成25年度に南側隣接区を調査したが、遺構・遺物は検出できなかった。



第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「小国」1:50,000原図 平成2年発行）

（3）層　序

３地点は互いに離れ、現況（地点①が丘陵上、地点②が林野、地点③が旧水田）も異なることから、統一的な層序の対応は困難であった。よって各地点で基本層序を決めた。

【地点①】１～４Ｔ層序

Ⅰ層　暗褐色土。表土である。

Ⅱ層　暗褐色土。腐葉土層である。

Ⅲ層　暗褐色土。礫少量含む。

Ⅳ層　黄褐色土。礫少量含む。

Ⅴ層　赤みが多い暗褐色土。礫少量含む。

Ⅵ層　暗黄褐色土。礫多量含む。部分的に大きく落ち込む。

Ⅶ層　黄褐色～黄灰色土。礫多量含む。

Ⅷ層　灰白色シルト。礫中量含む。

【地点②】５～８Ｔ層序

Ⅰ層　黒褐色土。表土である。

Ⅱ層　黄褐色土。盛土または西側斜面からの崩落土の可能性あり。色調で分層した。

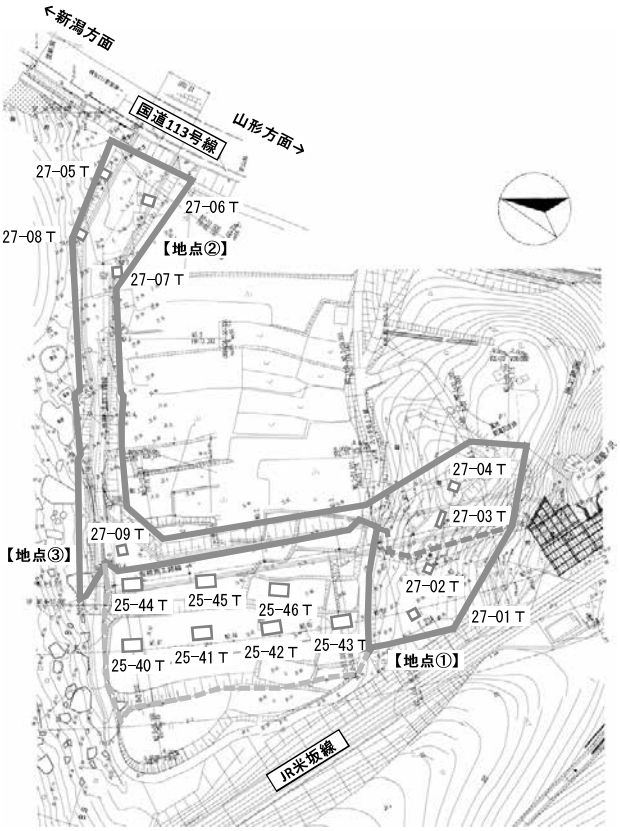
Ⅲ層　暗褐色土。

Ⅳ層　黒褐色土。

Ⅴ層　灰褐色／暗褐色粘質シルト。漸移層で、礫少量含む。

Ⅵ層　黒褐色粘質シルト。礫少量含む。

Ⅶ層　黄褐色粘質シルト。礫中量含む。



第２図　トレンチ位置図（１：２,000）

Ⅷ層　褐色シルト。礫中量含む。７Ｔで帯状に下方向に落ち込む部分を検出した。地割れへの落ち込みまたは下から吹き上げの可能性がある。

Ⅸ層　灰褐色～黄褐色粘質シルト。礫少量含み、固く締まる。

Ⅹ層　黒褐色～暗灰色粘質シルト。固く締まり、色調で分層した。

Ⅺ層　黄褐色シルト。礫中量含む。粒状の礫多い。

【地点③】９Ｔ層序

Ⅰ層　暗褐色土。耕作土である。

Ⅱ層　灰色粘質土。鉄分が沈着する。水田の床土である。

Ⅲ層　暗灰色粘質シルト。礫中量含む。ほ場整備による客土である。

Ⅳ層　暗褐色粘質シルト。礫中量含む。

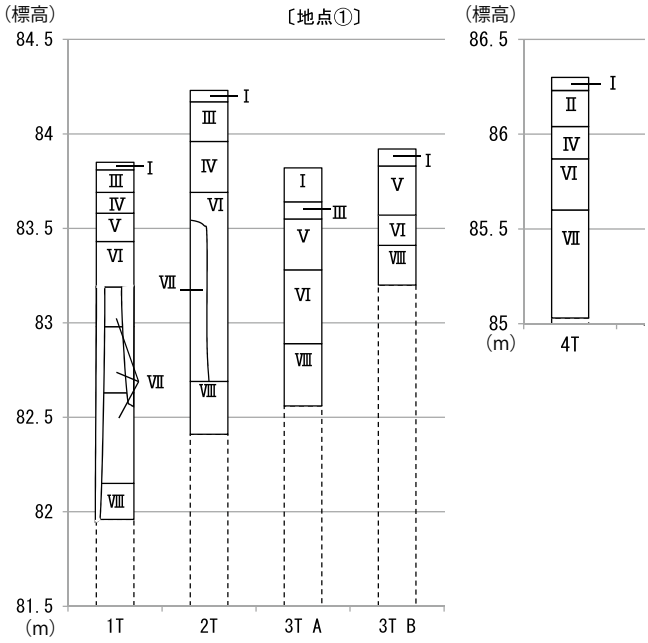
Ⅴ層　黄褐色／褐色シルト。礫多量含み、礫の含有量で互層を呈している。

（４）遺構・遺物

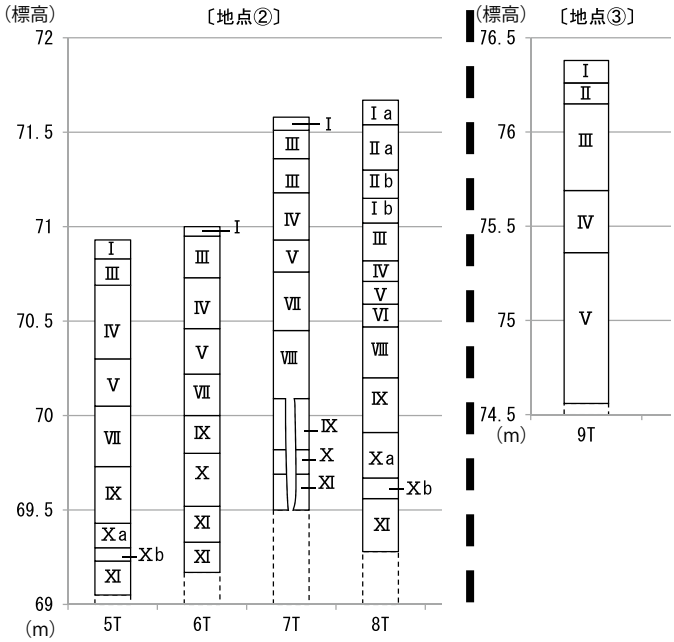
なし。３Ｔ付近が現況で溝状に落ち込んでいたが、堆積土に周辺との違いが認められず、自然地形と判断した。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第３－１図　柱状図（１：40）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

第４図　１Ｔ土層断面（西から）

第５図　７Ｔ土層断面（東から）

3　一般国道113号鷹ノ巣道路事業関係

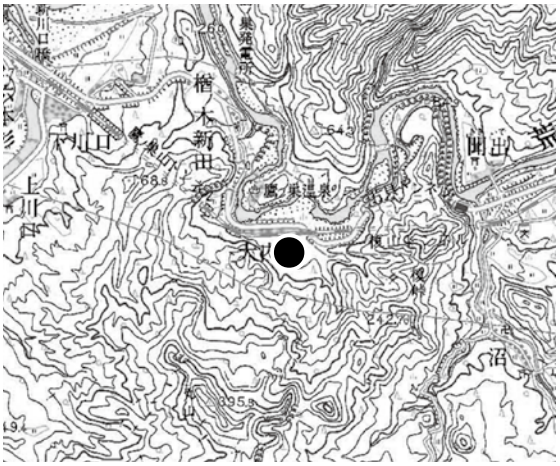
関川村大内渕（おおうちぶち）地区試掘調査

（1）立　地

荒川左岸の河岸段丘の一つで、東西方向に舌状に延びる尾根である。標高は80.0～85.4ｍで、現況は山林（旧畑地含む）である。

（2）調査の概要

尾根上の平坦面を中心に10か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象範囲は周知遺跡の「米沢街道榎峠」と一部重複しているが、踏査及び試掘調査で、街道と判断できる痕跡は確認できなかった。



第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「小国」1:50,000原図 平成2年発行）

（3）層　序

Ⅰ層　黒褐色土。表土である。

Ⅱ層　暗褐色土。Ⅰ層とⅢ層の漸移層。

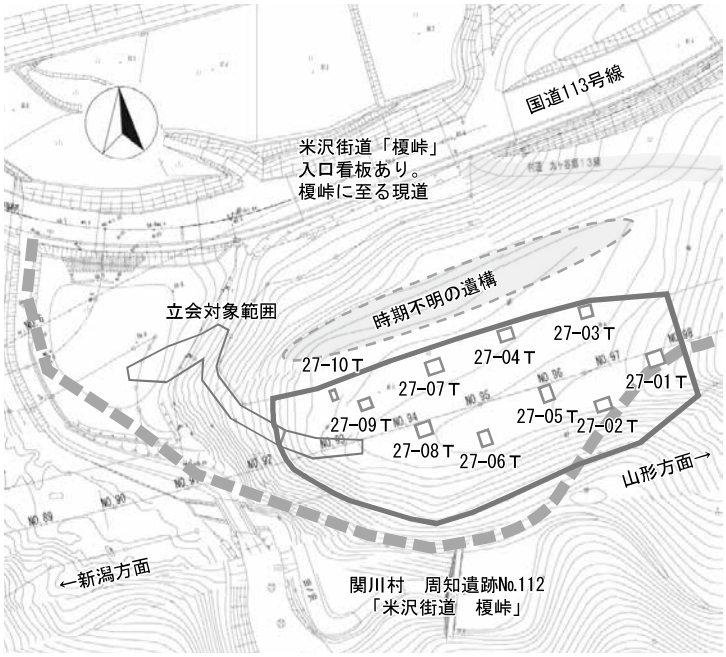
Ⅲ層　黄褐色粘質シルト。拳大の礫含む。

Ⅳ層　灰白色粘質シルト。Ⅲ層とⅤ層の漸移層で、緑灰色礫含む。

Ⅴ層　灰白色粘質シルト。緑灰色礫多量含むが、Ⅳ層より礫の径は小さい。

（4）遺構・遺物

なし。本線北側の事業用地外で、地形に沿って東西方向に延びる幅５ｍ程の人工的な溝状の凹み（遺構）を確認した。構築時期は不明である。溝状遺構の脇は、部分的に土塁状を呈している。中世の山城的な遺構とはやや異なることから、近隣に存在する米沢街道と関連する遺構（旧道）の可能性もあるが、断定できなかった。

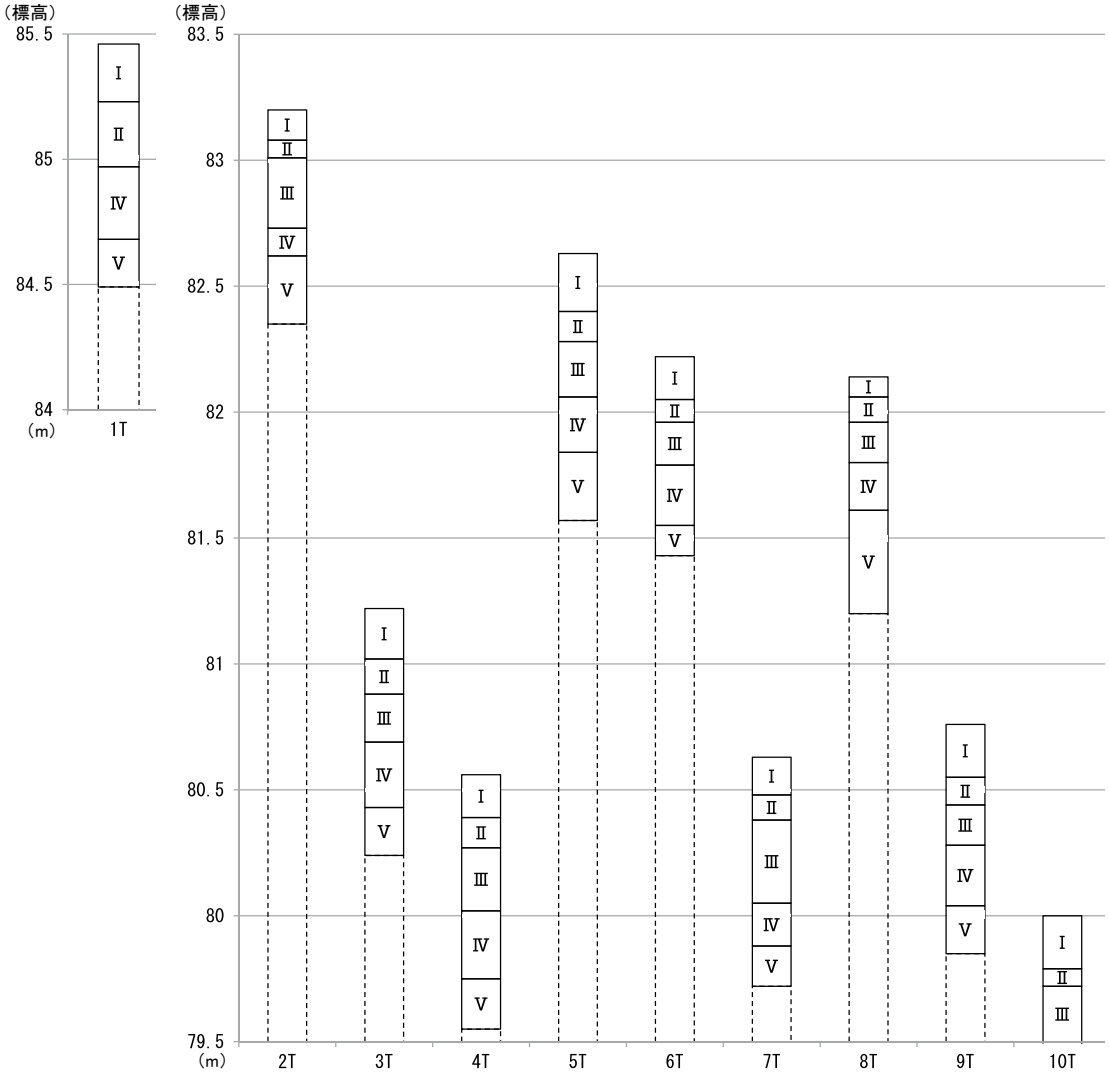


第２図　トレンチ位置図（１：２,000）

（5）調査の結果と取扱い

調査の結果、米沢街道の痕跡及び中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

なお、本線北側の事業用地外で確認された溝状遺構は、米沢街道と関連する遺構（旧道）の可能性もあるので、今後注意が必要である。



第３図　土層柱状図（１：30）

第４図　現況（東から）

第５図　７Ｔ土層断面（南から）

4　一般国道７号朝日温海道路建設事業関係

「推定地１」・「周知１」（村上市川端（かわばた）・猿沢（さるさわ）・桧原（ひばら）地区）試掘・確認調査

（１）立　地

高根川右岸の丘陵裾部と水田部からなる。丘陵裾部は、丘陵が崩壊したと考える土砂が厚く堆積している。水田部は、丘陵裾部～高根川間に広がり、丘陵の崩壊によると考える土砂の上に、高根川の土砂が堆積して形成されている。地形は丘陵裾部がなだらかに水田部に向かって標高が下り、水田部はほぼ平坦であるが、高根川に向かって緩やかに標高が低くなる。標高は丘陵裾部が25.1m～40.2m前後、水田部が21.4～27.8m前後である。現況は畑地・雑林・住宅・水田となっている。

（２）調査の概要

センター杭№576+20～598+00において、211か所（６月調査：１～96Ｔ、10～12月調査：97～211Ｔ）のトレンチを設定して試掘確認調査を実施した。杭№594+80以北のトレンチから、縄文時代の土器・石器が多量に出土し、周知遺跡の上野遺跡が事業地内に広く拡がっていることを確認した。また中世の珠洲焼を何か所かで発見したが、遺跡の存在する可能性は低いと判断した。

（３）層　序

本対象範囲は延長距離約2.2kmあり、色調･土質は様々である。また調査区が分断されている範囲もあったため、各トレンチ間の対比は困難であった。よって、主にその堆積要因を考慮してⅠ～Ⅸ層に大別し、必要に応じて細別するようにした。色調は各層のおおまかな傾向である。

Ⅰ層　表土・耕作土・圃場整備に伴うものと考える層を一括した。

Ⅰａ層　暗褐色～黒褐色土。表土及び現耕作土。

Ⅰｂ層　暗褐～暗灰色土。圃場整備時の盛土及び旧表土や旧耕作土。

Ⅰｃ層　暗黄褐～暗灰色シルト・粘質シルト。水田部で検出した圃場前の旧耕作土。

Ⅱ層　丘陵由来の層を一括した。丘陵を形成する花崗岩が風化崩壊し、土砂となって丘陵裾に厚く堆積している。土・シルトが比較的多い層と、砂礫が主体となる層があり、複数回に渡って堆積した層と考える。縄文時代の遺物もこの層中に含まれる。

Ⅱａ層　黄褐色シルト主体。Ⅱｂ層より上に堆積する層で、比較的均質である。

Ⅱｂ層　灰白色砂礫主体。小～中礫が多い。土石流のような二次堆積層と考える。

Ⅱｃ層　黄褐～褐色シルト主体。シルトの割合が高い層で、Ⅱａ層と似るが、小砂礫の混じりが多い。

Ⅱｄ層　暗褐～黒褐色シルト。Ⅱ層内に存在する黒色系のシルト層。安定した時期に堆積した旧表土層の可能性がある。後述する縄文時代の遺物包含層（Ⅱｅ・Ⅱｆ層）も同様と考える。

Ⅱｅ層　暗褐色シルト。縄文時代遺物包含層で、Ⅱｆ層より色調は薄い。

Ⅱｆ層　黒褐色シルト。縄文時代遺物包含層の主体。

Ⅲ層　灰白～明緑灰色粘質シルト。水成堆積と考える粘質シルト層。本来はⅣ層で、上層（Ⅰ層）の影響を受けて変質した層の可能性がある。

Ⅳ層　褐色シルトまたは灰白～黄灰色粘質シルト主体。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系を呈する。水成堆積層と考える。

Ⅴ層　明青灰色～青灰色粘質シルト主体。薄い層状の砂質シルトと互層を呈する。粘性が非常に強い層がある。水成堆積層。

Ⅵ層　青灰色～灰色粘質シルト主体。Ⅴ層と似るが、色調は薄く、砂質シルトがあまり含まれない。粘性はⅤ層同様に非常に強い。水成堆積層。杭№578+20～№581+60間に認められる層で、杭№580付近で最も検出レベルが下がる。この範囲は旧流路であり、低地になっていた可能性がある。この範囲で特に噴砂が多く認められた。

Ⅶ層　灰色砂質シルト主体。細砂層も含み、小礫が混じる場合もある。粘質シルトと互層を呈する層で、Ⅸ層の直上で検出される地点も多い。

Ⅷ層　暗灰・灰・暗青灰～暗緑灰色粘質シルト・シルト主体。Ⅶ層以下の暗灰色系で、砂礫層が検出できる層までを一括した。粘性が無くて固く締まる地点、砂質シルトと互層を呈する地点、腐植物が多く黒褐色を呈する層が存在する地点がある。

Ⅸ層　灰色砂礫層。河川堆積層で、細砂・砂質シルトも含む。丘陵砂礫と異なり、礫の角は丸い。

（４）遺構・遺物

遺構は、91Ｔでは径0.1～0.4ｍのピットを11基、長さ1.3ｍで最大幅0.8ｍの性格不明遺構を１基、長さ1.4ｍで最大幅0.9ｍの性格不明遺構１基を検出した。92Ｔでは径0.2～0.3ｍのピット４基を検出した。210Ｔでは竪穴建物の可能性がある遺構を検出した。南東側が建物内部、その北西部分の黄褐色シルトと黒褐色シルトが混じり合う部分が竪穴建物に伴う周堤とみられる。盛土と考える部分では竪穴建物に伴う可能性のある径0.3～0.4ｍのピット４基を検出した。北西隅でも黒褐色シルトを検出したが、こちらは土坑の可能性がある。211Ｔでは竪穴建物の可能性がある遺構を検出した。黒褐色シルト層上面で径0.5ｍのピット１基を検出し、溝状の撹乱も確認できた。この段階での地山（基盤層）と考える褐色シルト層（Ⅱｃ層）上面で径0.1～0.4ｍのピット４基を検出した。この４基のピットは遺物包含層である黒褐色シルト層（Ⅱｆ層）上面から掘りこまれている可能性が高い。いずれのピットも竪穴建物に伴うものと推定する。90Ｔでも黒色部を検出したが、遺物包含層の一部の可能性が高い。

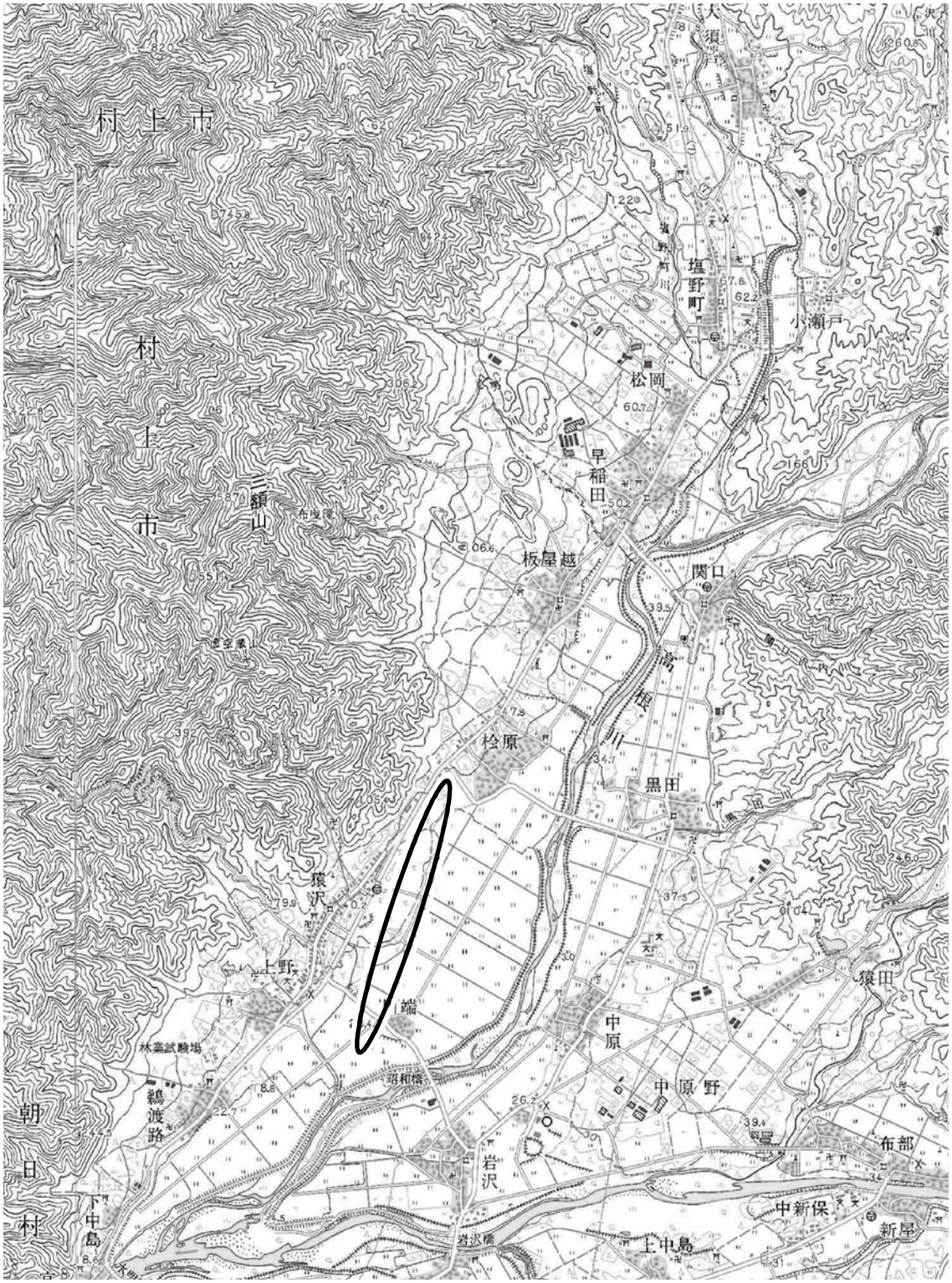
また、188Ｔ・201Ｔ・204ＴでＩ層の下から遺構状の落ち込みを検出したが、埋土はＩ層と差が無く、また平面形も不整形である。一部を断ち割って検討したが、近世以降の耕作痕や樹木の抜根痕など、撹乱と同様のものと判断した。

遺物は、２・３・12・58Ｔからは中世の珠洲焼が出土した。遺構や遺物包含層に伴うものではなく、後世の流れ込みと考える。杭№594+80付近（70・72Ｔ）以北のトレンチからは、縄文時代後期前半を主体とする土器・石器が、丘陵由来のⅡ層から多量に出土した。縄文時代の遺物包含層（Ⅱｅ・Ⅱｆ層）が存在する91・92・210・211Ｔからの出土量が特に多く、土器の総重量は210Ｔで約12kg、211Ｔで約17kgもある。土製品は、89Ｔから土偶１点、90Ｔから土偶１点、210Ｔから耳飾り１点が出土した。また起点側の杭№583+60以南の水田部では、124Ｔの河川砂礫層（Ⅸ層）から縄文土器１点が出土したが、混じり込みと考える。150Ｔでは硯が出土したが、年代は不明である。204Ｔの旧耕作土中からは、縄文土器と考える細片が１点出土している。

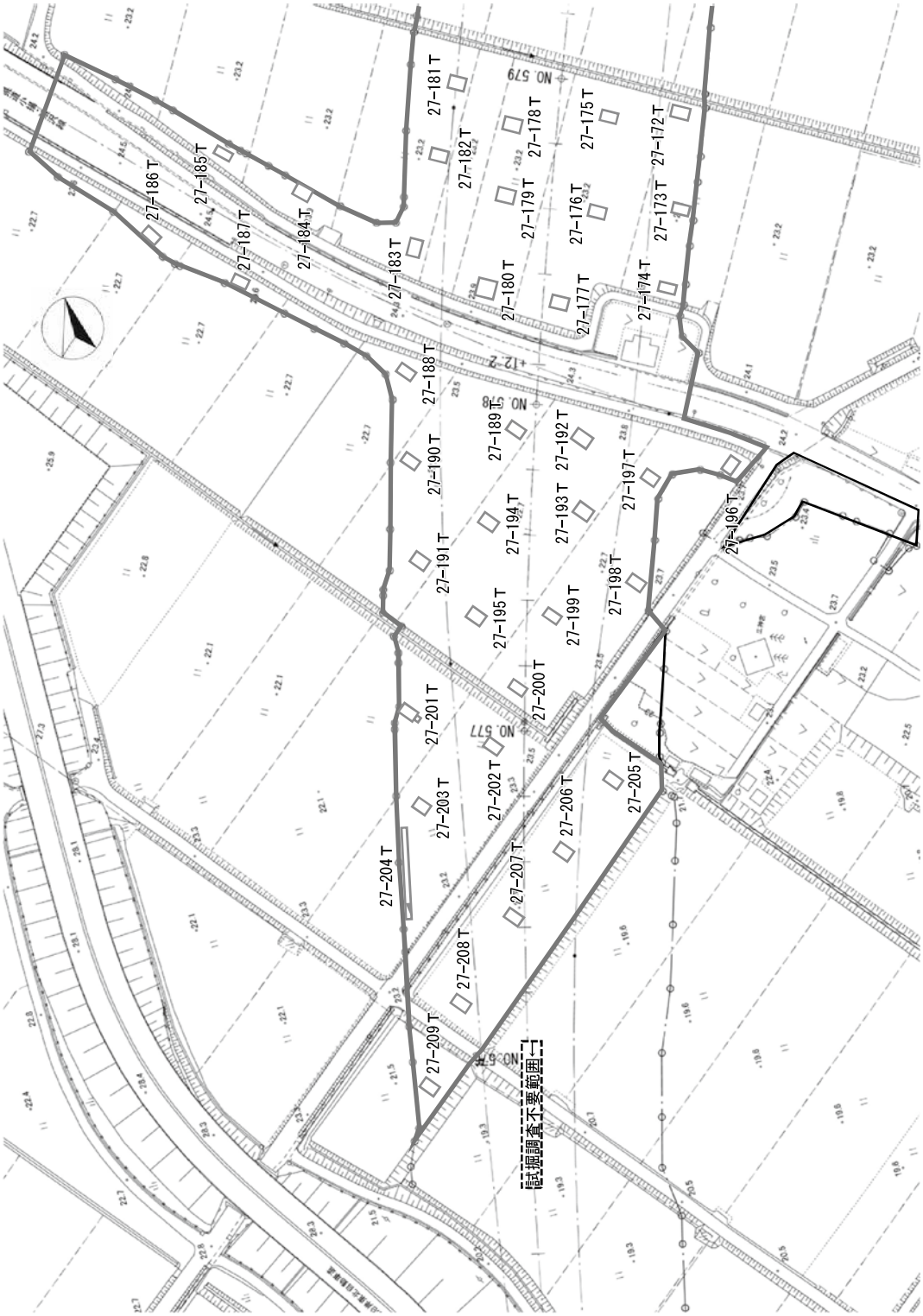
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、杭№594+80以北のトレンチから、縄文時代の遺物が多量に出土し、また杭№596+80～597+40間では当該期の遺構を検出した。近接する周知遺跡である上野遺跡の範囲が拡がっているものと考える。周辺は未伐採の雑木が多く、また今年度の調査は部分的であったことから、今後の調査でさらに

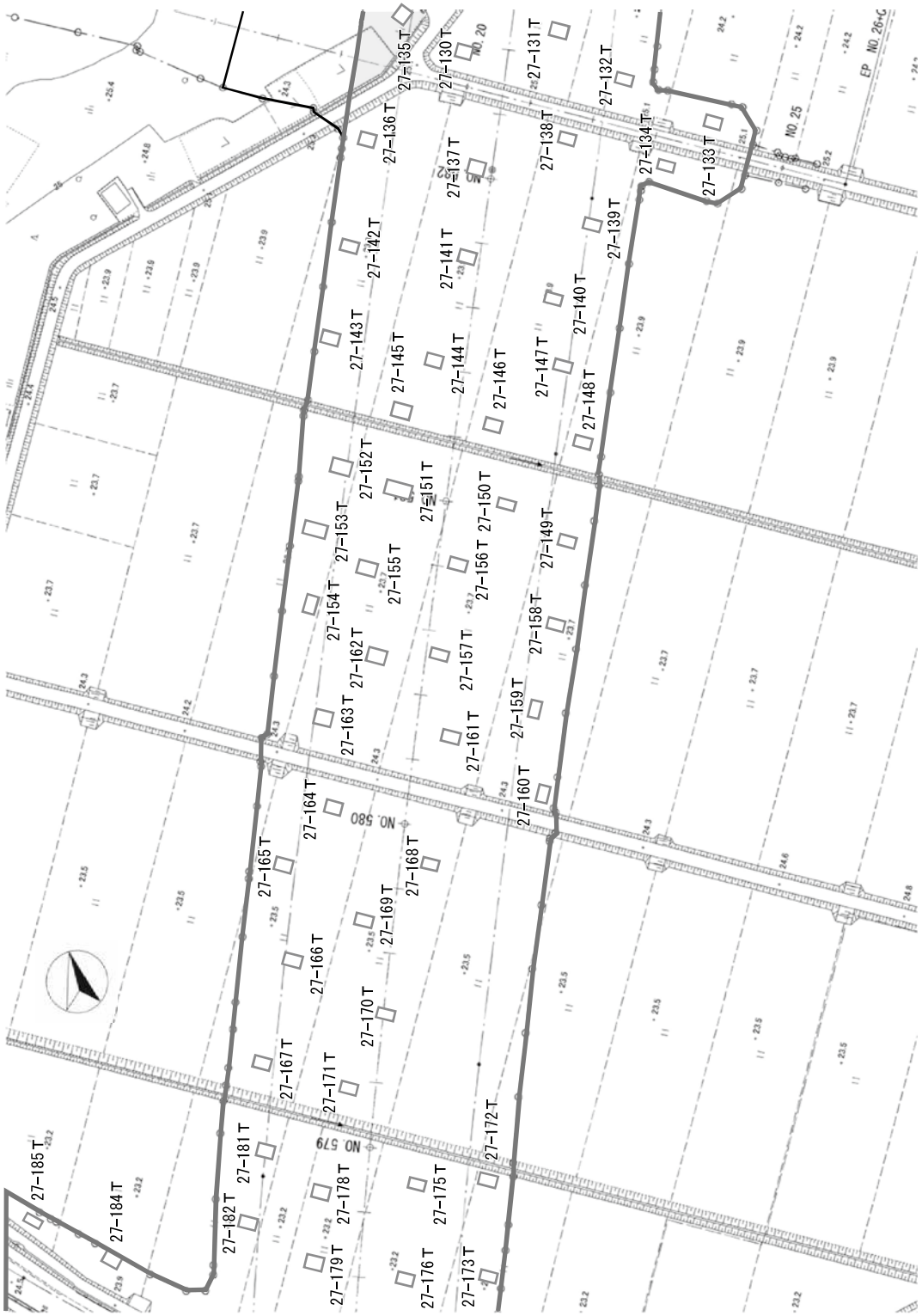
広範囲に遺構・遺物が検出できる可能性がある。よって本調査対象範囲は平成28年度以降の調査で決定することとし、雑木が多く存在する範囲の杭№590+80～598+60間全体を判断保留範囲とする。また杭№582+60付近の135Ｔ周辺も、西側の未調査区の結果で判断する必要があることから、判断保留範囲とする。今回の対象範囲の内、上記の範囲以外でも中世以前の遺物は出土しているが、全て原位置を保っていない遺物と考える。よって本発掘調査は不要とする。



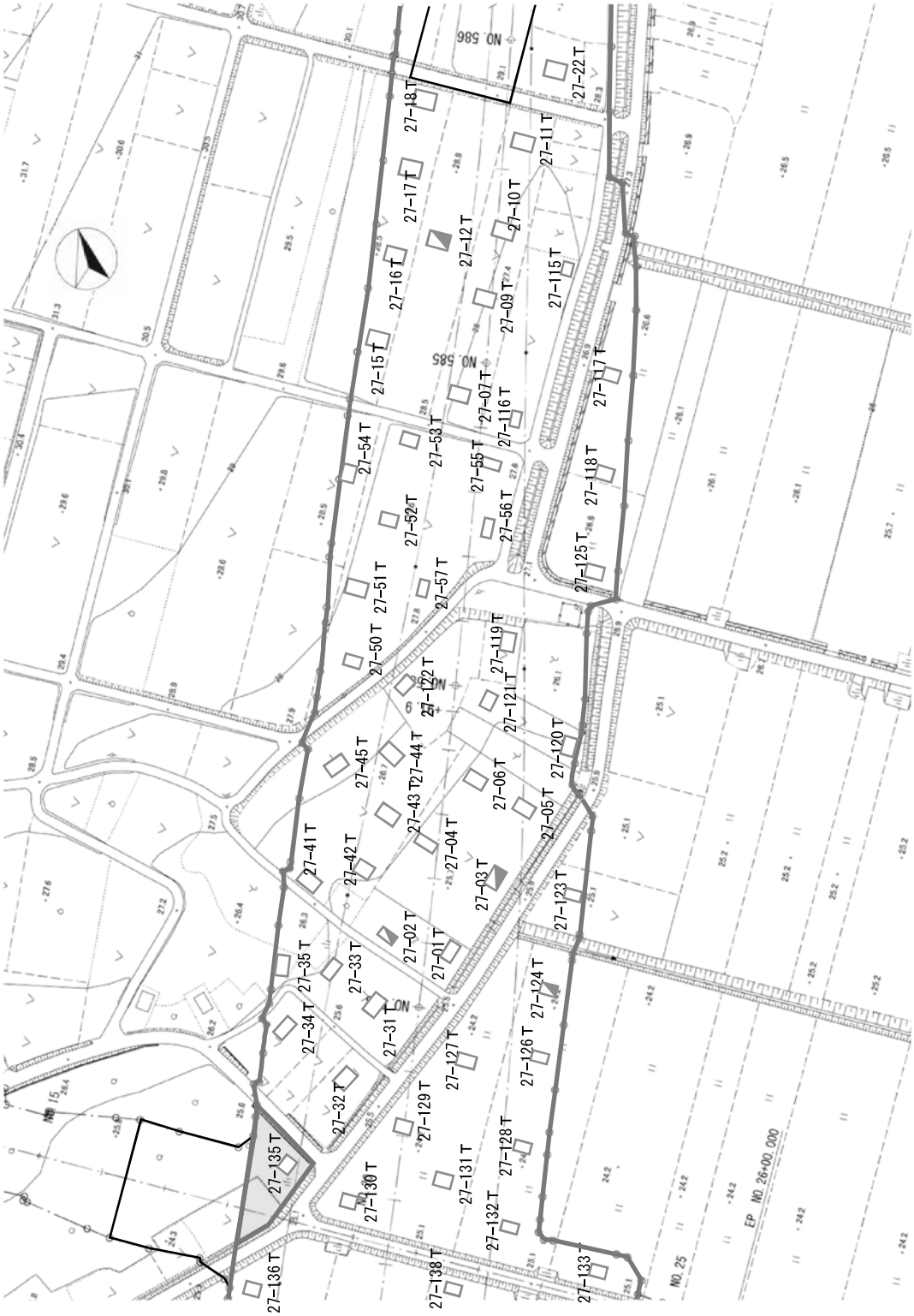
第１図　位置図（１：50,000）　（国土地理院「勝木」1:50,000原図 平成元年発行）



第２－１図　トレンチ位置図（１：2,000）

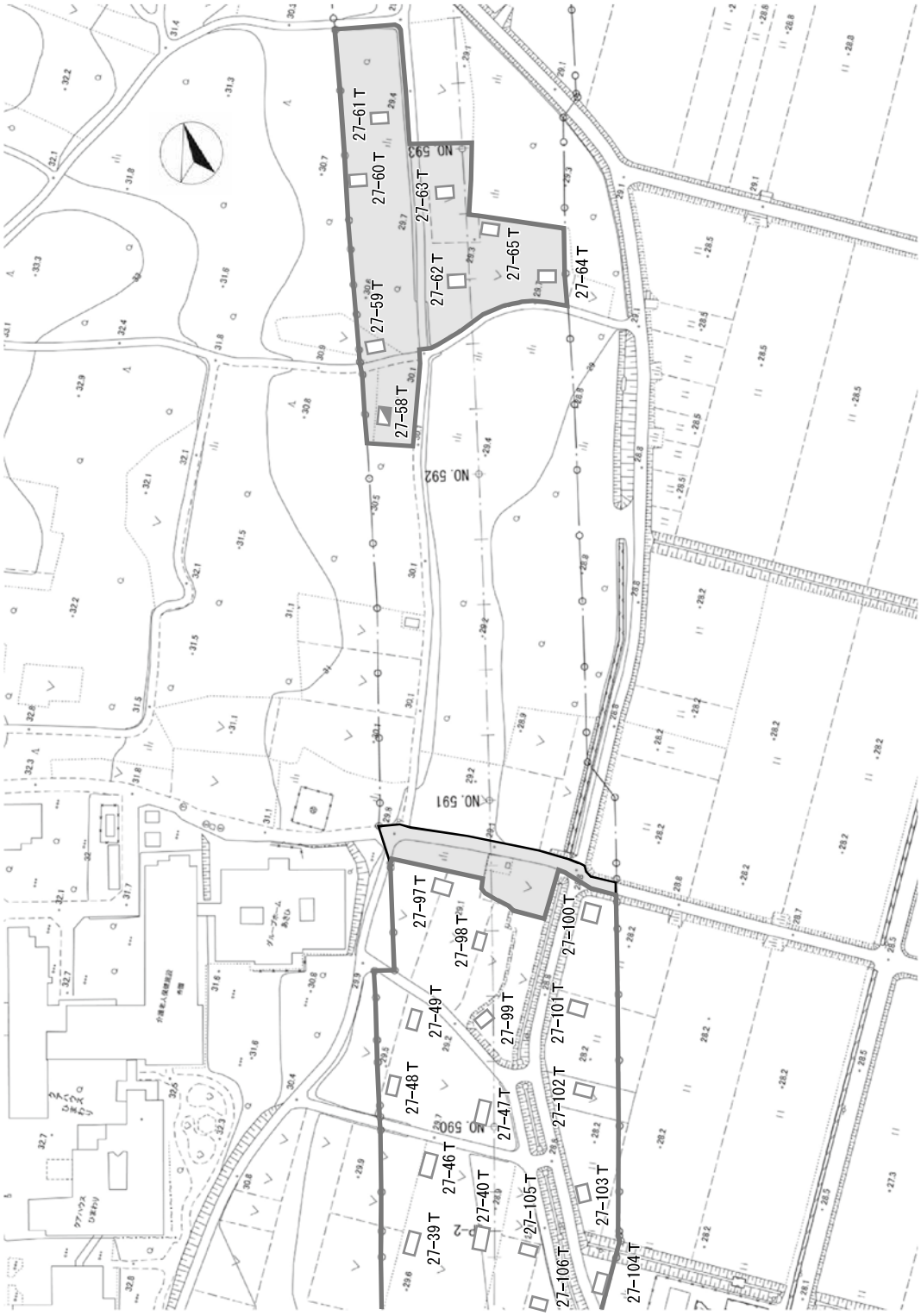


第２－２図　トレンチ位置図（１：2,000）

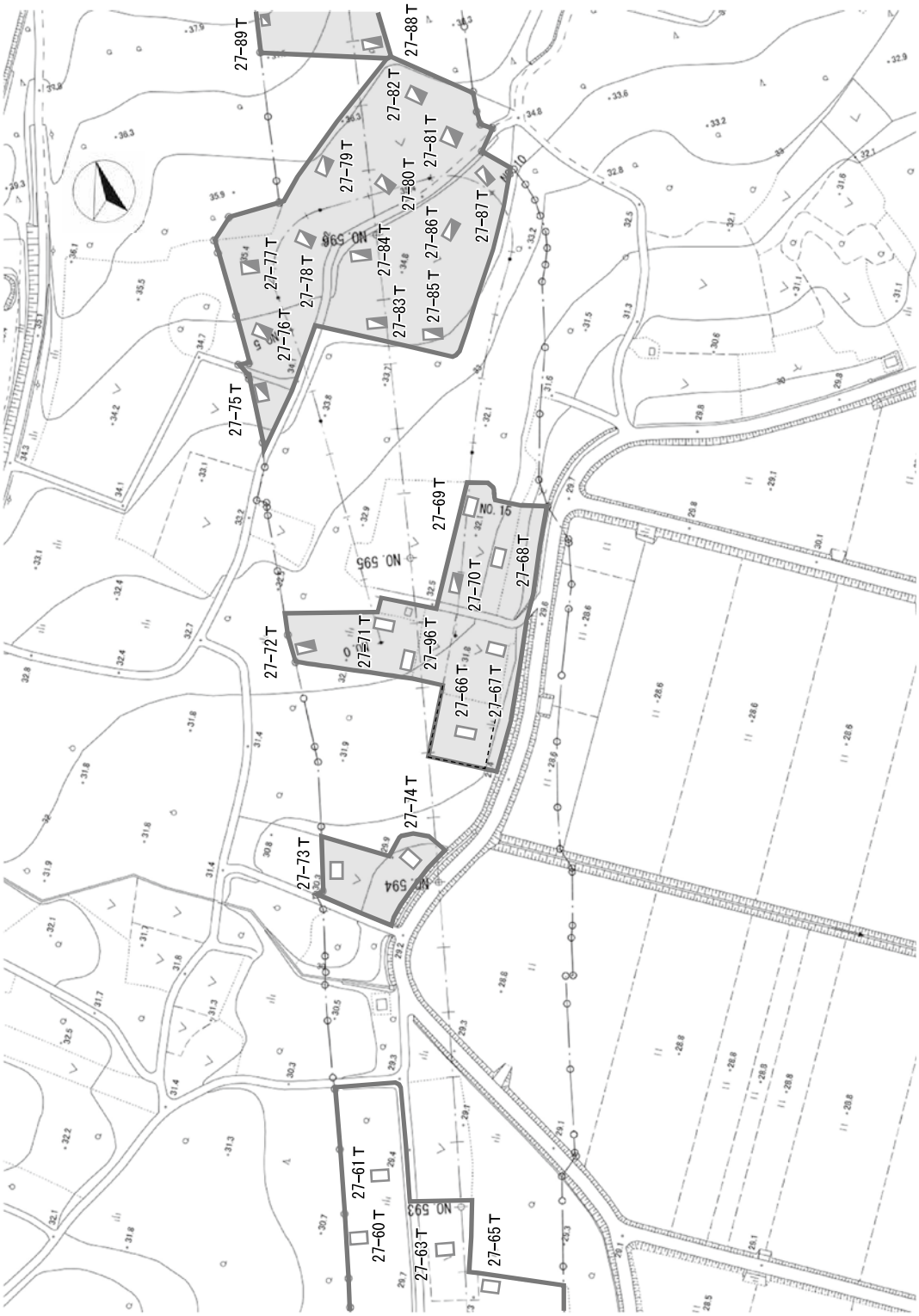


第２－３図　トレンチ位置図（１：2,000）

第２－４図　トレンチ位置図（１：2,000）

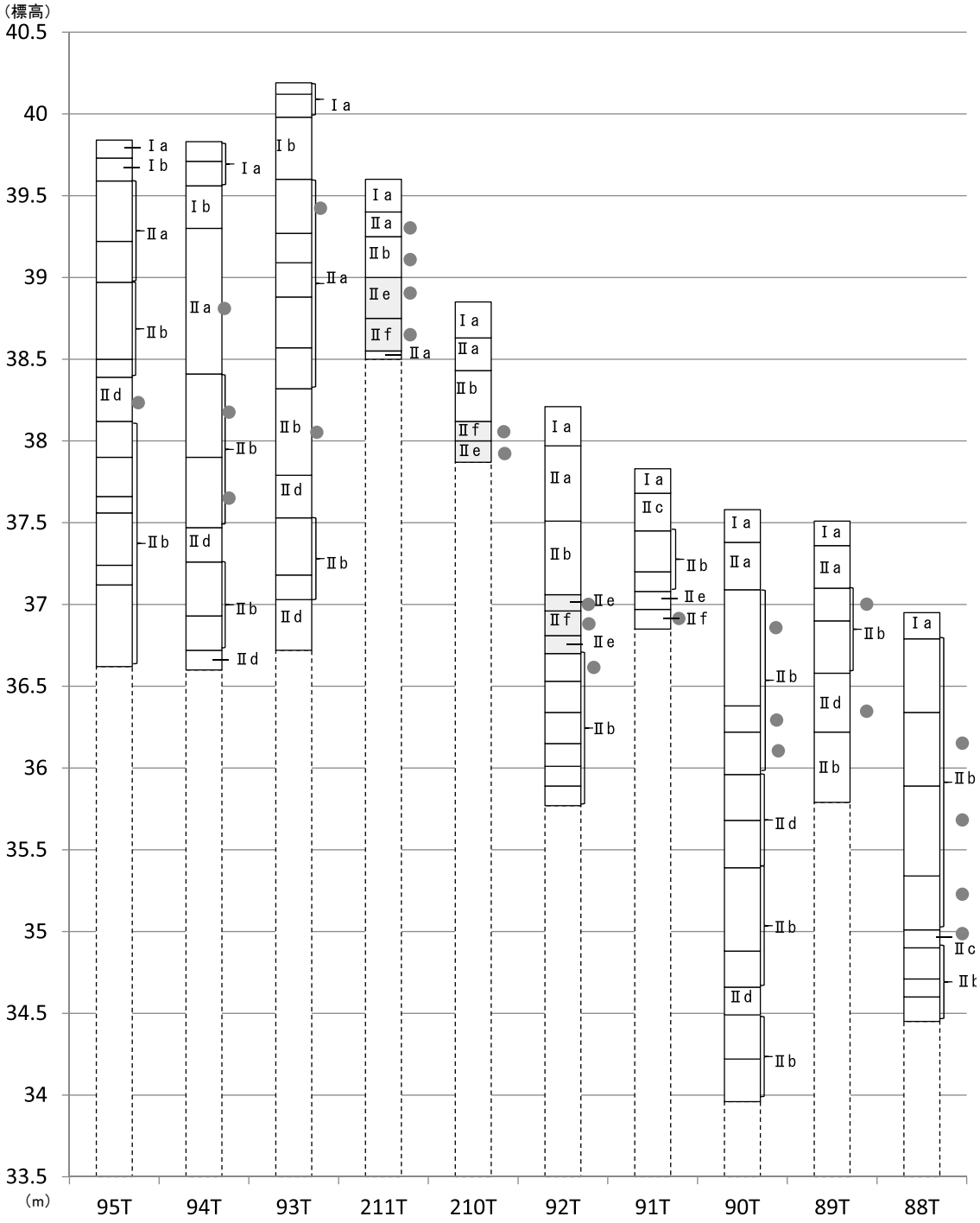


第２－５図　トレンチ位置図（１：2,000）



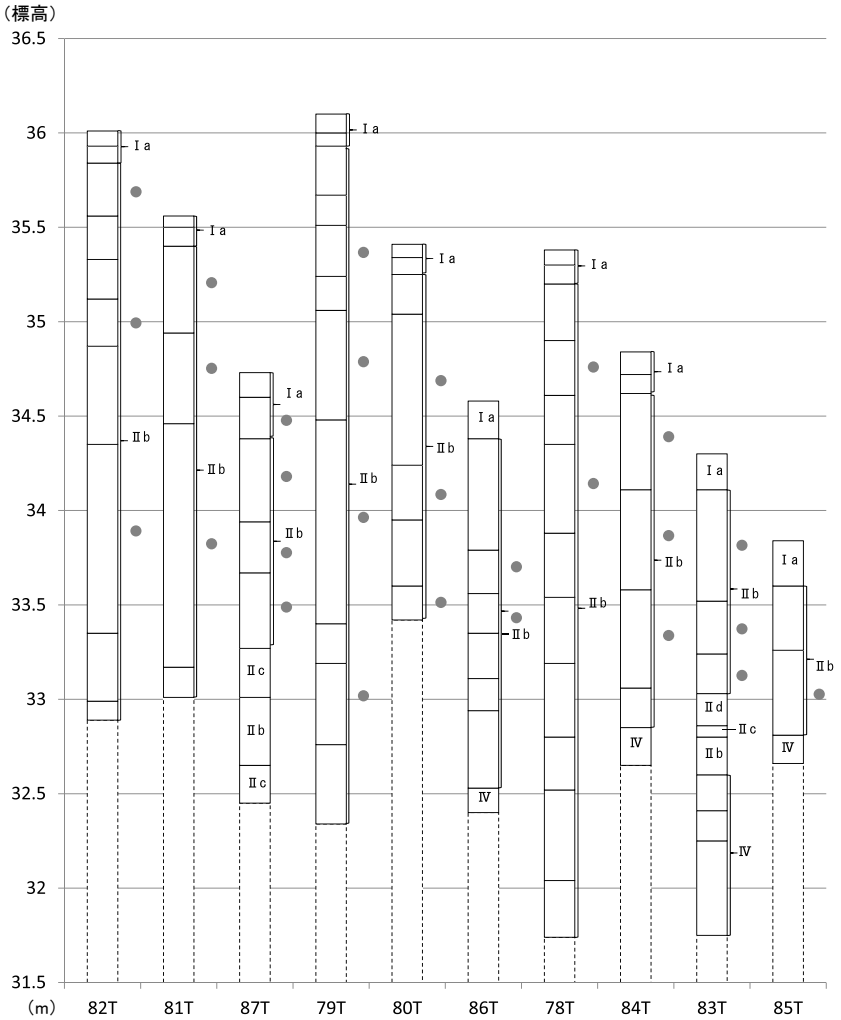
第２－６図　トレンチ位置図（１：2,000）

第２－７図　トレンチ位置図（１：2,000）

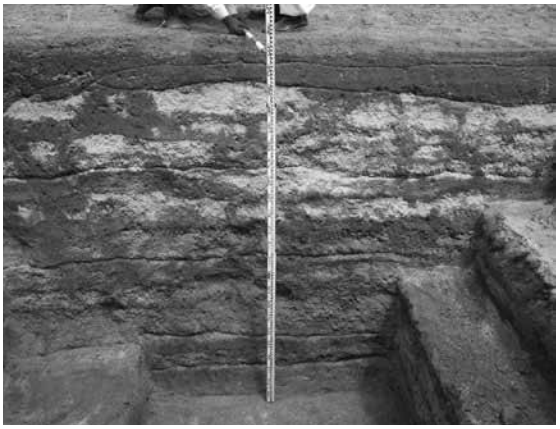


第３－１図　土層柱状図（１：40）

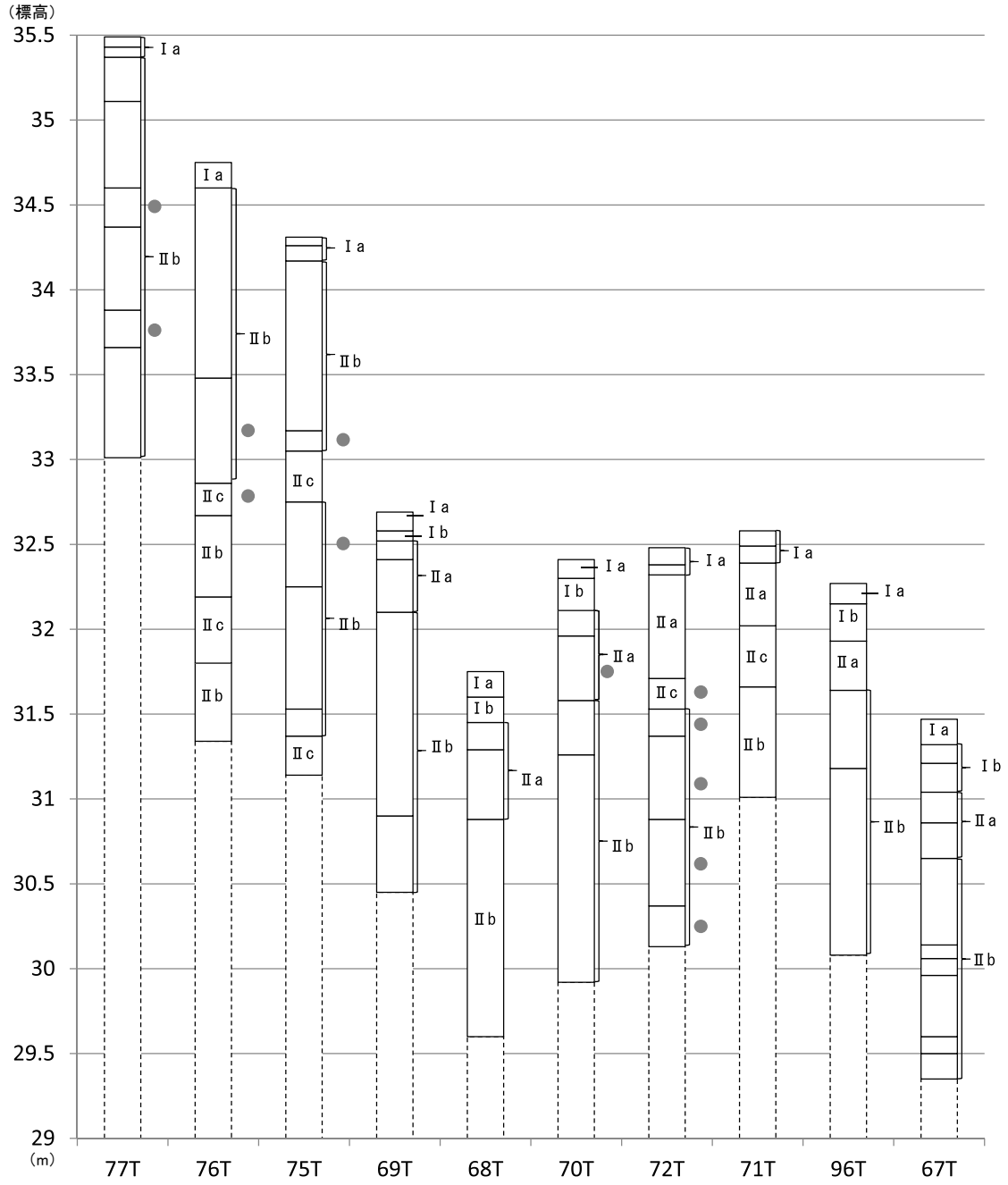
第５図　90T土層断面（北東から）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

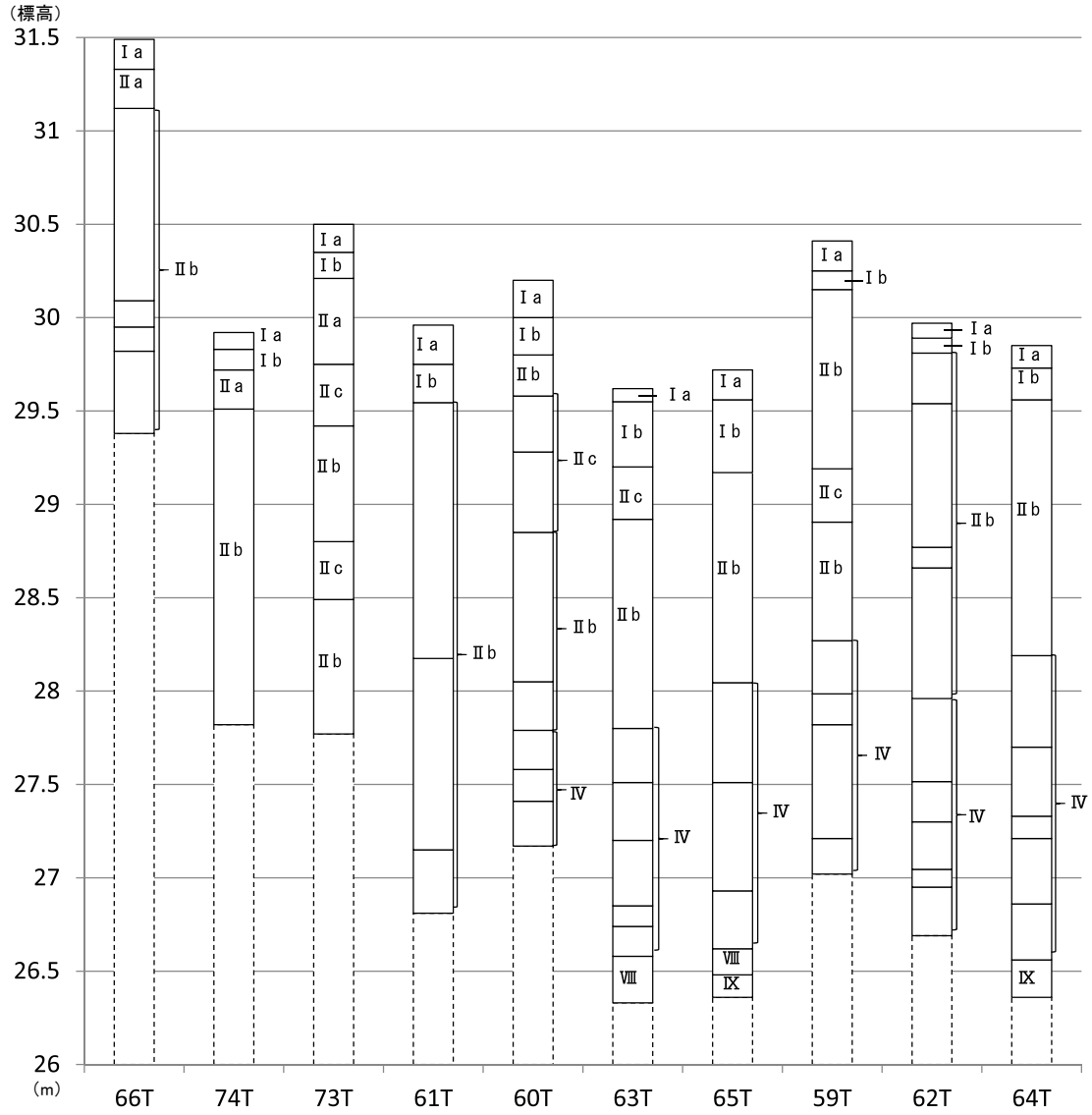


第６図　84T土層断面（北西から）



第３－３図　土層柱状図（１：40）

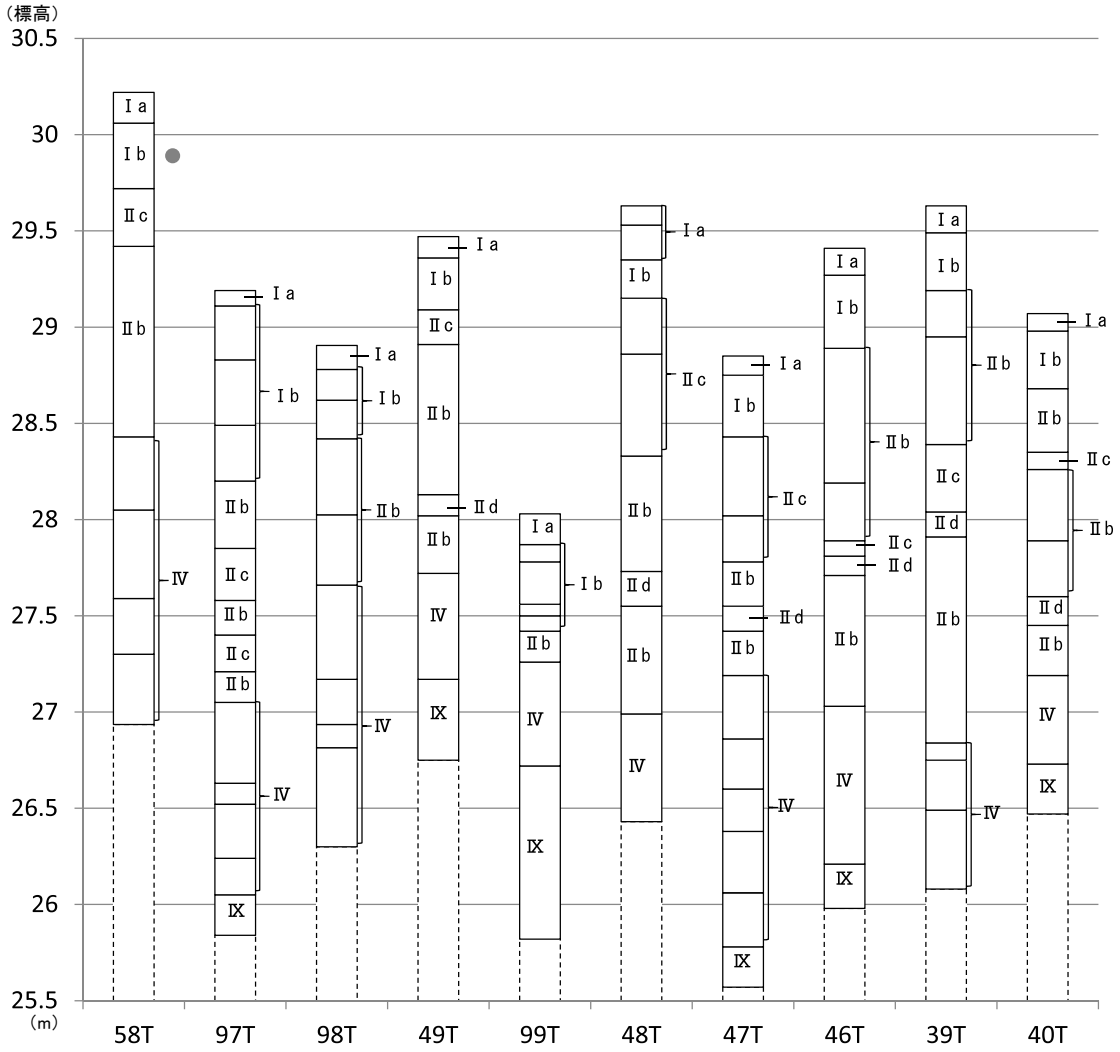
第７図　72T土層断面（北東から）



第３－４図　土層柱状図（１：40）

第８図　73T土層断面（東から）

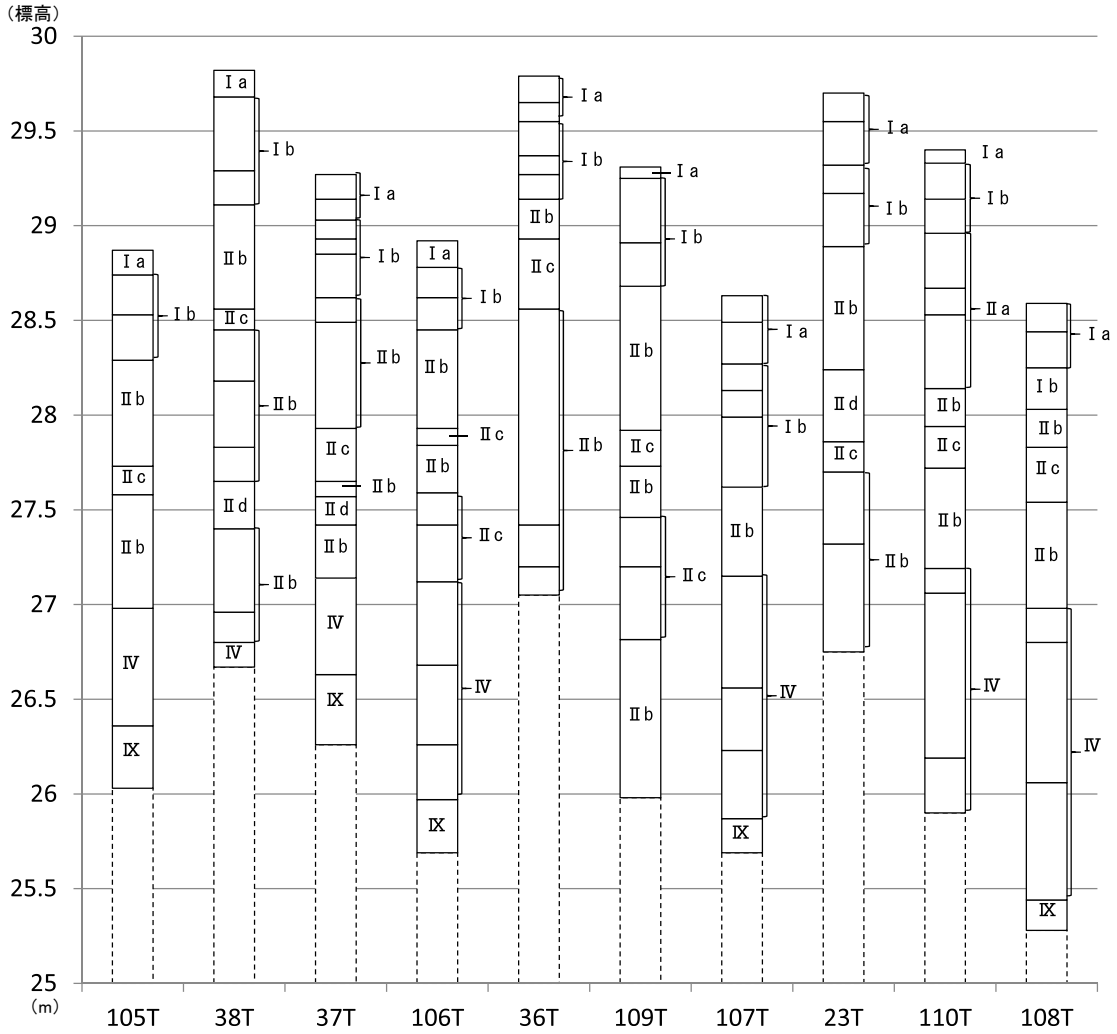
第９図　63T土層断面（南から）



第３－５図　土層柱状図（１：40）

第10図　97T土層断面（北東から）

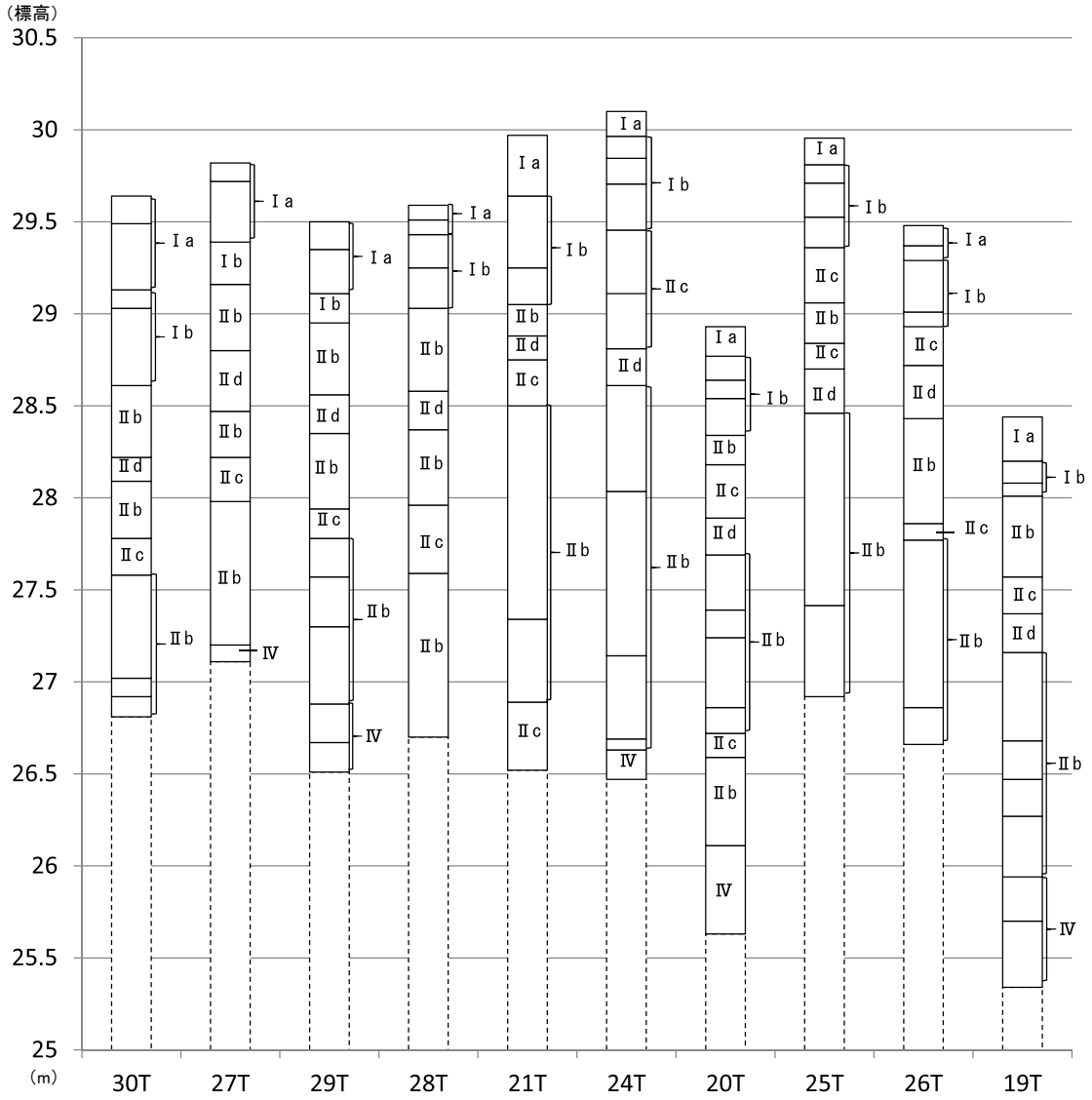
第11図　46T土層断面（北東から）



第３－６図　土層柱状図（１：40）

第12図　38T土層断面（南東から）

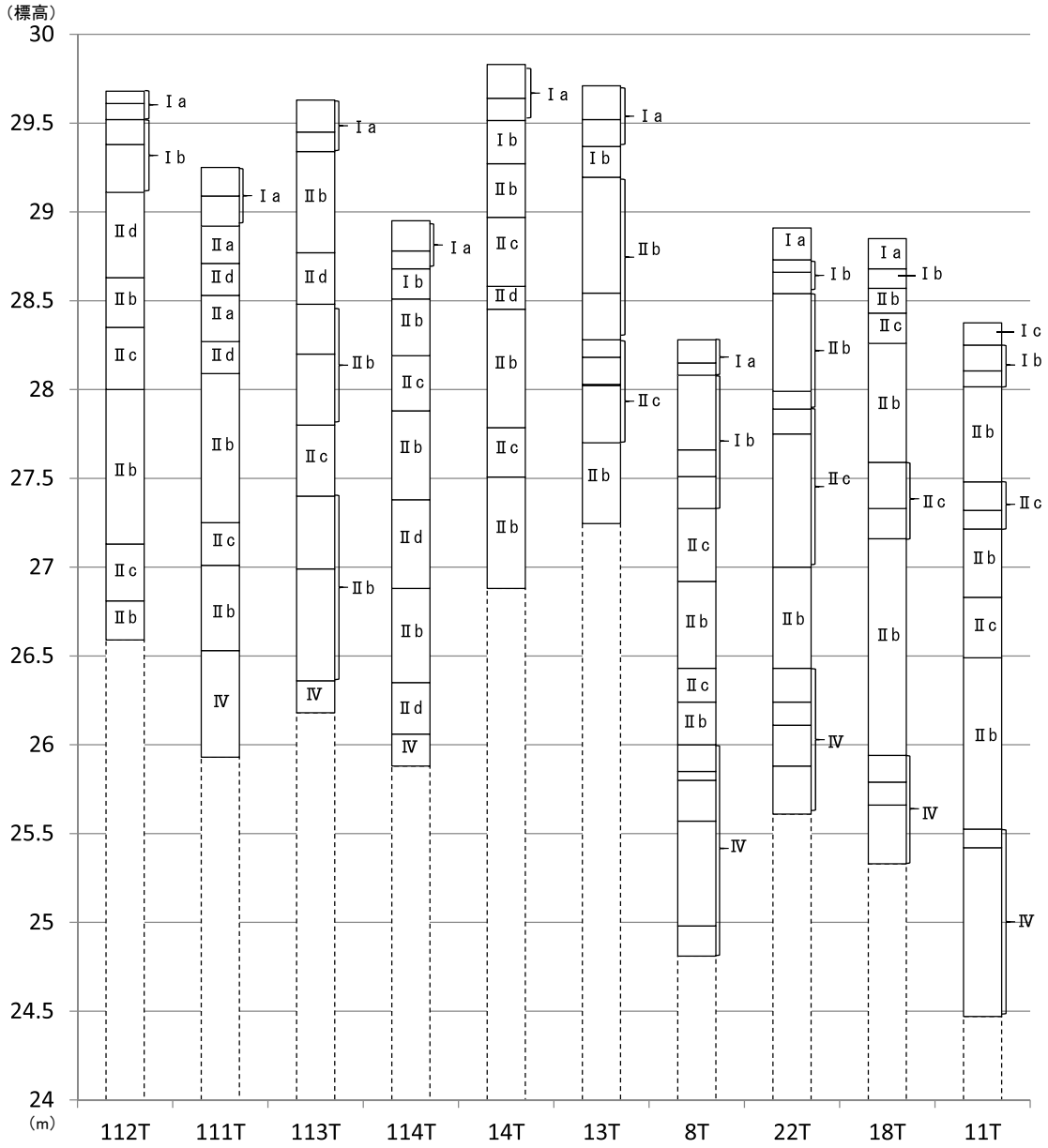
第13図　110T土層断面（西から）



第３－７図　土層柱状図（１：40）

第14図　29T土層断面（南西から）

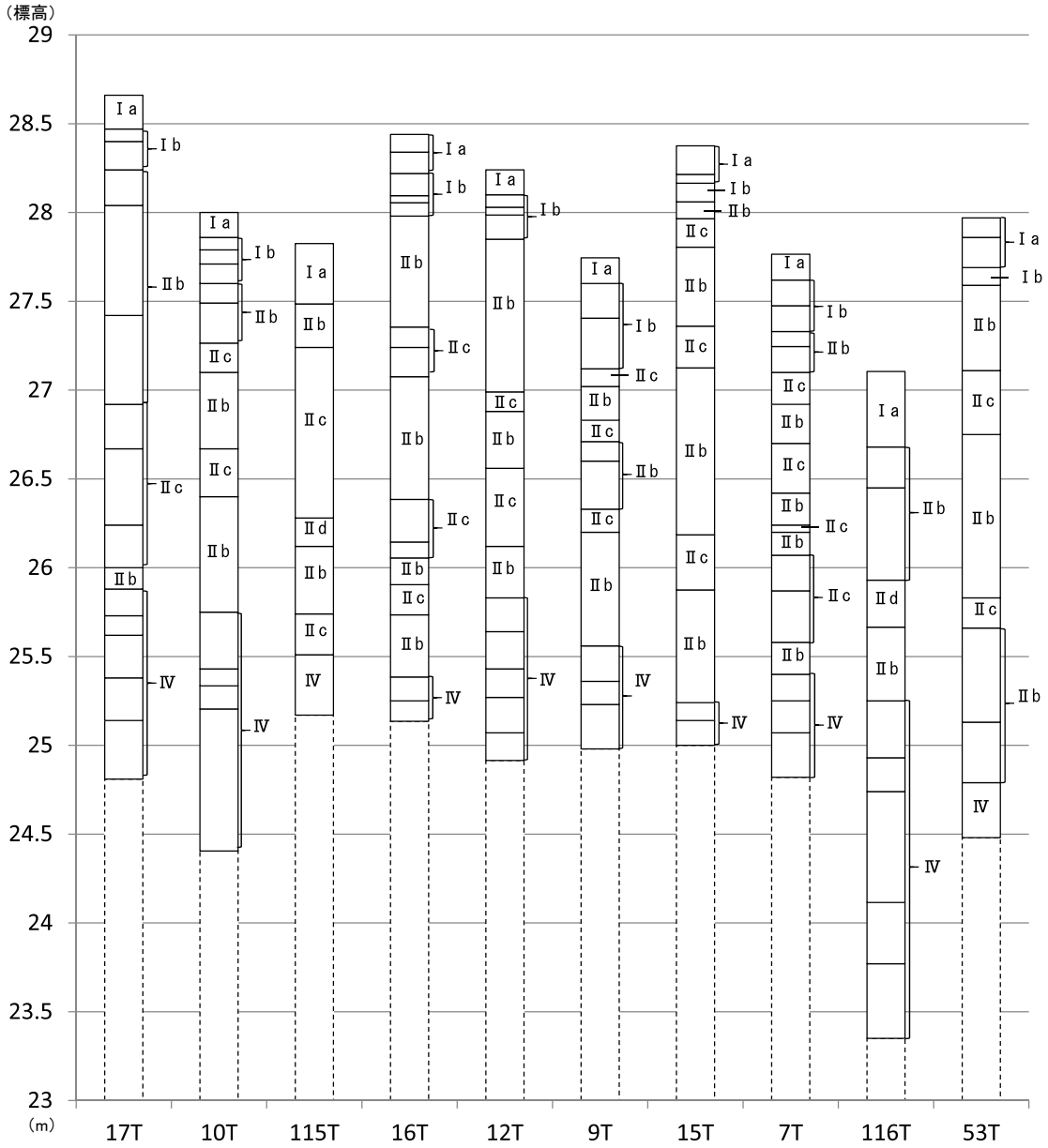
第15図　19T土層断面（北東から）



第３－８図　土層柱状図（１：40）

第16図　113T土層断面（北から）

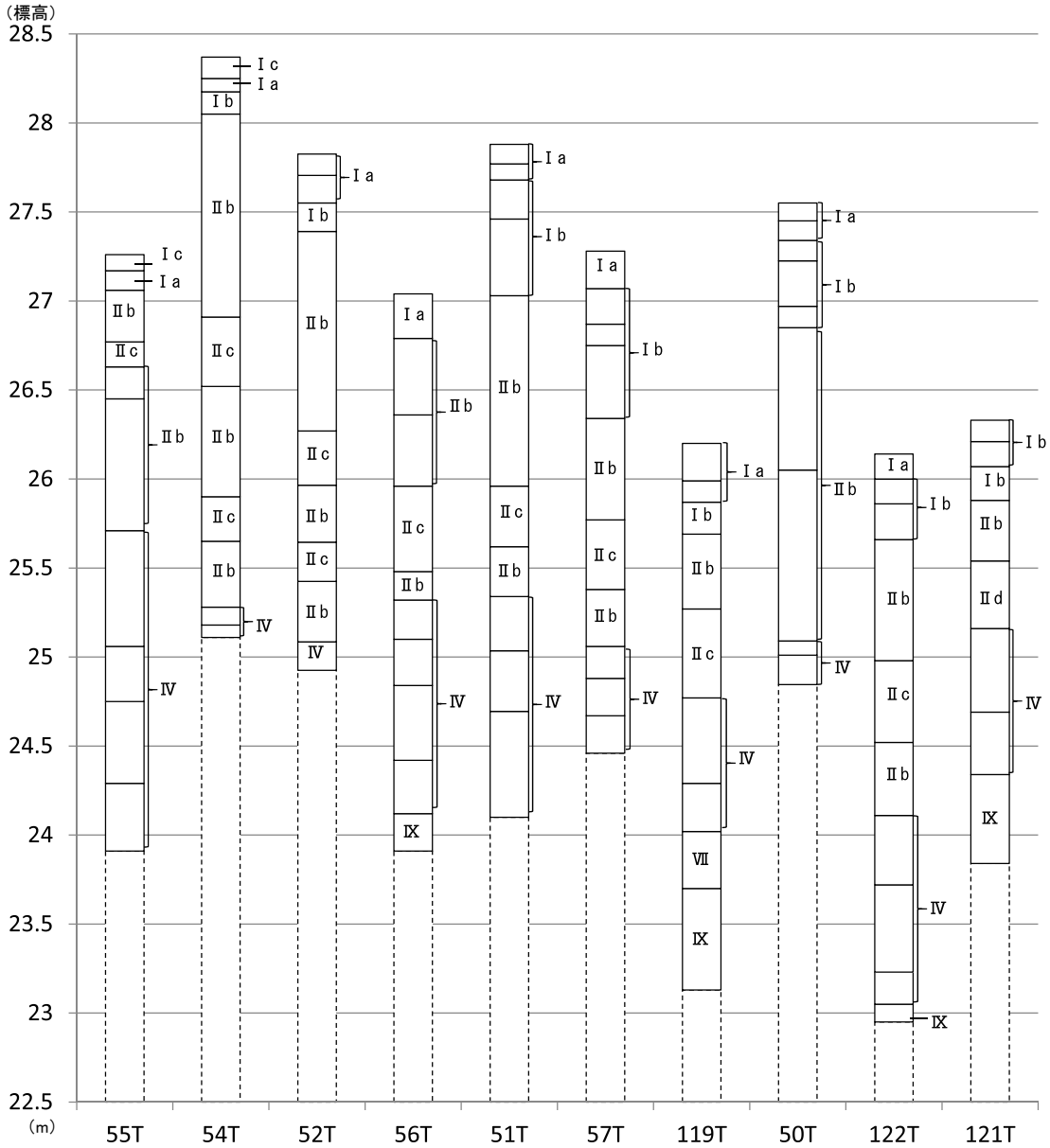
第17図　22T土層断面（南から）



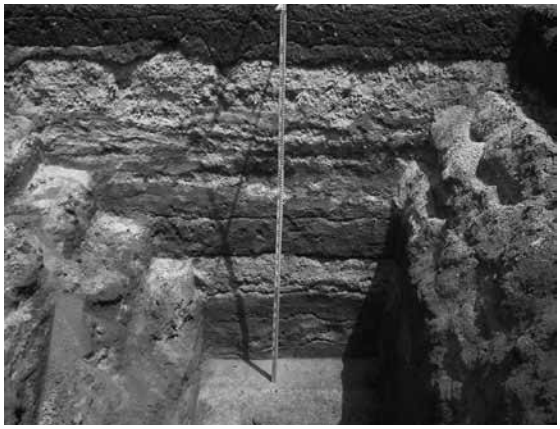
第３－９図　土層柱状図（１：40）

第18図　16T土層断面（南から）

第19図　116T土層断面（西から）

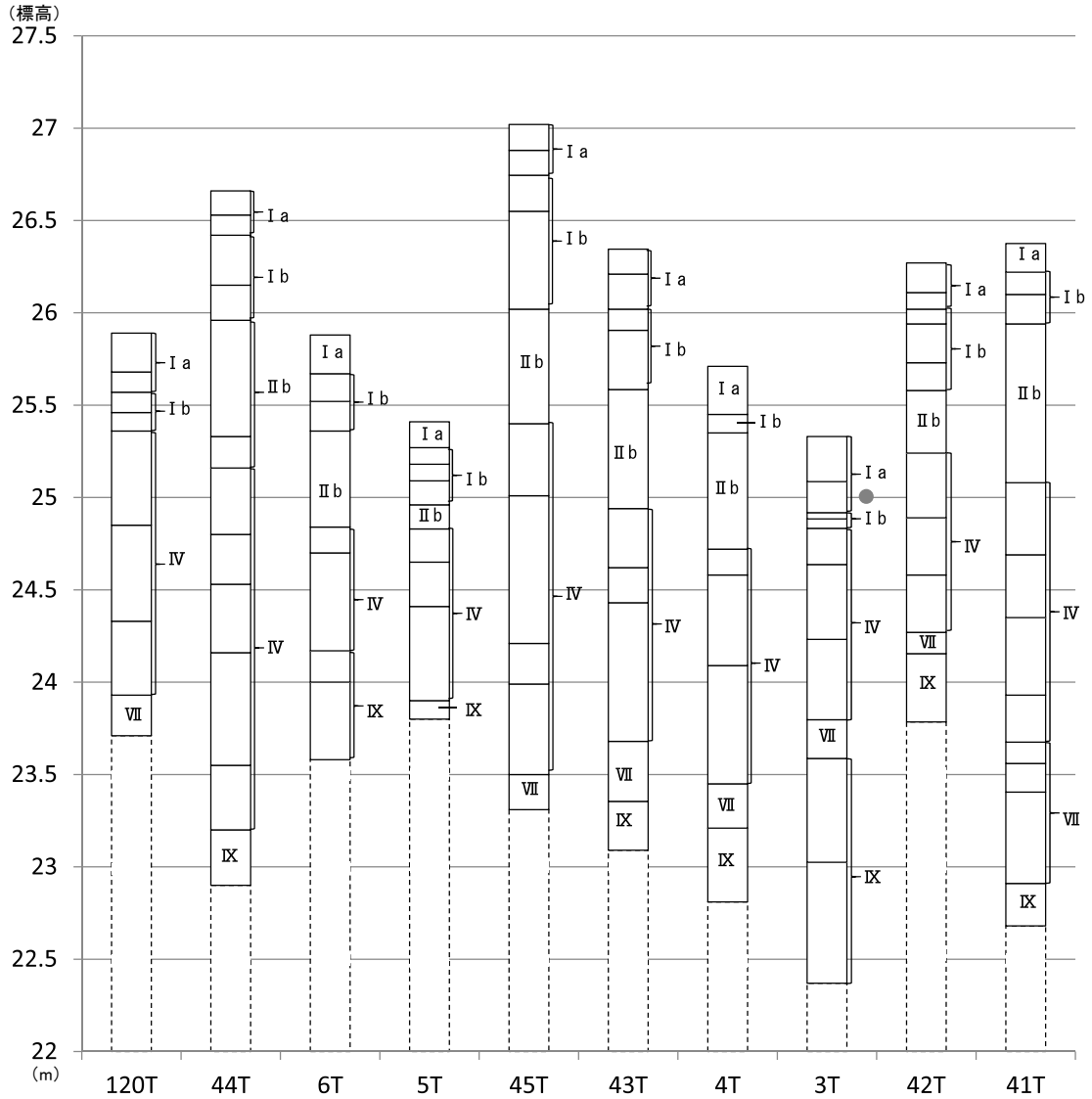


第３-10図　土層柱状図（１：40）



第20図　52T土層断面（南から）

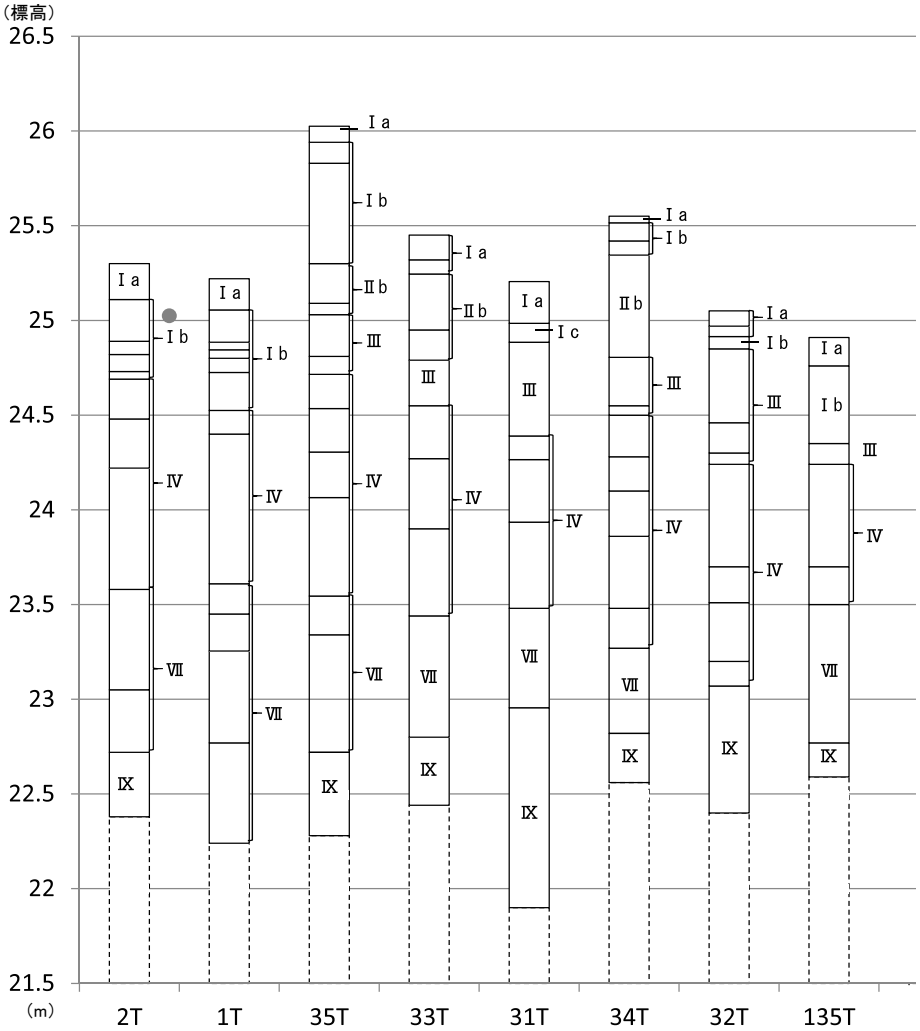
第21図　119T土層断面（西から）



第３-11図　土層柱状図（１：40）

第22図　43T土層断面（南から）

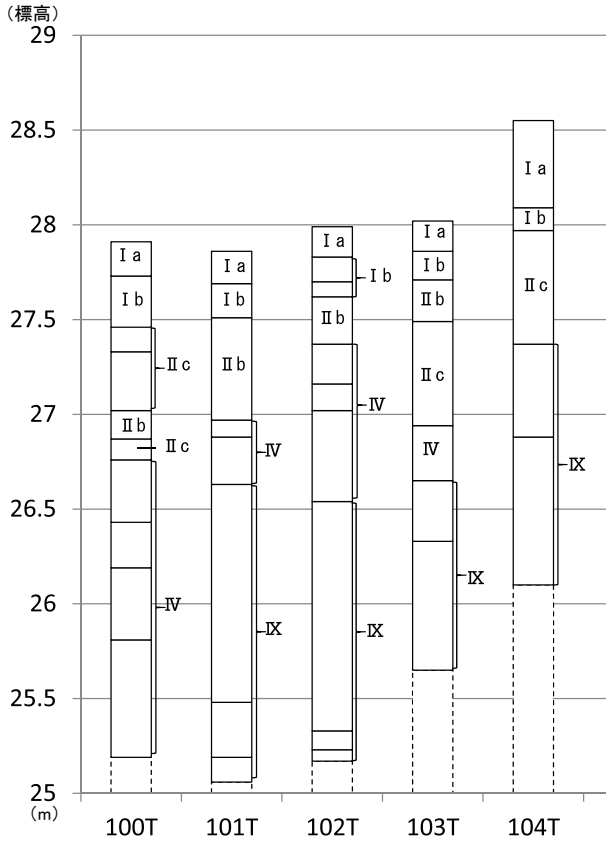
第23図　３T土層断面（西から）



第３-12図　土層柱状図（１：40）

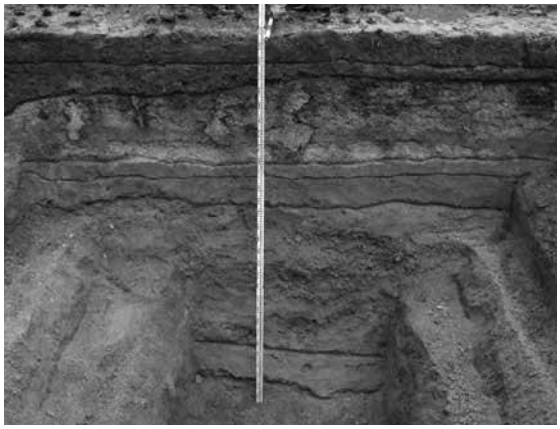
第24図　35T土層断面（東から）

第25図　135T土層断面（東から）



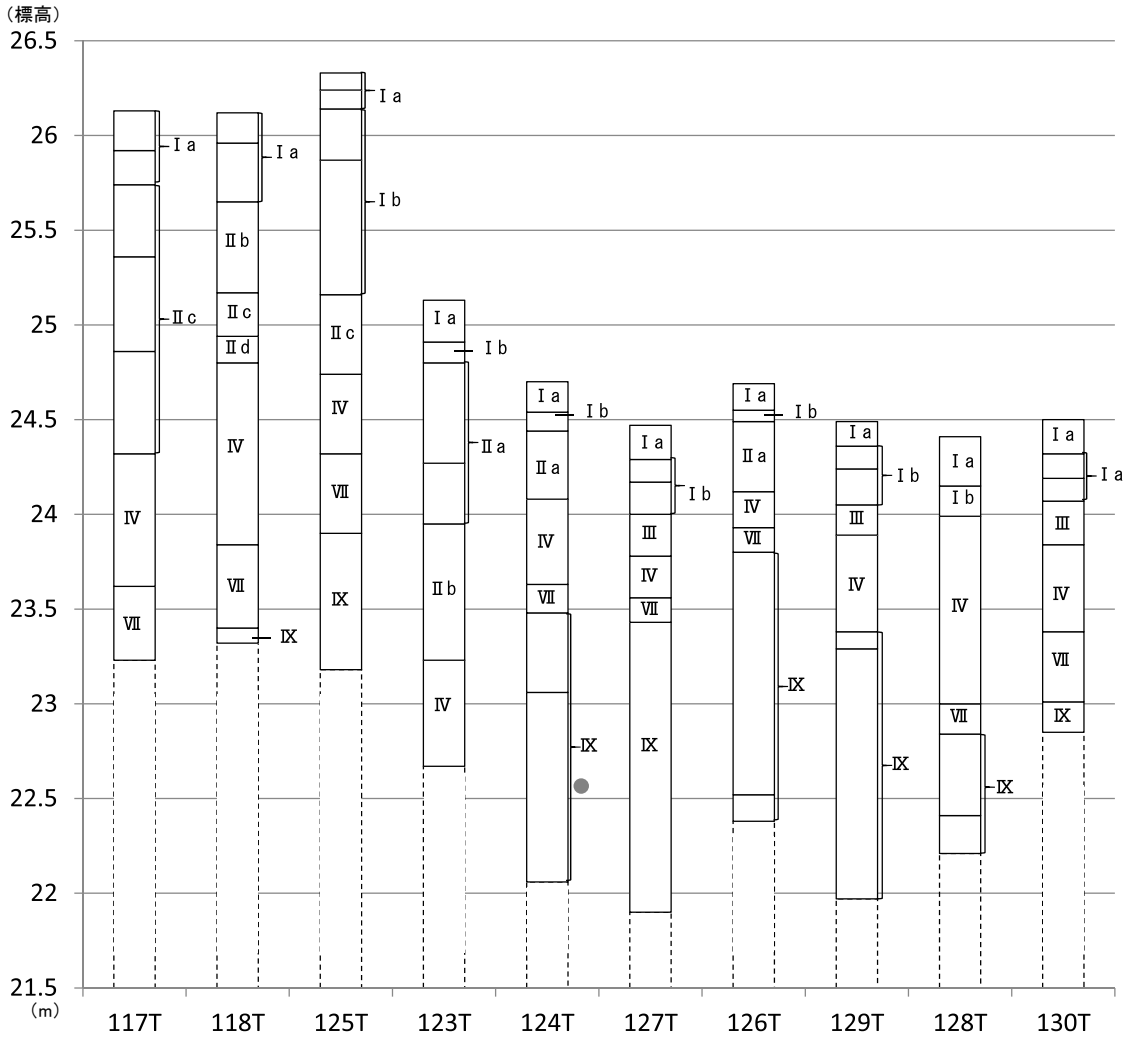
第３-13図　土層柱状図（１：40）

第26図　100～104T付近全景（北から）



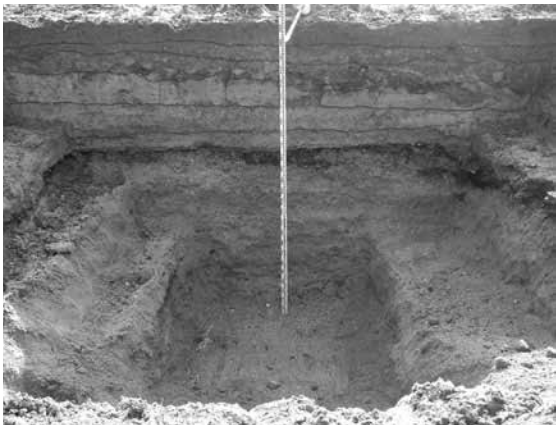
第27図　101T土層断面（南から）

第28図　104T土層断面（西から）

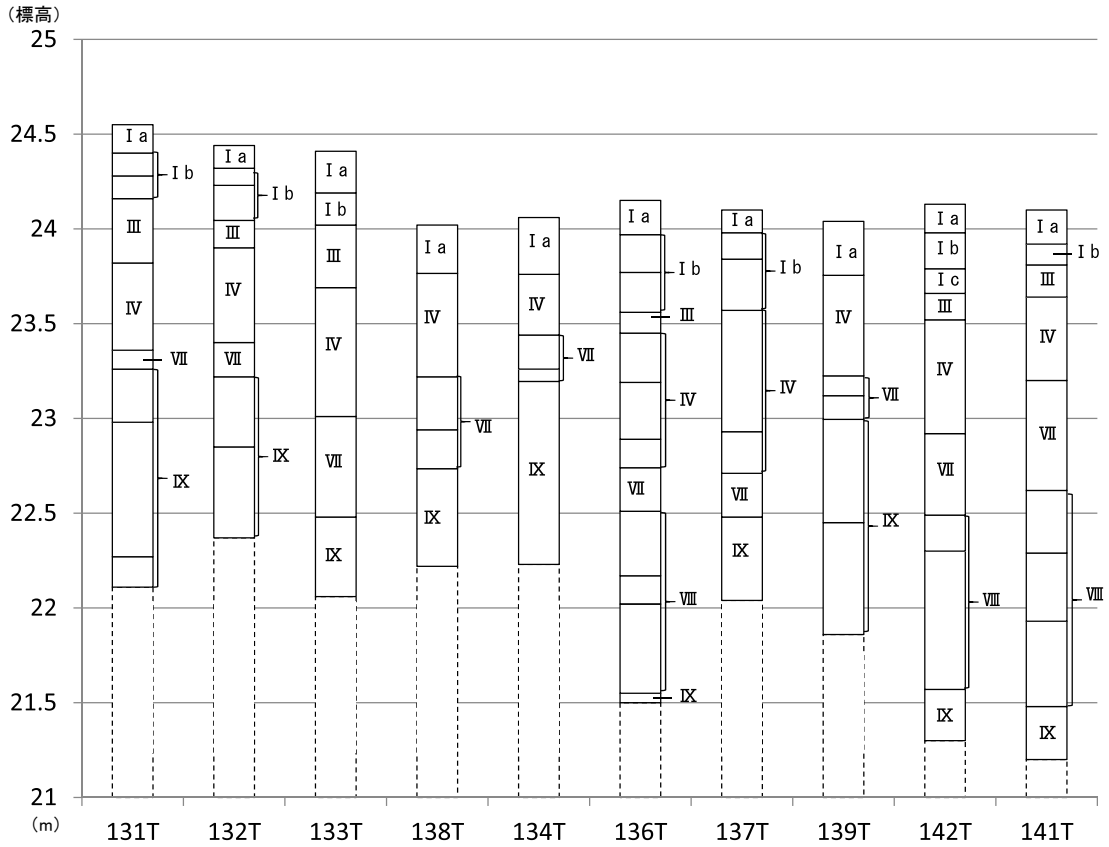


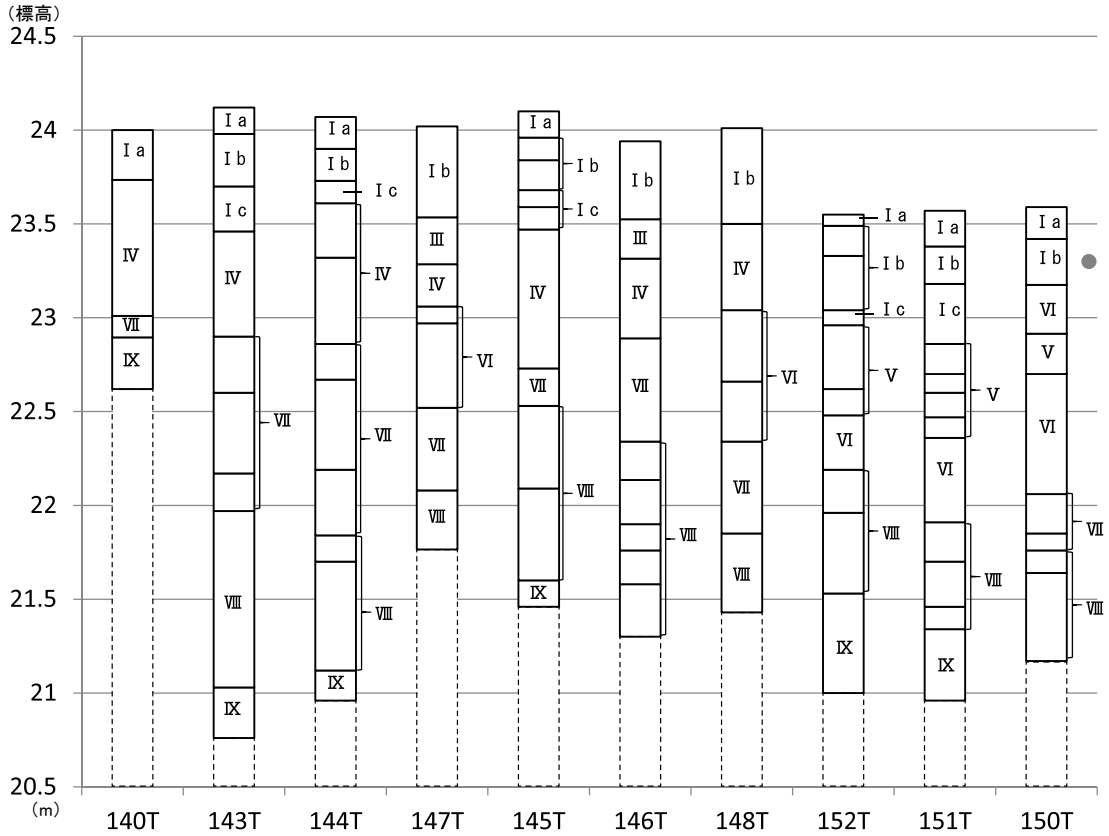
第３-14図　土層柱状図（１：40）

第29図　118T土層断面（北から）

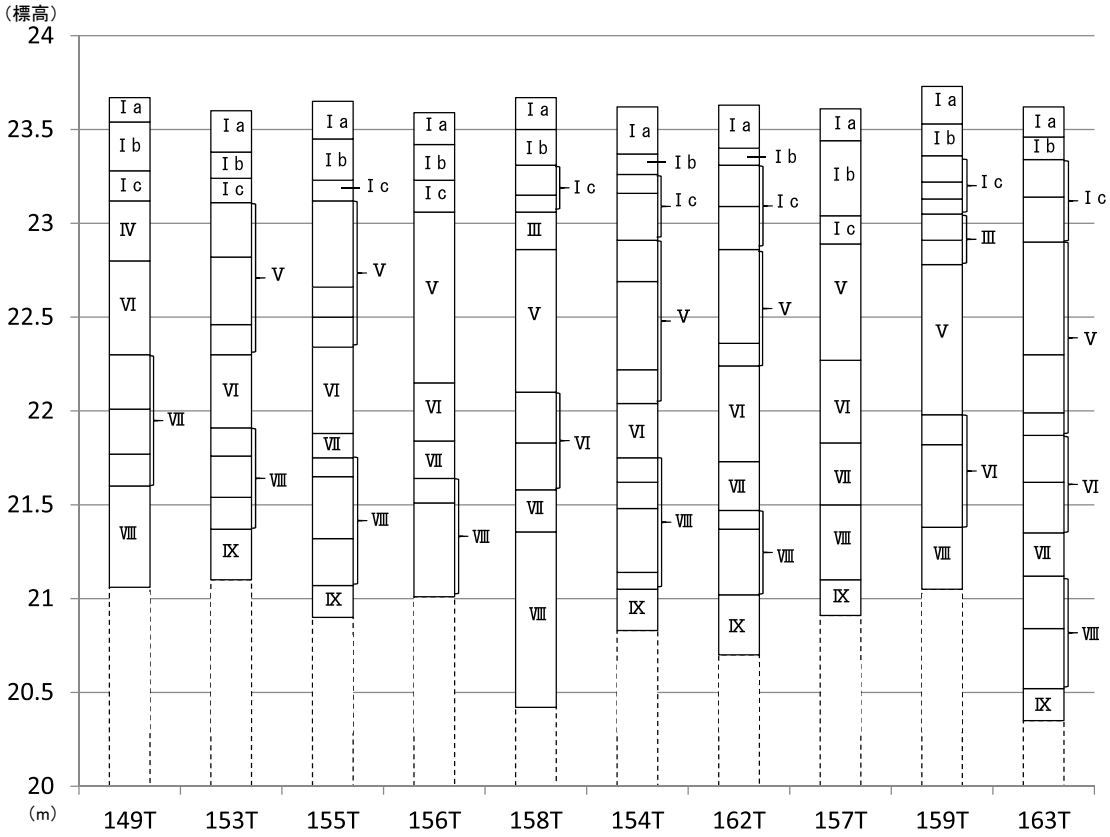


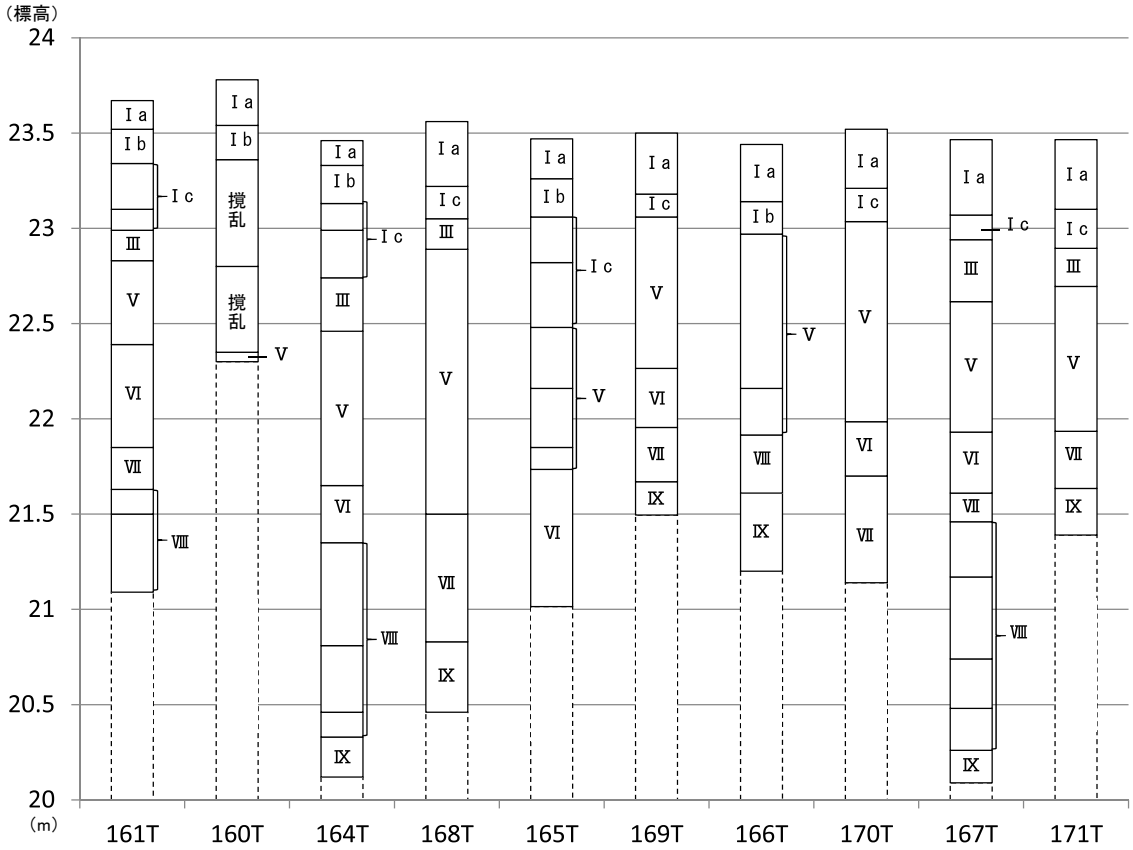
第30図　127T土層断面（北から）



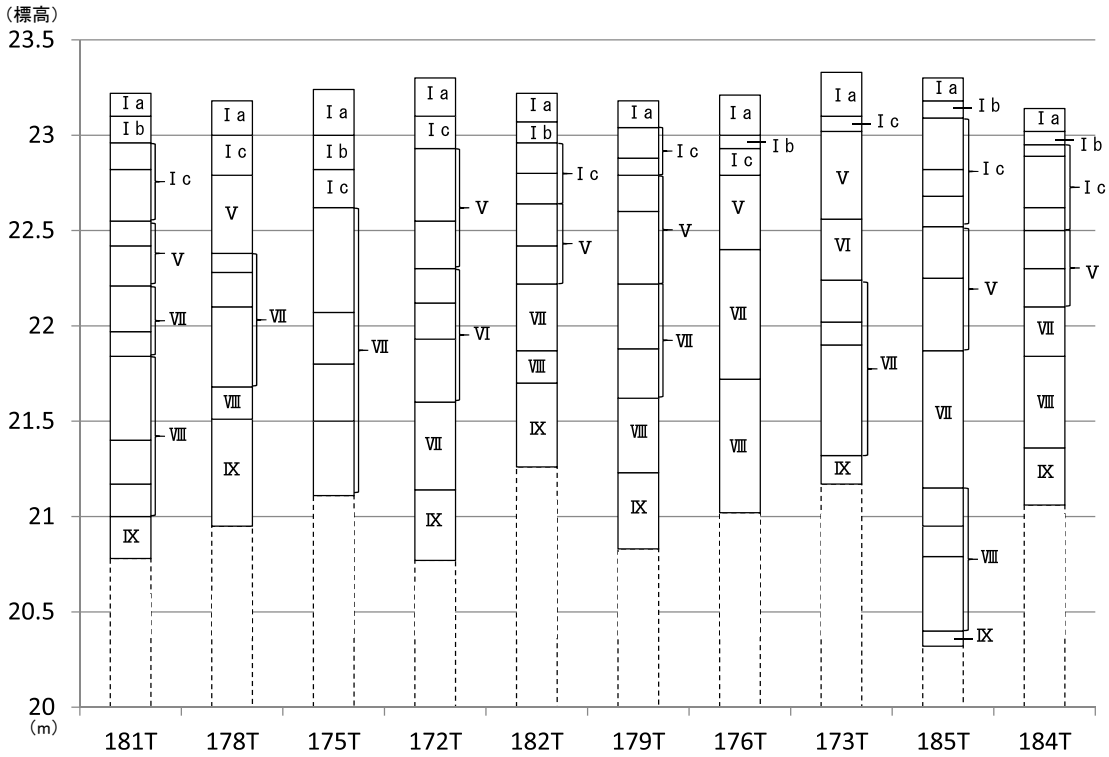


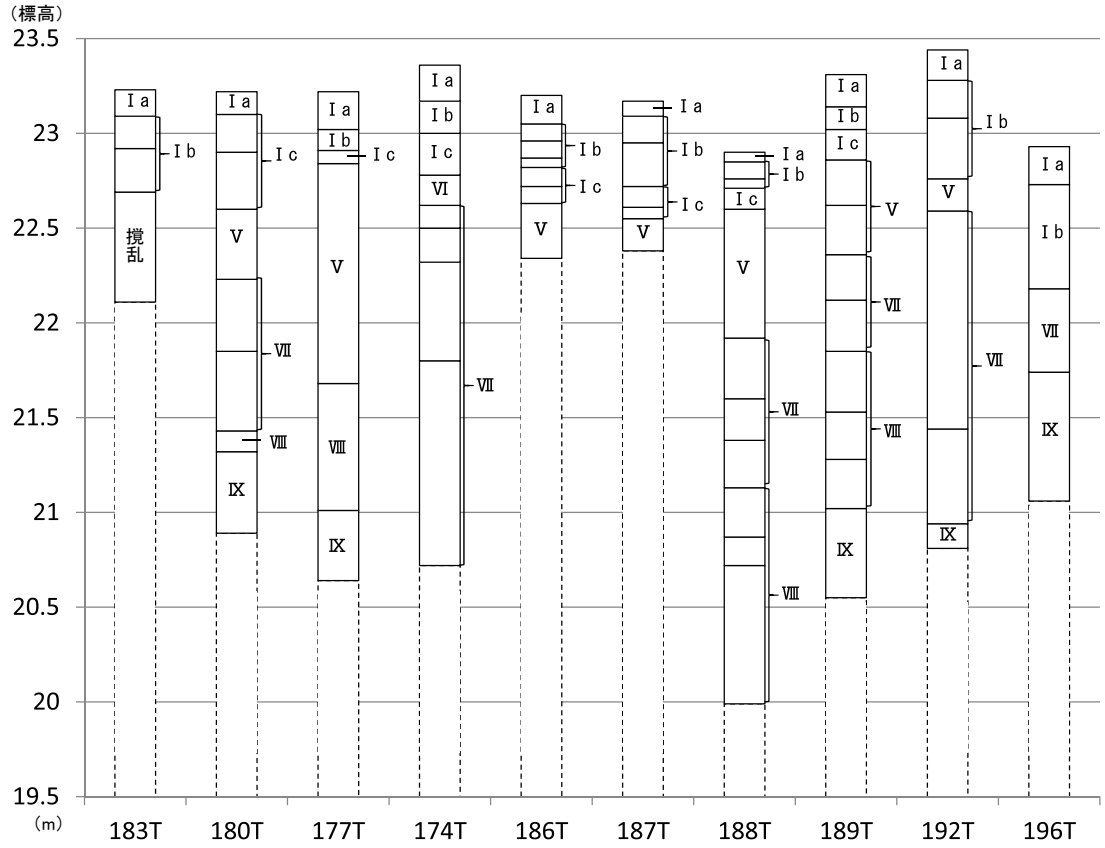
第３-15図　土層柱状図（１：40）



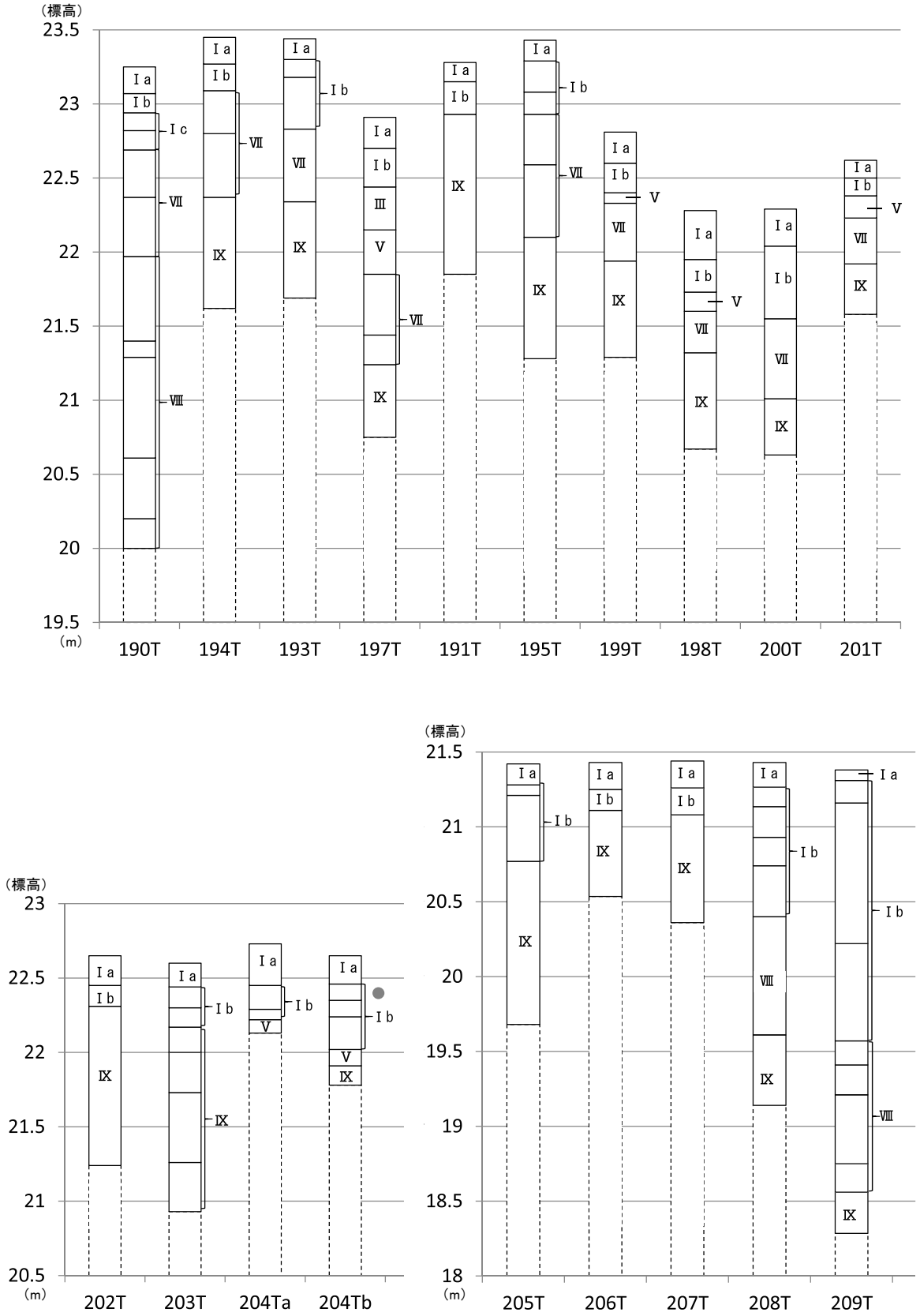


第３-16図　土層柱状図（１：40）





第３-17図　土層柱状図（１：40）



第３-18図　土層柱状図（１：40）

第31図　136T土層断面（北から）

第32図　147T土層断面（北から）

第33図　154T土層断面（西から）

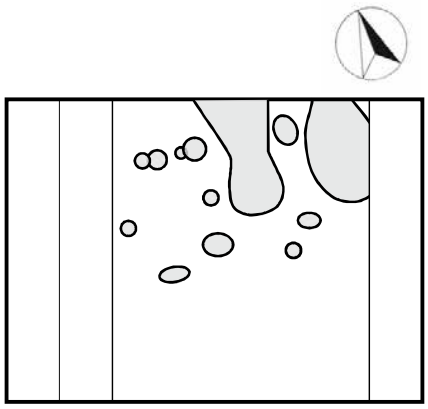
第34図　169T土層断面（北から）

第35図　176T土層断面（北から）

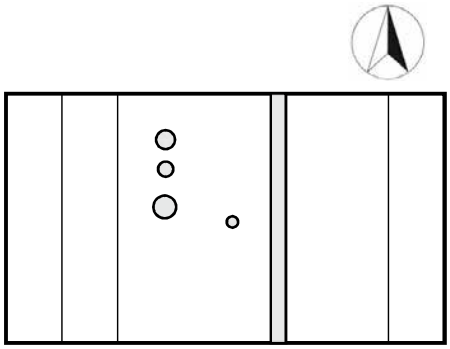
第36図　189T土層断面（北から）

第37図　200T土層断面（北から）

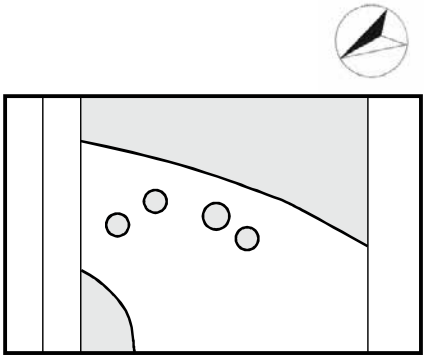
第38図　208T土層断面（北から）



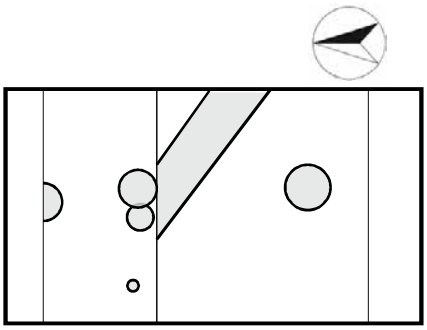
H27-91T



H27-92T

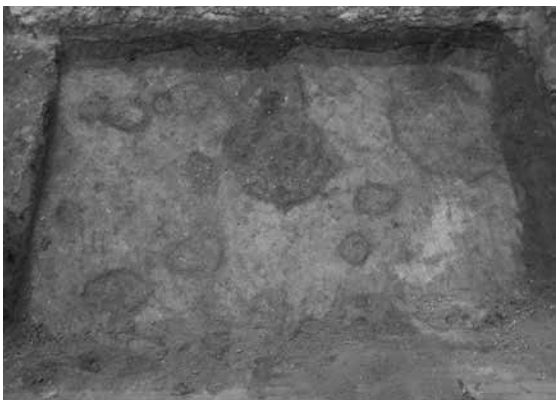


H27-210T



H27-211T

第４図　遺構平面図（１：100）



第39図　91T遺構検出（南から）

第40図　92T遺構検出（南から）

第41図　92T土層断面（南から）

第42図　210T遺構検出（西から）

第43図　210T土層断面（西から）

第44図　211T遺構検出（西から）

第45図　211T土層断面（西から）

第46図　82T Ⅱb層（上から８層）出土遺物

第47図　89T Ⅱb層（上から３層）出土遺物

第48図　92T Ⅱe層（上から４層）出土遺物

第49図　211T Ⅱe層（上から４層）出土遺物

5　一般国道７号朝日温海道路建設事業関係

「推定地８」（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

高根川の支流大須戸川左岸の河岸段丘上の山地である。標高は113.2～122.4mで、現況は水田・山林である。南流する大須戸川とその支流である沢が合流する付近で、北東側と南西側では10m弱の標高差がある。圃場整備されており、沢の上流となる谷部まで段差を持った小規模な平坦面が数段認められる。

（２）調査の概要

センター杭№杭№682+40～683+60において23か所のトレンチを設定して試掘調査を実施した。中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。基盤となる砂礫層（Ⅳ～Ⅵ層）以外にも砂及び小・中礫は含まれており、両流路に由来する砂礫が堆積・浸食を繰り返して形成された場所であったと考える。

（３）層　序

Ⅰａ層　暗褐色土（現耕作土）

Ⅰｂ層　暗灰～暗褐色土（床土または旧耕作土）

Ⅱａ層　灰色砂礫(Ⅰａ層上の砂礫層で、洪水等による自然堆積層と考える)

Ⅱｂ層　暗褐色土(小～中礫を含む。圃場整備などによる盛土またはⅡａ層と同じ自然堆積層)

Ⅲ層　　黒褐色～暗灰色シルト(圃場整備以前の旧耕作土)

Ⅳａ層　灰白色粘質シルト

Ⅳｂ層　暗灰色粘質シルト(Ⅳａ層の内、黒色が強い層。１Ｔのみで検出)

Ⅳｃ層　灰白色粘質シルト(Ⅳａ層に似るが、砂礫が含まれる層。９Ｔのみで検出)

Ⅴａ層　暗褐色～にぶい黄褐色シルト＋砂礫(砂礫層の内、土が比較的多く含まれる層を一括した)

Ⅴｂ層　黄褐色～灰色砂礫層

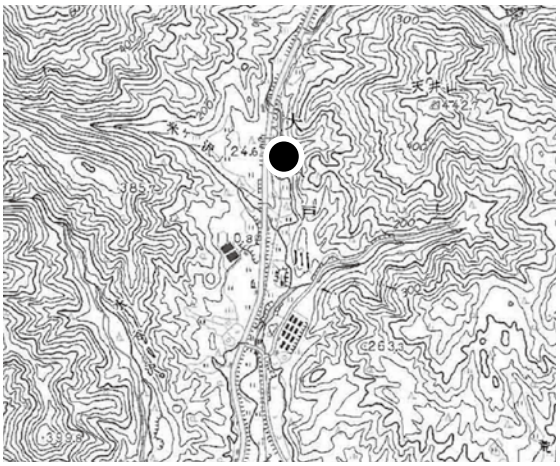
Ⅵ層　　暗黄褐色細砂層(７Ｔのみで検出)。

（４）遺構・遺物

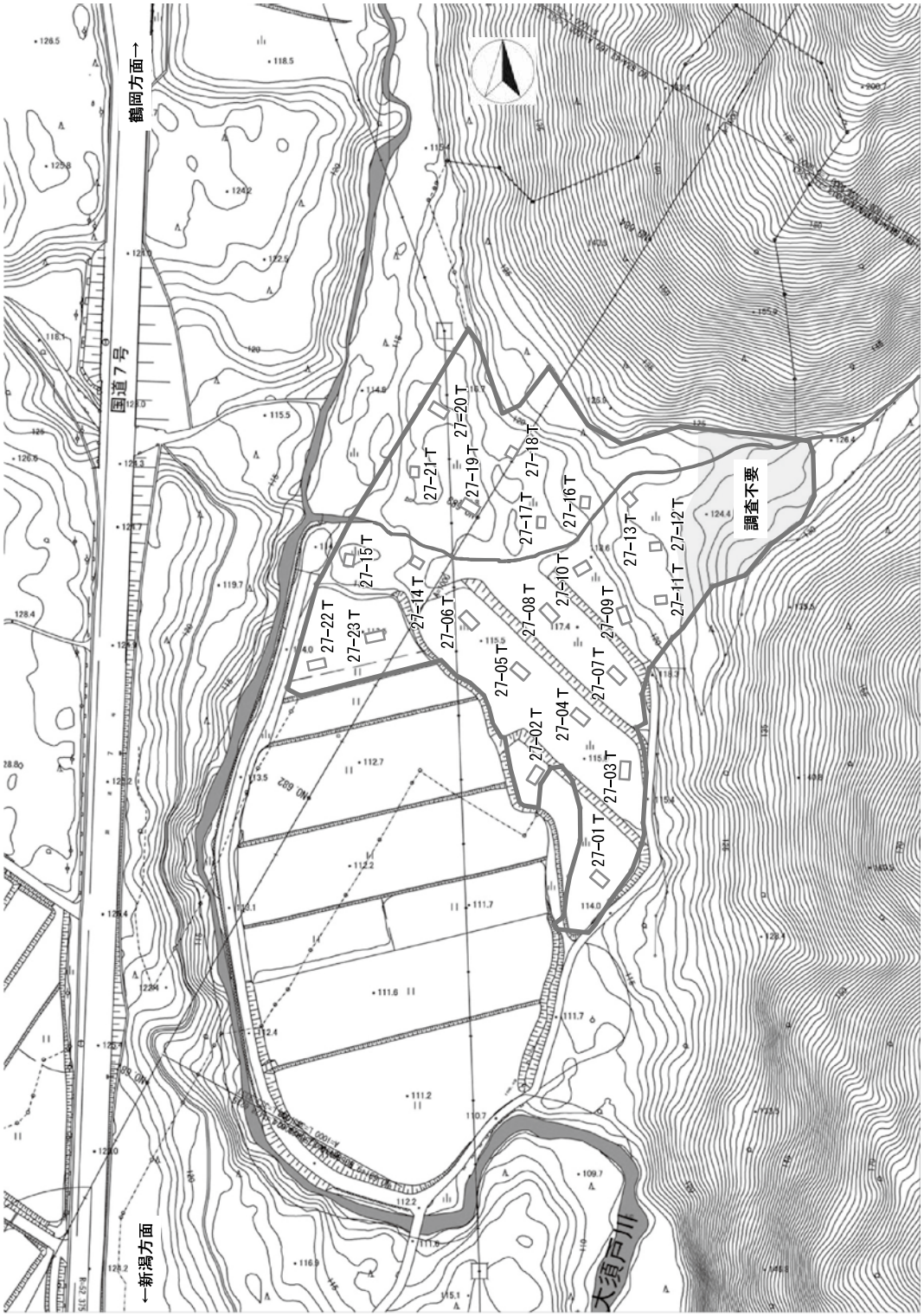
なし。

（５）調査の結果と取扱い

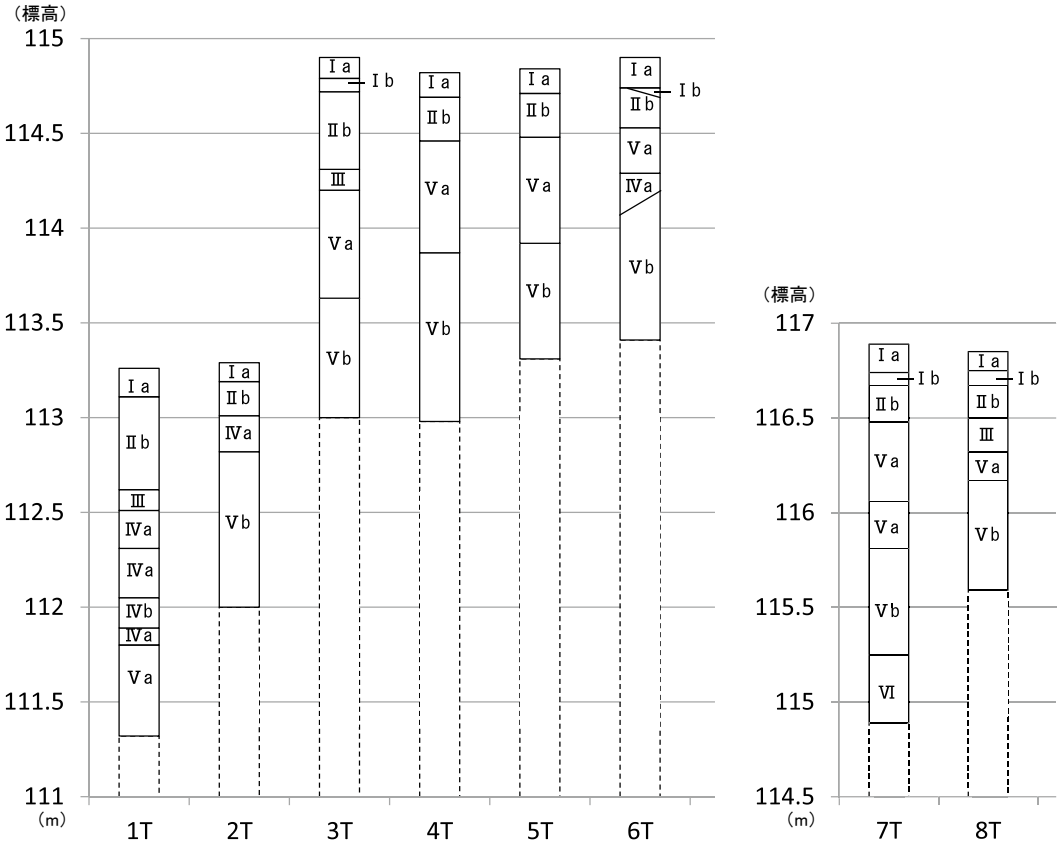
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



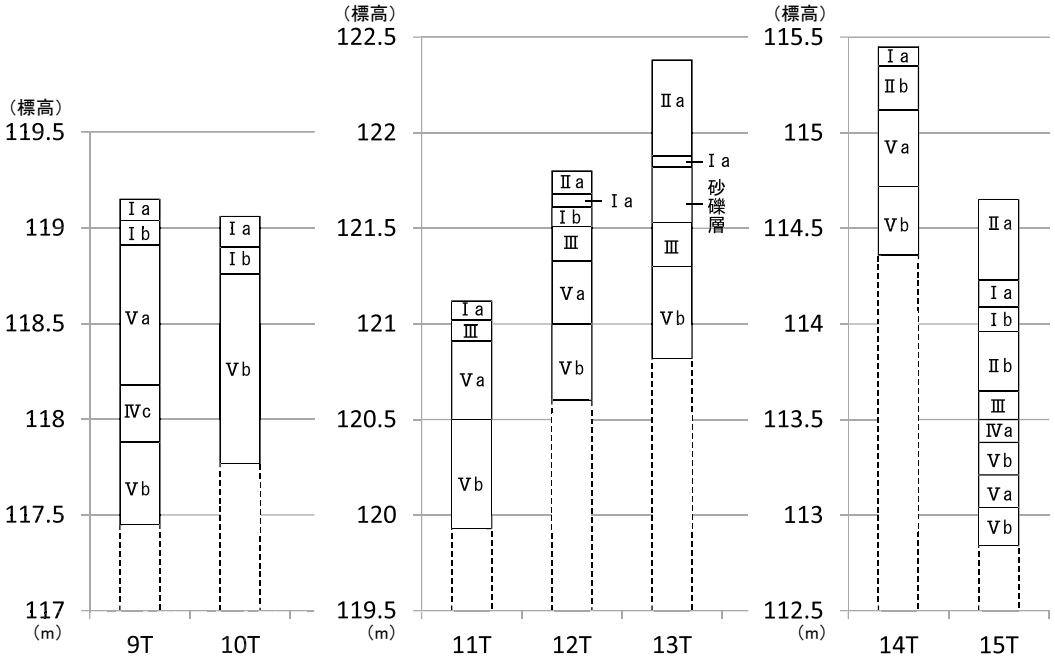
第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「勝木」1:50,000原図 平成元年発行）



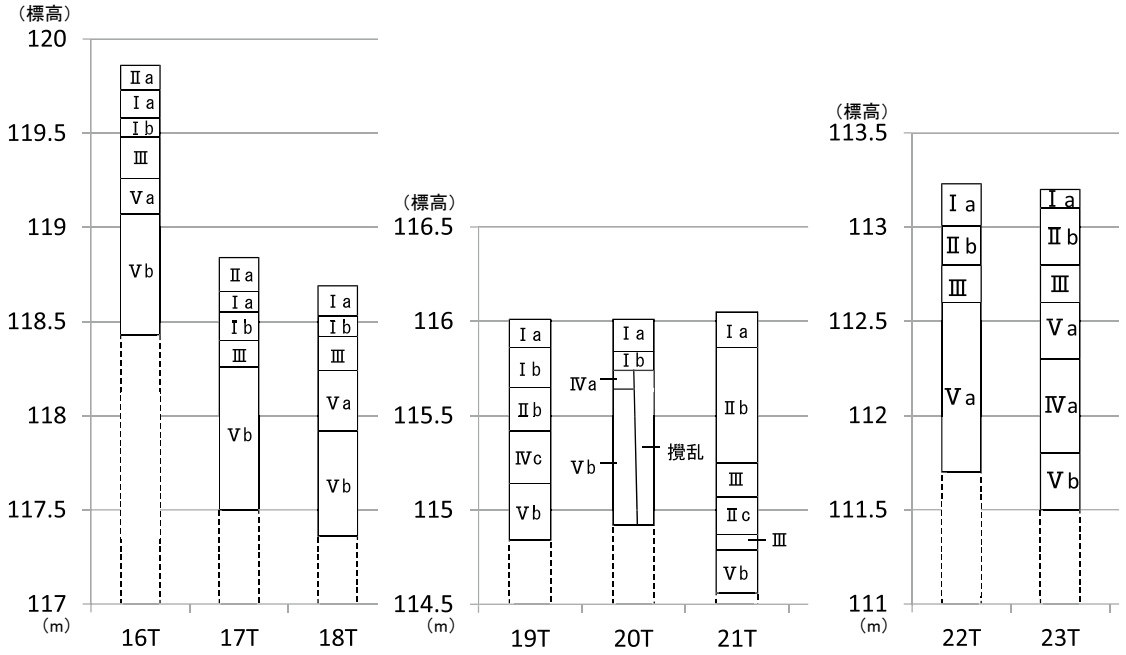
第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３－１図　土層柱状図（１：40）



第３－２図　土層柱状図（１：40）



第３－３図　土層柱状図（１：40）

第４図　１Ｔ土層断面（西から）

第５図　11T土層断面（南から）

第６図　18T土層断面（北から）

第７図　23T土層断面（北から）

6　一般国道７号新発田拡幅事業関係

新発田市小舟町（こふねちょう）地区試掘調査

（１）立　地

新発田市街地の北西縁の沖積地に位置する。現況は商業地で、標高は6.5～6.9m前後であるが、店舗等の造成に伴う１m以上の盛土が確認された。盛土を除く旧地表面の標高は、5.3～5.6m前後である。

（２）調査の概要

５か所（６月調査：１～３Ｔ、８月調査：４・５Ｔ）のトレンチを設定して試掘調査を実施した。旧地表土より下層は粘質シルトを主体に、砂質土や細砂が混じるため、不安定な地盤であったと考える。

（３）層　序

盛土層　市街地化に伴う造成土で、コンクリート塊、礫などが含まれる。

Ⅰ層　　暗褐色シルト。腐植物が混じる。暗褐色シルト主体のⅠa層、灰色シルトが混じるⅠb層に分層が可能。

Ⅱ層　　灰色砂質土。灰色砂質土主体のⅡa層、灰色粘質シルトと互層を呈するⅡb層に分層が可能。

Ⅲ層　　灰色粘質シルト。

Ⅳ層　　灰色シルトと灰色細砂が互層をなす。

Ⅴ層　　灰色細砂。

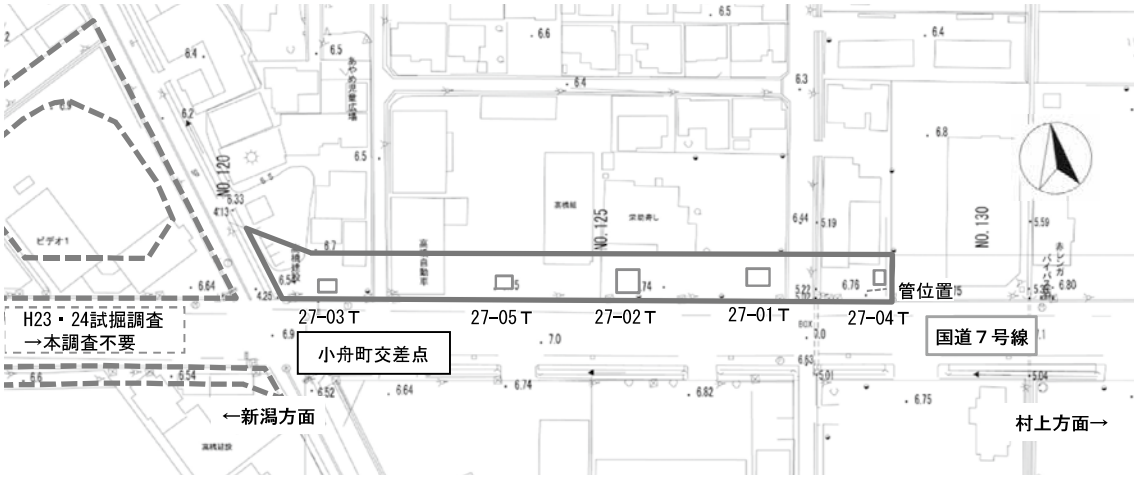
（４）遺構・遺物

なし。

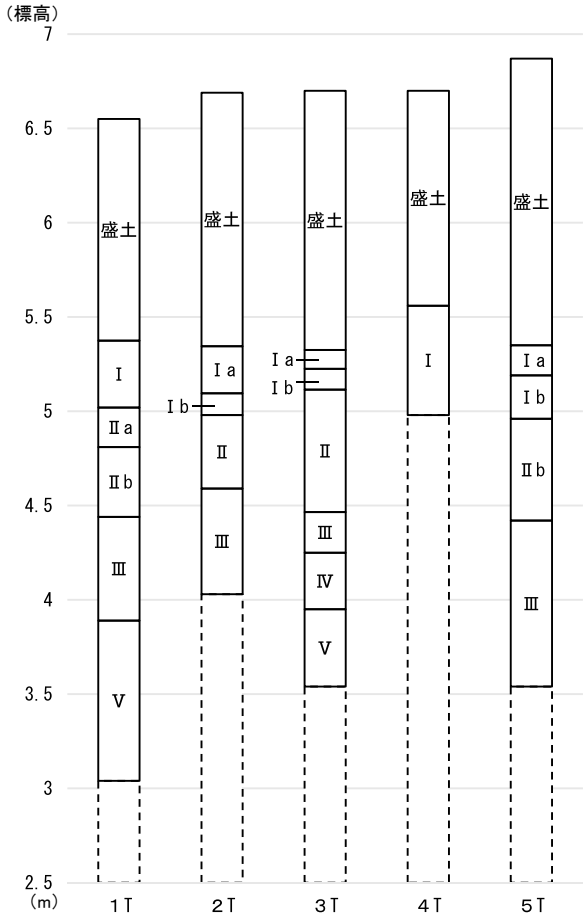
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「新発田」1:50,000原図 平成2年発行）



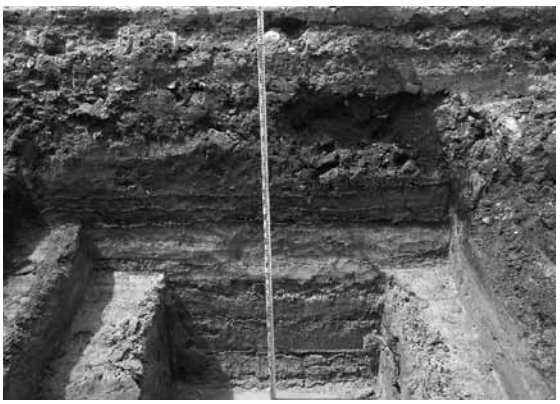
第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３図　土層柱状図（１：40）

第４図　全景（東から）

第５図　１T土層断面（北から）



第６図　３T土層断面（北から）

第７図　４T土層断面（西から）

第８図　５T土層断面（北から）

7　一般国道７号高浜入口交差点改良事業関係

新発田市島潟（しまがた）地区試掘調査

（１）立　地

新発田市街地の北東縁の沖積地に位置する。北東約600mを加治川が流れる。現況は商業地で、標高は10.8～11.0m前後であるが、盛土を除く旧地表面の標高は、9.2～9.7m前後となっている。

（２）調査の概要

５か所（８月調査：１・２Ｔ、３月調査：３～５Ｔ）のトレンチを設定して試掘調査を実施した。細砂を主体とした盛土が厚く、含有水と共に崩落するので、旧表土以下は深度１ｍ程度とした。基盤と考える河川堆積物層（Ⅲ層）までは調査した。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「新発田」1:50,000原図 平成2年発行）

（３）層　序

Ⅰａ層　暗褐色シルト（旧耕作土）

Ⅰｂ層　暗褐色シルト（旧耕作土）

Ⅰｃ層　黒褐色シルト（旧耕作土。腐植物少量含む）

Ⅱａ層　灰～黄灰色砂質シルト（旧耕作土と下層の漸移層。Ⅱｂ層より粘性がある）

Ⅱｂ層　灰～黄灰色砂質シルト（旧耕作土と下層の漸移層。Ⅱａ層より砂質が多い）

Ⅲ層　灰色系の砂質シルト・シルト・砂・腐植物の互層で、河川堆積物と考えるものをⅢ層とした。特に土質などが異なるものは細分した。

Ⅲａ層　褐灰色砂質土（有機物を含み、木片も含む）

Ⅲｂ層　灰色細砂と腐植物の互層

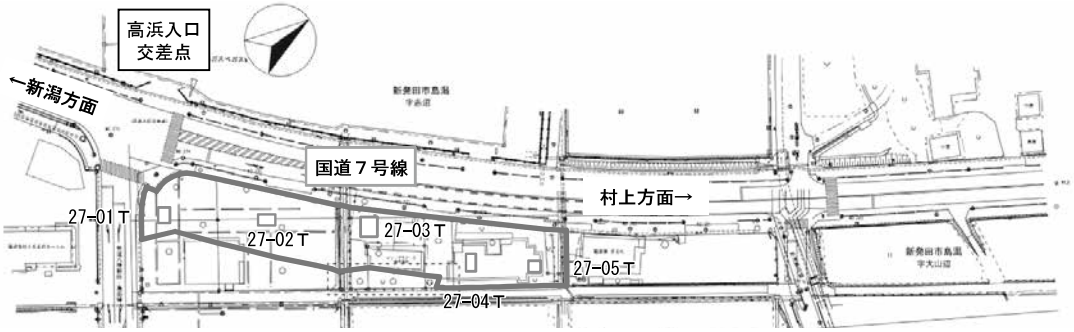
Ⅲｃ層　灰白色砂質土・細砂・シルトの互層（腐植物含むがⅢｂ層より少ない）。

（４）遺構・遺物

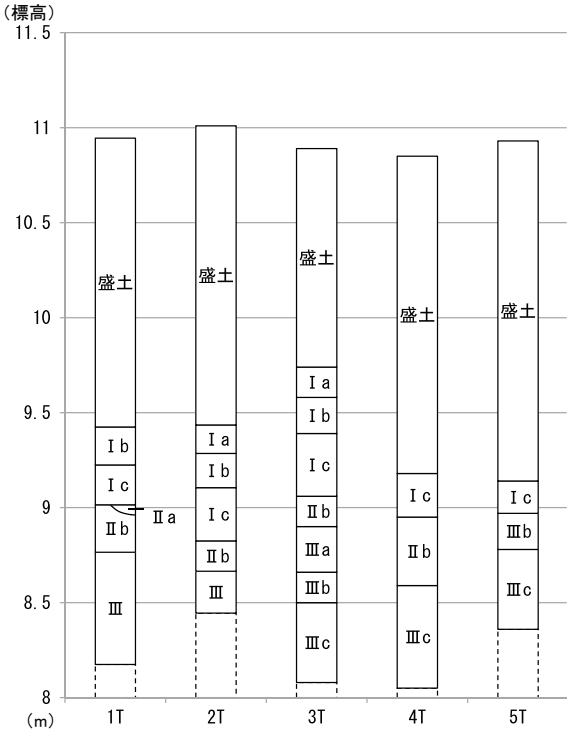
なし。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

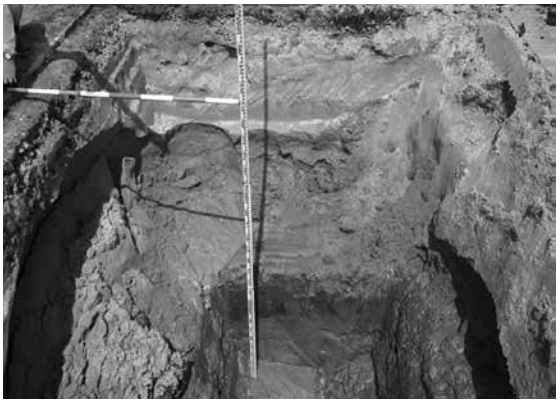


第２図　トレンチ位置図（１：2,000）

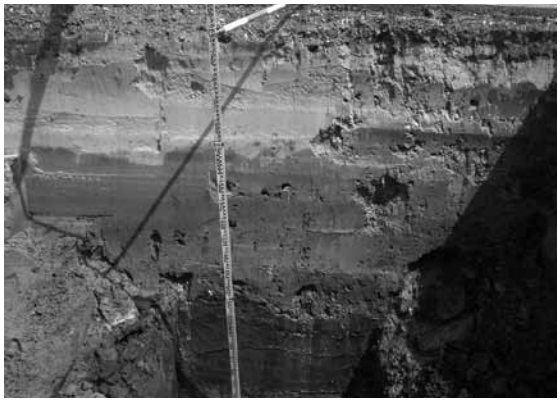


第３図　土層柱状図（１：40）

第４図　１T調査前状況（南東から）



第５図　１T土層断面（南東から）



第６図　２T土層断面（北西から）

第７図　３T土層断面（北から）

第８図　４T土層断面（南から）

第９図　５T土層断面（南から）

8　一般国道７号紫竹山道路事業関係

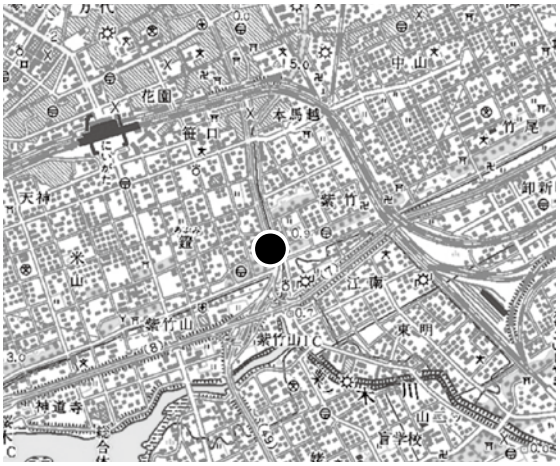
新潟市紫竹山地区試掘調査

（１）立　地

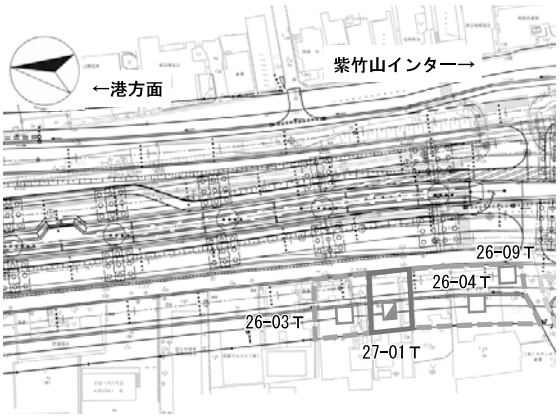
新潟砂丘列新砂丘第Ⅱ列３に位置する。標高は0.8～1.1m前後である。現況は更地であるが、以前は宅地であった。

（２）調査の概要

平成23年度以降からの継続調査で、用地買収が終了した地点から順次調査を実施している。本年度は１か所の調査で､周辺を平成26年度に実施している。砂丘列の表土層（後述Ⅸ層）まで調査した。



第１図　位置図（１：50,000）
(国土地理院「新潟」1:50,000原図 平成9年発行)



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）

（３）層　序

０層　　盛土の山砂などである｡細分していない。

Ⅰ層　　シルト・砂混合層である。

Ⅱａ層　緑灰シルト。Ⅱｂ層と混じる。

Ⅱｂ層　灰色砂質シルト。細砂を多量含む。

Ⅲ層　　暗緑灰粘質シルト。細砂を少量含む。

Ⅳ層　　灰色砂層。

Ⅴ層　　オリーブ黒粘質シルト。細砂･植物含む。

Ⅵ層　　灰色粘質シルト。細砂を微量に含む。
　　古代・近世遺物出土。

Ⅶ層　　黄灰粘質シルト。

Ⅷ層　　黒褐色腐植物層。いわゆる「ガツボ層」である。

Ⅸ層　　褐色砂層。砂丘砂(砂丘表土層)

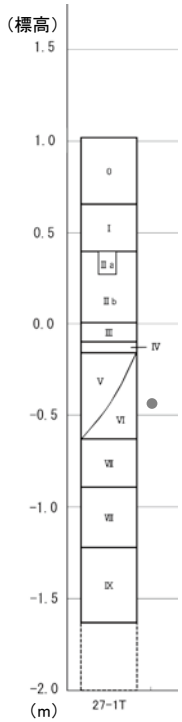
（４）遺構・遺物

遺構はⅠ層下で平面形が方形を呈する遺構を検出したが、埋土とその周辺の層から近世の遺物が出土しているので、近世以降に構築されたものである。

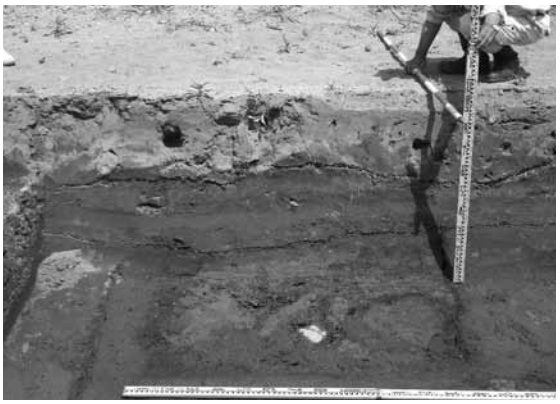
遺物はⅠ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲ・Ⅵ層から近世陶磁器類が、Ⅵ層から古代（平安時代、10世紀頃）の土師器椀が１点出土した。Ⅵ層は近世と古代の遺物が一緒に出土したことから、原位置を保っていない流れ込みの遺物と考える。他に同一層から木製品が３点出土しているが、所属時期は不明である。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、原位置を保った中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

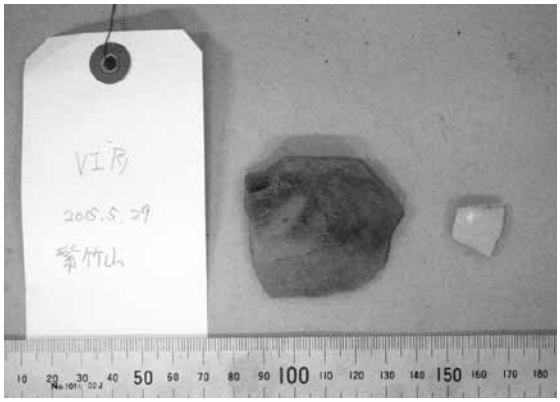


第３図　土層柱状図（１：40）



第４図　１T近世遺構検出状況（南から）

第５図　１T土層断面（南から）



第６図　１T　Ⅵ層出土遺物

第７図　１T　Ⅵ層出土遺物

9　一般国道116号吉田下中野地区事故対策事業関係

燕市吉田下中野地区試掘調査

（よし だ しもなか の）

（1）立　地

西川右岸に発達した自然堤防上の後背地で、標高は6.8～８ｍである。現況は水田・畑地・荒地・更地であるが、更地以前は、商用地･住宅地であった。調査対象地は平均幅７ｍ、長さ約480ｍと細長く、自然堤防の走向（北北東－南南西）に対して約15°西偏している。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「弥彦」1:50,000原図 平成4年発行）

（2）調査の概要

19か所（９月調査：１～15Ｔ、12月調査：16～19Ｔ)のトレンチを設定して試掘確認調査を実施した。ほぼ全てのトレンチで、国道116号線の建設や隣接する建物による盛土・攪乱が認められた。その多くが、近世～現代の旧水田を埋め立てた範囲と推測できる。

（3）層　序

【基本層序】（近・現代の盛土及び攪乱以下）

Ⅰ層　暗褐色シルト。現在または旧耕作土。

Ⅱａ層　褐灰色粘質シルト。Ⅱｃ層が上層の影響により変色した層。Ⅱｂ層より褐色が強い。

Ⅱｂ層　褐灰色粘質シルト。Ⅱｃ層が上層の影響により変色した層。

Ⅱｃ層　青灰色粘質シルト。

Ⅱｄ層　青灰色粘質シルト。砂質が少量混じる。

Ⅲ層　　灰白～青灰色砂質土。一部でみられる洪水堆積と考えられる砂質土層。

Ⅳａ層　青灰色シルト。粘性が高い。細砂が少量混じることもある。

Ⅳｂ層　青灰色シルト。粘性が高い。細砂がⅣｂ層より多く混じる。

Ⅴ層　　灰色砂質土。

【遺構埋土】

１Ｔ　　SD①層が暗褐色粘質シルト。有機物・炭少量含む。SD②層が褐色粘質シルト。

２・16Ｔ　SD①層が暗褐色～にぶい黄褐色粘質シルト。炭少量含む。細砂を帯状に含む。SD②層が暗青灰色粘質土シルト。

９・18Ｔ　SD①層が暗灰色粘質シルト。炭少量含む。

14・19Ｔ　SD①層が暗灰色粘質シルト。炭少量含む。

（4）遺構・遺物

９月の調査では、１・２・９・14Ｔで溝状遺構を検出した。その内、１Ｔの埋土からは近世陶磁器が出土したので、近世以降の遺構と判断した。９Ｔの埋土から器種・時期不明の遺物が１点出土したが、２・14Ｔの埋土からの出土遺物は無かった。各遺構の検出面は、２・14ＴがⅡｂ層上面、９ＴがⅡｂ層下面で

あることから、時期的には９Ｔの遺構が古い。ただしこの時点では中世以前の遺構と判断する根拠が無いことから、２・９・14Ｔ周辺を判断保留範囲とし、追加調査を後日実施することにした。

12月の調査では、２Ｔに近接して16Ｔを設定した。２Ｔ同様の埋土の落ち込みを検出したが、幅を捉えることはできなかった。埋土から近世陶磁器が１点出土したため、近世以降の遺構と判断した。

９Ｔの北側に17Ｔを設定したが、現代の攪乱が多く、遺構の大半が欠失していたため、南側に18Ｔを設定した。９Ｔ同様の溝状の落ち込みを検出し、埋土を慎重に掘り下げたが、遺物は１点も検出できなかった。18Ｔの埋土は水平に堆積し、溝では無く、水田など幅広い遺構の一部の可能性が想定できた。埋土から遺物は出土しなかったが、その検出面の上位のⅡｂ層から近世遺物が出土した。

14Ｔから５ｍ程離れた地点に、19Ｔを設定した。北西方向への落ち込みを検出したが、幅を捉えることはできなかった。落ち込みのラインは直線的で、14Ｔのラインの延長方向にほぼ一致する。検出面から20cm程下げた地点で近世陶磁器が１点出土したため、近世以降の遺構と判断した。

以上、１・２・14・16・19Ｔの遺構は、埋土から近世陶磁器が出土したこと、検出面より下位のⅡｂ層から近世陶磁器が出土したことにより、近世以降に構築されたものと判断した。一方、９・18Ｔの遺構はその検出面の層位から、上記の遺構より古い時期に構築されたものであることは確実である。しかし９月調査時の出土遺物が、近世陶器の焙烙である可能性が高くなったことから、同様に近世以降の遺構と判断する。構築時期は異なるが、他のトレンチの遺構と溝方向は同一である。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

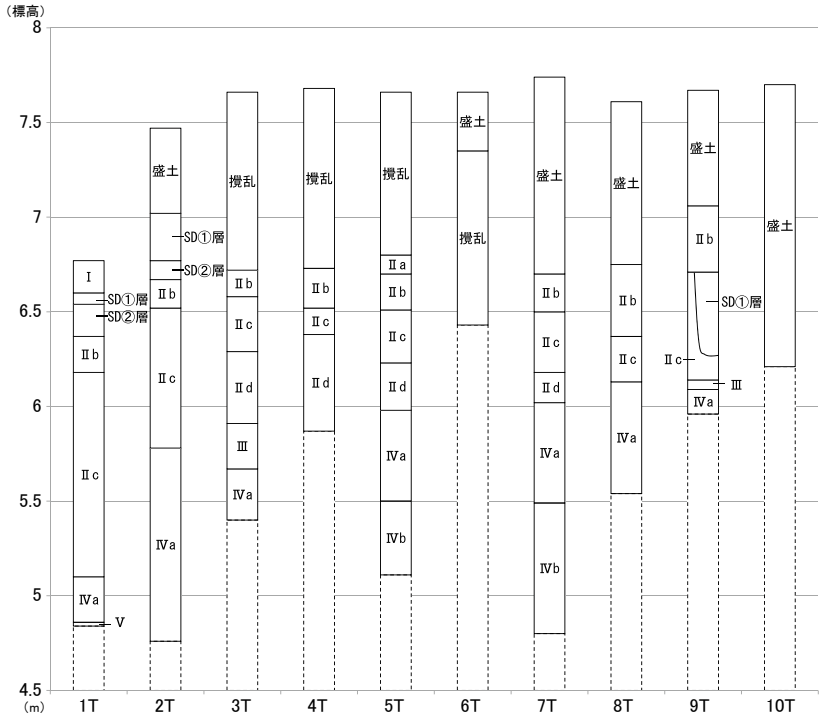
第４図　６Ｔ付近全景（北から）

第５図　２Ｔ土層断面（東から）

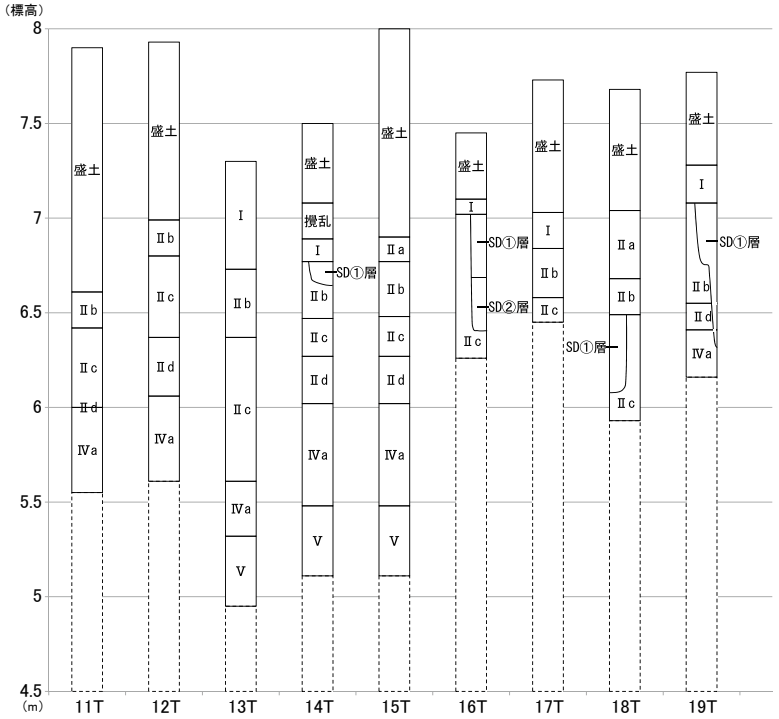
第６図　16Ｔ遺構検出状況（北から）

第７図　16Ｔ遺構断面（北から）

第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３－１図　土層柱状図（１：40）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

第８図　５Ｔ土層断面（南から）

第９図　９Ｔ土層断面（北から）

第10図　18T土層断面（南から）

第11図　12T土層断面（南から）

第12図　14T遺構検出状況（南から）

第13図　19T土層断面（北から）

第14図　15T土層断面（南から）

第15図　13T付近全景（南から）

10　一般国道８号猪子場新田地区事故対策事業関係

三条市猪子場新田地区試掘調査

（１）立　地

信濃川右岸、標高8.3～9.5mの自然堤防間の沖積地に位置する。現況は水田及び店舗駐車場で、現在の国道８号線開通前は工業用地である。

（２）調査の概要

14か所（９月調査：１～９Ｔ、12月調査：10～14Ｔ)のトレンチを設定して試掘確認調査を実施した。水田部以外は細砂を主体とした盛土などが約1.5m厚であり、含有した水と共に大きく崩れてくる状況であった。そのため現道への影響や作業の安全性を考慮し、旧表土以下は深度１ｍ程度で終了とした。また２・３Ｔは、以前の工場の基礎等が広範囲に残存していたため、調査を断念した。

第１図　位置図（１：50,000）
(国土地理院「三条」1:50,000原図 平成8年発行)

（３）層　序

０層　盛土・攪乱。底面から湧水。

Ⅰ層　耕作土。

Ⅱ層　灰色粘質シルト。６Ｔで近世陶磁器出土。

Ⅲ層　暗灰色粘質シルト。黄灰色ブロック混じる。

Ⅳ層　緑灰色粘質シルト＋砂互層。

Ⅴ層　黒褐色腐食土。

Ⅵ層　黄灰色粘質シルト。腐植物混じる。

Ⅶ層　暗緑灰色粘質シルト。

Ⅷ層　暗褐色腐食土。

Ⅸ層　緑灰色粘質シルト。

Ⅹ層　青灰色粘質土。

Ⅺ層　灰褐色粘質土。大型流木含む。

第４図　１～３Ｔ付近全景（南西から）

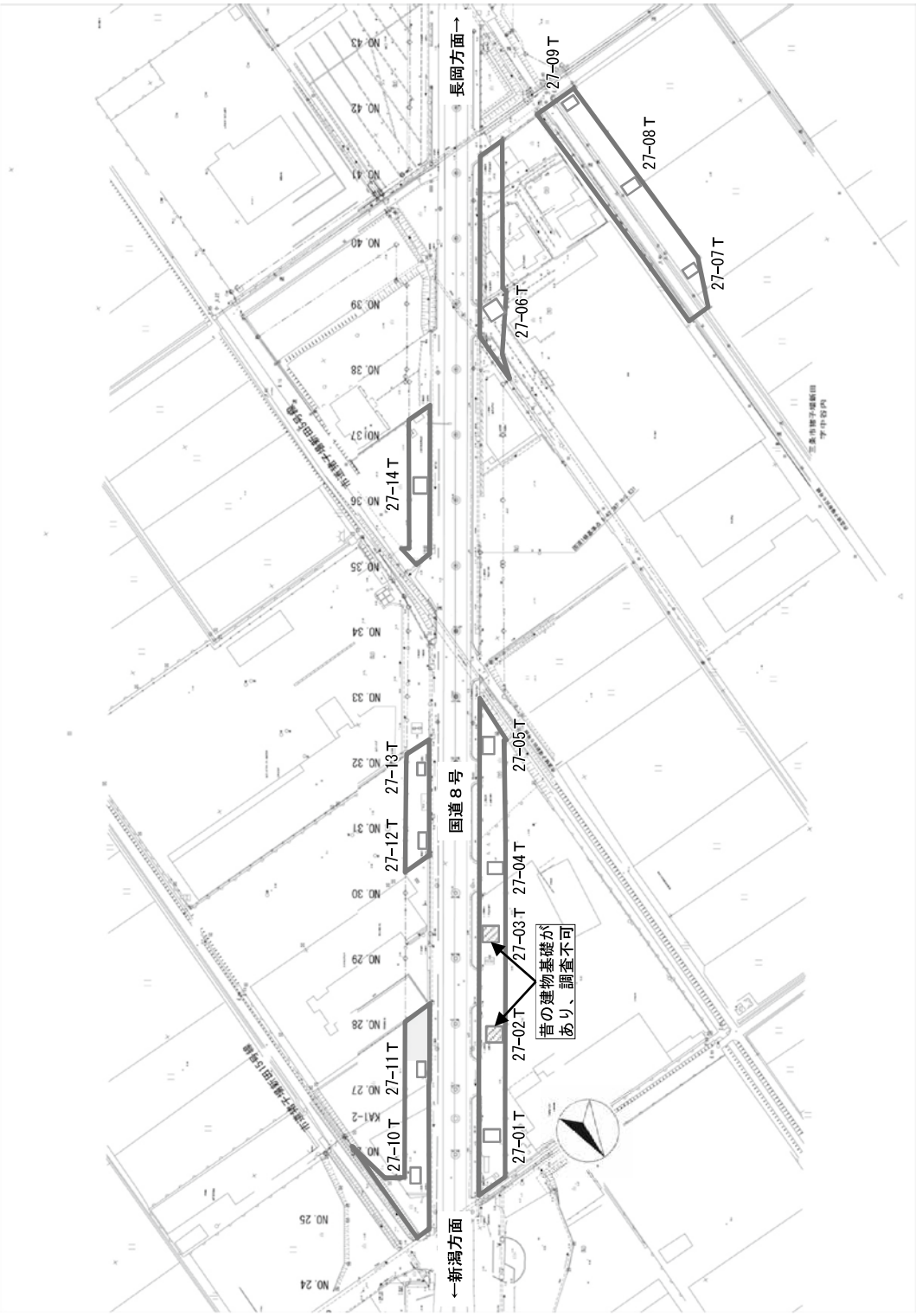
（４）遺構・遺物

なし。

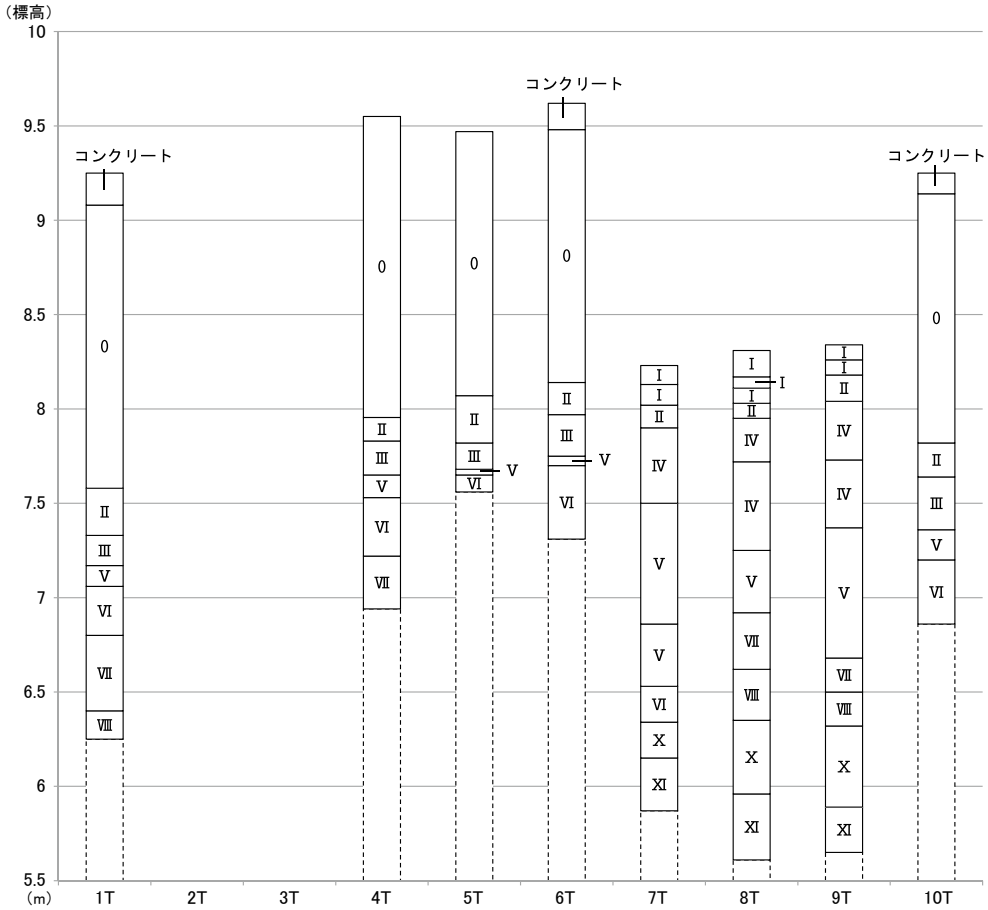
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかったが、６Ｔ周囲、11Ｔの南側、14Ｔ周囲については、今後の周辺の試掘結果と合わせて判断する必要がある（判断保留範囲)。それ以外の範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

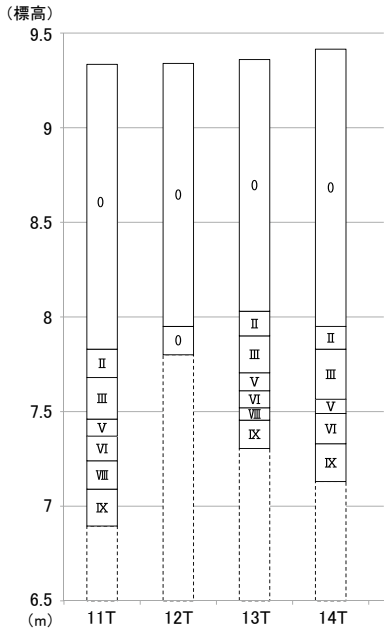
第５図　１Ｔ土層断面（南西から）



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３－１図　土層柱状図（１：40）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

第６図　８T土層断面（北から）

第７図　14T土層断面（南東から）

11　一般国道17号和南津改良事業関係

長岡市川口和南津地区試掘調査

（1）立　地

魚野川左岸の低位段丘上に位置する。現況は水田・草地・雑林となっている。現況の水田となっている部分は昭和50年代以前まで畑地であった。標高は93.3～93.7m前後である。

（2）調査の概要

３か所のトレンチを設定して試掘調査を行なった。平成26年度調査（北側・東側）同様に中世以前の遺構・　遺物は検出できなかった。昭和50年代の畑地から水田への改変時に削平・盛土が行われている。

（3）層　序

Ⅰ層　　３Ｔのみで確認。耕作を受けていない表土。

Ⅰａ層　黒褐色シルト。水田耕作土。

Ⅰｂ層　黒褐色シルト。耕作時の影響を受けない水田耕作土。

Ⅰｃ層　暗褐色シルト。灰白シルトブロックが混じる。盛土。この層までが圃場整備等で盛られた土。

Ⅱ層　　明黄褐色シルト。礫を含む。

Ⅲ層　　灰白砂質土。

Ⅳ層　　砂質土。

Ⅴ層　　砂礫層。昨年度確認のⅥ層は本年度も確認したが、土質等同様であるため分層せず同一層とした。

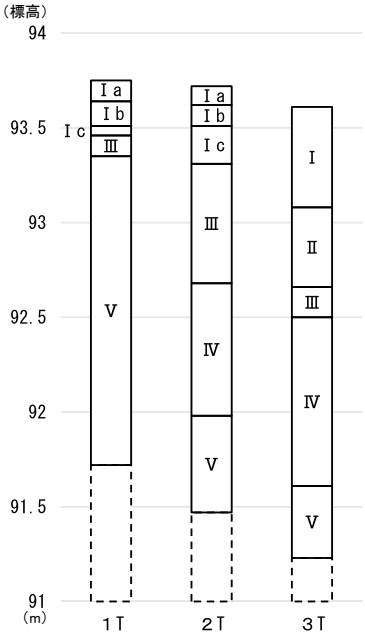
（4）遺構・遺物

なし。

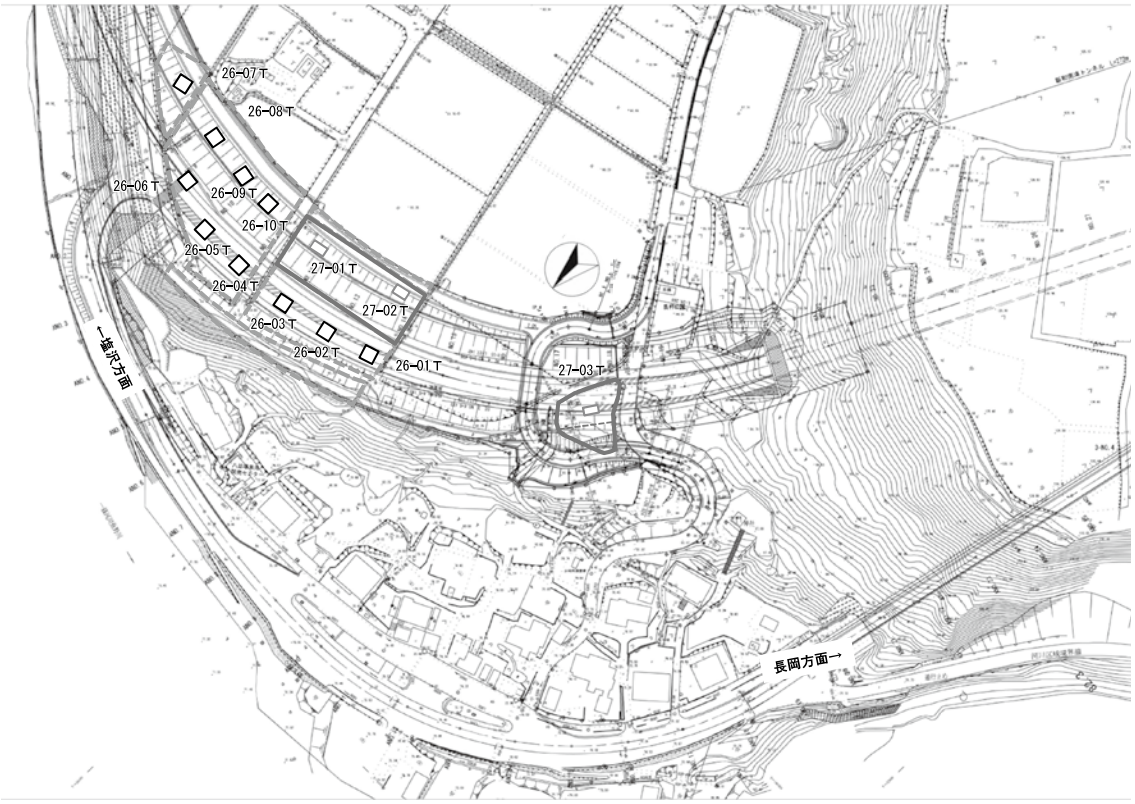
（5）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行）



第３図　土層柱状図（１：40）



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）

第４図　現況（北東から）

第５図　１T土層断面（北から）

第６図　２T土層断面（北から）

第７図　３T土層断面（北西から）

12　一般国道17号浦佐バイパス事業関係

魚沼市大浦（おおうら）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川の支流である三用川右岸の氾濫原に位置し、標高は約105～107ｍである。現況は市道沿いの宅地跡・水田となっている。

（２）調査の概要

19か所のトレンチを設定して試掘調査を実施した。宅地跡（１・２Ｔ周辺）は盛土されており、下には三用川から運ばれた礫が堆積する。水田下は三用川の河川堆積層と考える粘質シルトや細砂・砂礫層の下に、宅地跡下と同様の礫を確認した。深度２ｍ前後で湧水が多くなる。

（３）層　序

Ⅰａ層　灰黄褐色粘質シルト。耕作土。表土。

Ⅰｂ層　褐色シルト。耕作土。盛土。

Ⅰｃ層　灰白色砂質土。耕作土。盛土。

Ⅱａ層　褐灰色シルト。

Ⅱｂ層　褐灰色シルト。腐食物を含む。

Ⅲ層　灰白色シルト。礫少量含む。

Ⅳ層　灰～褐灰色シルト。

Ｖａ１層　灰～褐灰色粘質シルトと砂礫互層。

Ｖａ２層　灰～褐灰色粘質シルト。

Ｖａ３層　灰～褐灰色粘質シルトと砂礫互層。

Ｖａ４層　灰～褐灰色砂礫層。

Ｖａ５層　灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。

Ｖａ６層　灰～褐灰色粘質シルトと大砂礫の互層。

Ｖｂ層　暗褐色シルト。腐食物を含む。

Ｖｃ１層　灰～褐灰色砂礫。

Ｖｃ２層　灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。腐食物を含む。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「小千谷」1:50,000原図 平成6年発行）

（４）遺構・遺物

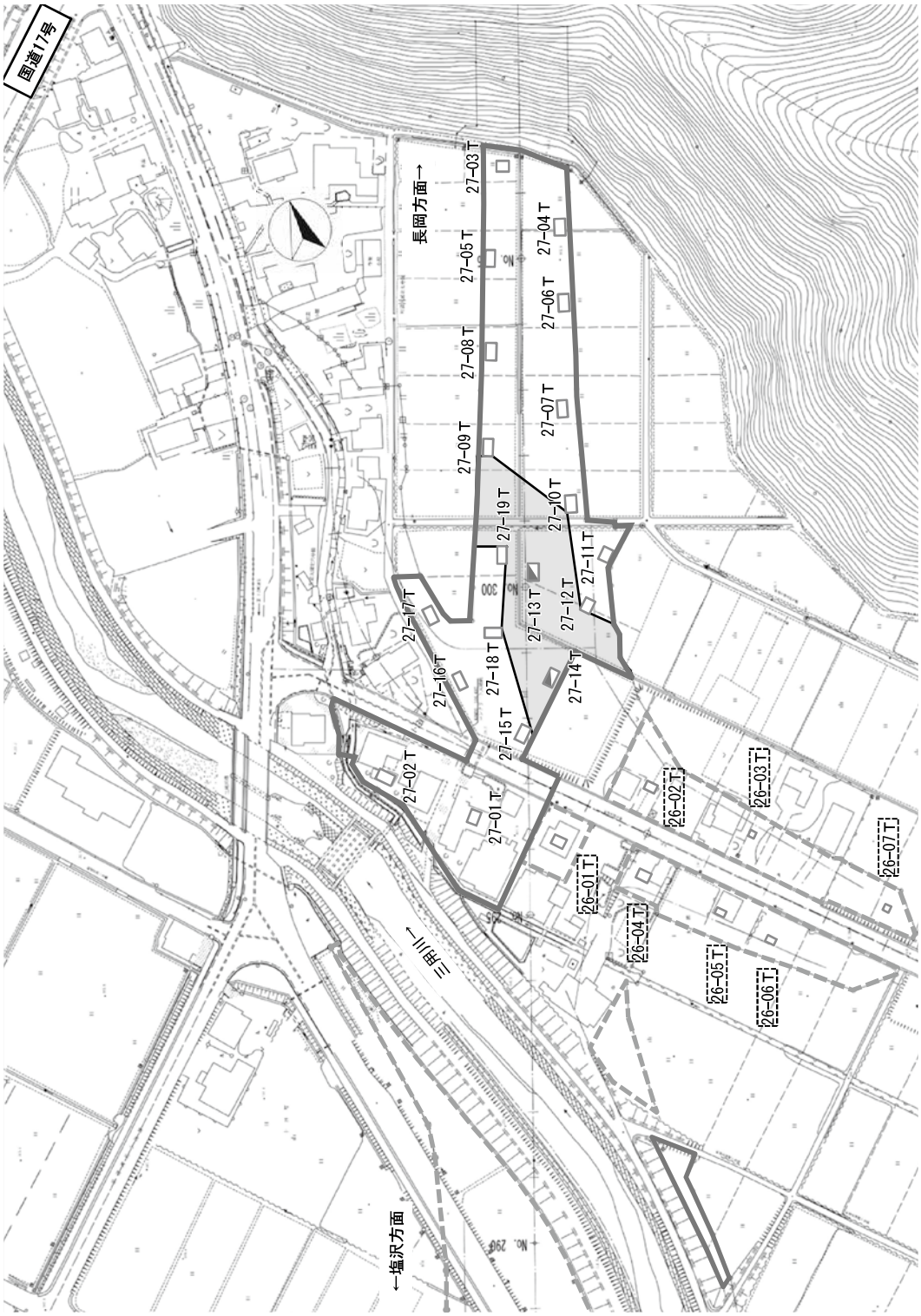
遺構は13Ｔで計７本の杭列を検出し、14Ｔで１本の杭を検出した。13Ｔの杭列の走向は、現在の三用川の流路とほぼ同じであり、護岸としての機能が想定されるが、その両脇の堆積土に違いや落ち込みは認められない。よって、平場に打ち込まれた杭と考えた。また、14Ｔの杭は掘削坑の角にあたる位置で検出したので、13Ｔ同様に杭列の一部であった可能性も残す。13Ｔの杭列の延長方向からずれた位置に14Ｔはあるので、関連するものかどうか不明である。また両トレンチ共に、土器類が出土していないので、構築年代は不明である。14Ｔ杭の先端は鋭利に加工が施されていた。

（５）調査の結果と取扱い

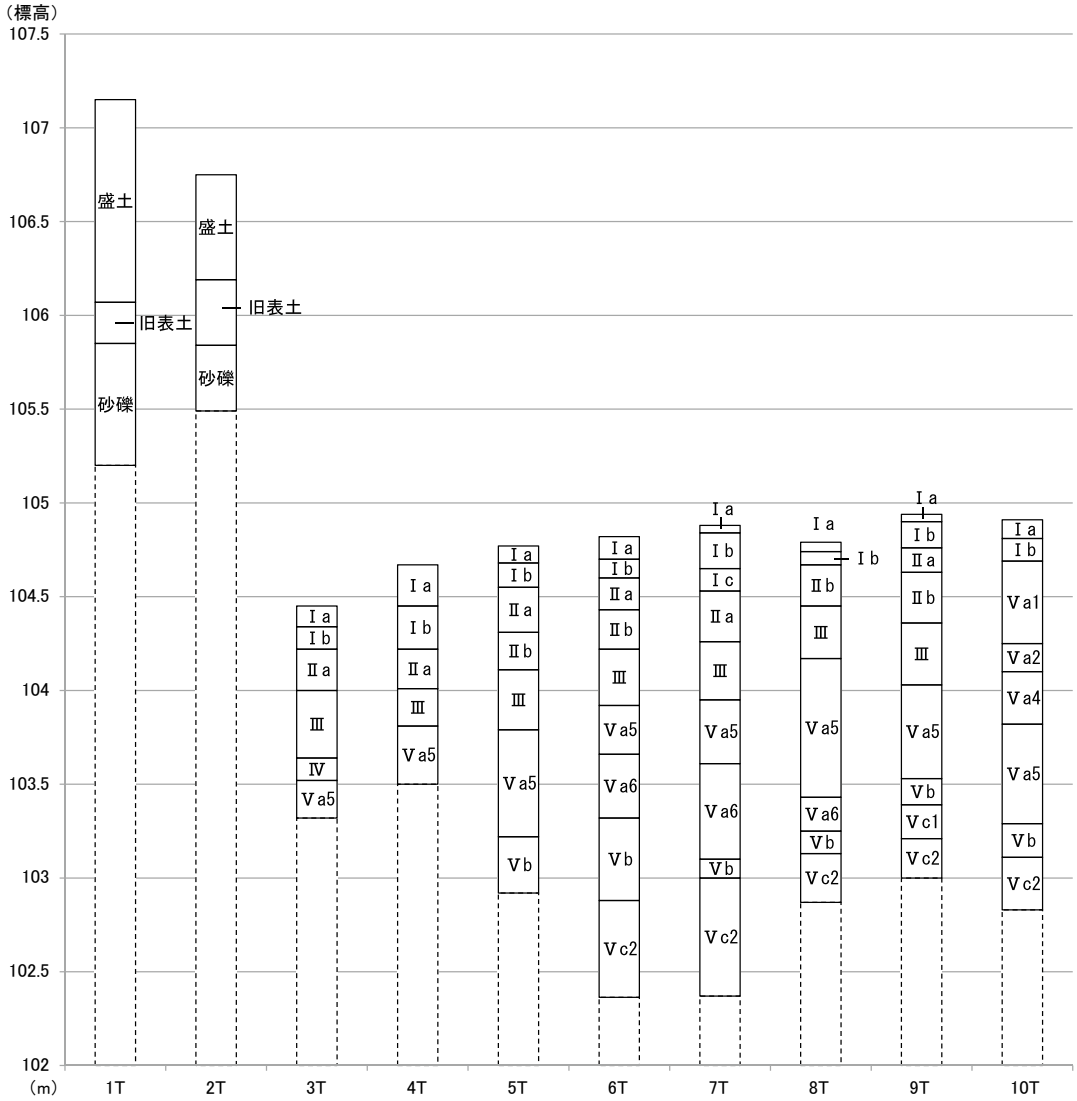
調査の結果、時期不明の杭列（13Ｔ）と杭（14Ｔ）を検出したが、中世以前の遺物は出土しなかった。時期不明の遺構であり、現段階ではその周囲を判断保留範囲とする。今後、未調査区の試掘結果によって

取扱いを判断する。

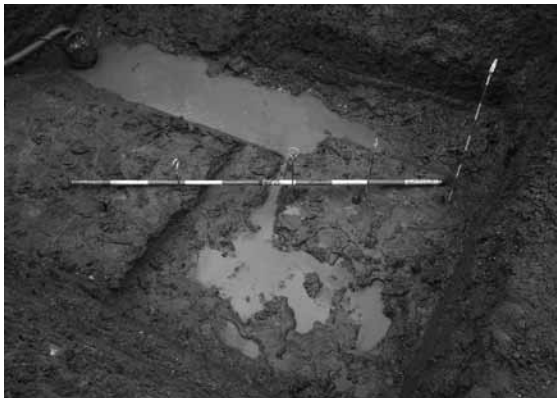
今回の調査対象区の内、上記保留範囲以外については、本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）

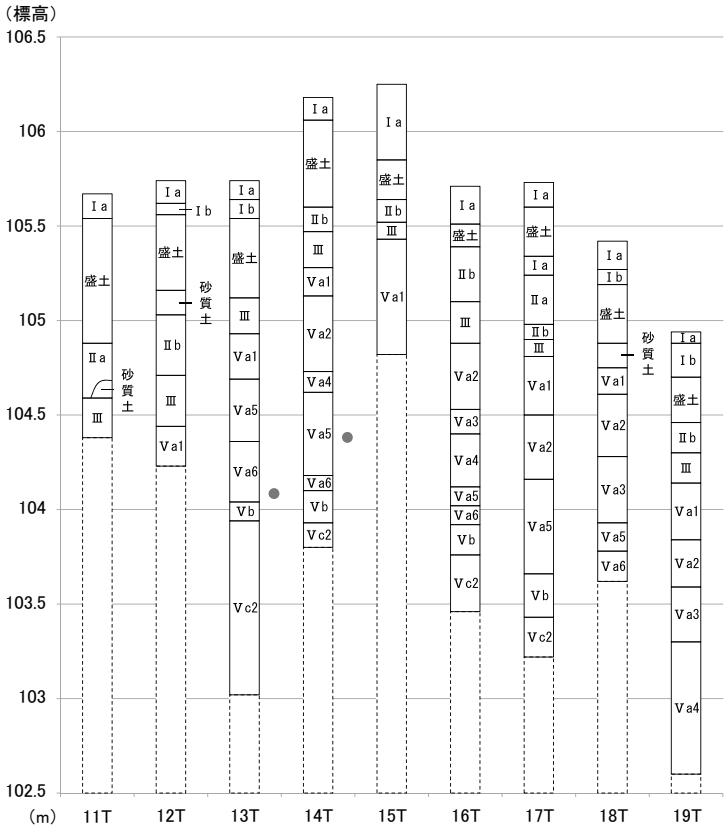


第３－１図　土層柱状図（１：40）

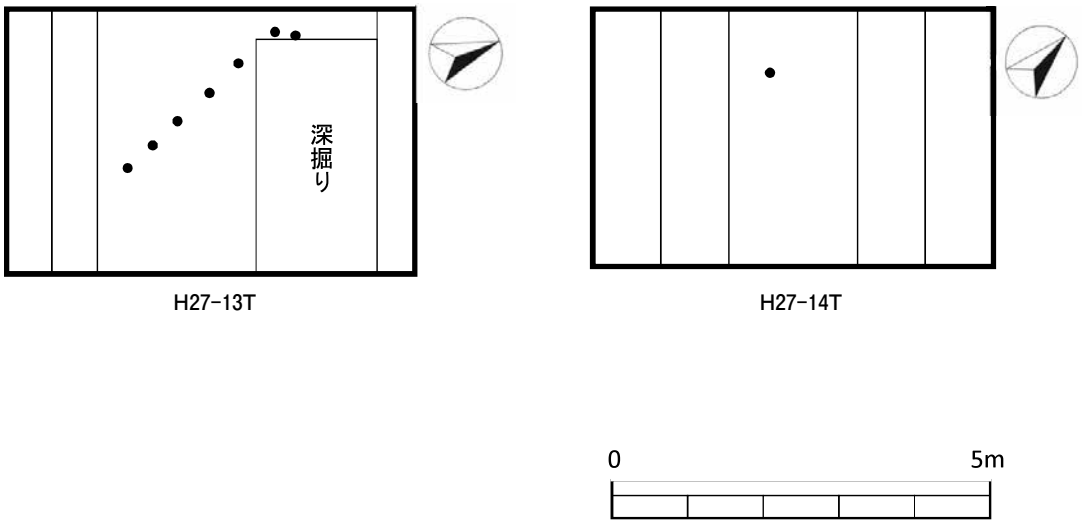


第５図　13T杭検出状況（南西から）

第６図　14T土層断面（北西から）



第３－２図　土層柱状図（１：40）



第４図　遺構平面図（１：100）

13　一般国道17号六日町バイパス事業関係

南魚沼市余川（よかわ）地区試掘調査

（1）立　地

六日町盆地北部、魚野川左岸の庄之又川が形成した扇状地の扇端南部に位置する。標高は180.0～182.0m前後である。現況は荒蕪地であるが、以前はほ場整備された水田であった。一部は公共事業に伴う盛土があり、また調査対象区北西側の範囲は、駐車場として盛土造成されている。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「十日町」1:50,000原図 平成10年発行）

（2）調査の概要

34か所（７月調査：１～27Ｔ、11月調査：28～34Ｔ）のトレンチを設定して試掘確認調査を実施し、古代と古墳時代の遺構・遺物を確認した。調査対象地に隣接する周知遺跡の六日町藤塚遺跡と坂之上遺跡が、当該地まで広がっているものと判断した。また、ほ場整備による造成土内にも遺物が多く含まれることから、遺跡の一部は既が削平されている可能性もある。

（3）層　序

土石流のような堆積が多く認められる範囲であり、その都度地形が大きく変化した可能性がある。なるべく対応層の把握に努めたが、各トレンチ間で色調や含有物が異なる場合も多い。

０層　　盛土層・現代の攪乱層。

Ⅰ層　　現代耕作土関係の層。

Ⅰａ層　現水田耕作土（ほ場整備後）。

Ⅰｂ層　灰黄褐色シルト。水田の床土など。

Ⅰｃ層　灰白色シルト。溝など、ほ場整備後に掘り込まれた層。

Ⅱ層　　現代耕作土より下位の、人為的堆積層。

Ⅱ層　　明黄褐色系のシルト層で、ほ場整備時の造成土（客土）。遺物が比較的多く含まれる層。

Ⅱｂ層　暗褐色シルト層で、旧水田耕作土と考えられる層。

Ⅲ層　　Ⅳ層上位の自然堆積層で、黄褐色系（浅黄橙～灰白色）粘質シルトが主体。Ⅴ層と異なり、砂質はあまり含まれない層が多い。

Ⅳ層　　褐灰色～にぶい黄褐色粘質シルト。炭粒少量含む。古代の遺物包含層。

Ⅴ層　　Ⅳ層（古代遺物包含層）とⅥ層（古墳時代遺物包含層）間の自然堆積層で、黄褐色系（浅黄橙～灰白色）粘質シルト・砂質シルトが主体。指頭～拳大の砂礫が含まれるまたは主体となる層を、別に「Ⅴｓ層」とした。

Ⅵ層　　暗褐色～褐灰色粘質シルト。炭粒少量含む。古墳時代の遺物包含層。２～３層に分層出来るトレンチもある。上層（Ⅵａ層）の色調が濃く、下層（Ⅵｃ層）が薄い傾向にあり、遺物は上層に多く含まれる。

Ⅶ層　Ⅵ層以下で、砂礫が主体となる層（Ⅷ層）が検出できるまでの層を一括した。自然堆積層で黄橙～灰白色系粘質シルト・砂質シルトが主体となる。

Ⅷ層　砂礫主体層で、拳大以下の礫や砂が主体となる。Ｖｓ層との区別が困難。11Ｔで遺物が１点出土したが、どちらの層から出土したか不明であった。

Ⅸ層　Ⅷ層以下の自然堆積層を一括した。灰白色系の粘質シルトで、Ⅶ層より色調が明るい。

（４）遺構・遺物

古墳時代の遺構を３Ｔで、古代の遺構を14・19・23・30Ｔで検出した。３Ｔでは幅50～60cmの溝１条、径30cm以下のピット１基を検出した。14・19Ｔでは幅20cm前後の溝が複数平行することから、畑作痕の可能性がある。地山（Ｖ層）への掘り込みは浅いが、14Ｔの断面写真に認められるように、さらに上位から検出できる可能性がある。溝以外では、径20cm以下のピットが14Ｔで７基、19Ｔで３基、土坑を各１基検出した。23Ｔでは溝１条、ピット２基、土坑１基を検出した。30Ｔのピット１基からは須恵器杯が横位で出土した。ピットの埋土は、地山であるＶ層との識別が非常に困難で、遺物の一部が検出面に露出したことで認識が可能であった。同様の遺構が存在した場合、検出には時間を要すると考える。

古墳時代の遺物は３Ｔ・28Ｔで多く出土しており、古墳時代中期～後期の遺物が主体となる。古代の遺物は14Ｔが最も多く、そのトレンチ周辺は急激に少なくなる。またそこからやや離れた16Ｔでも多く出土している。主体となるのは８世紀代（奈良時代）の遺物で、７世紀末まで遡るものもある。

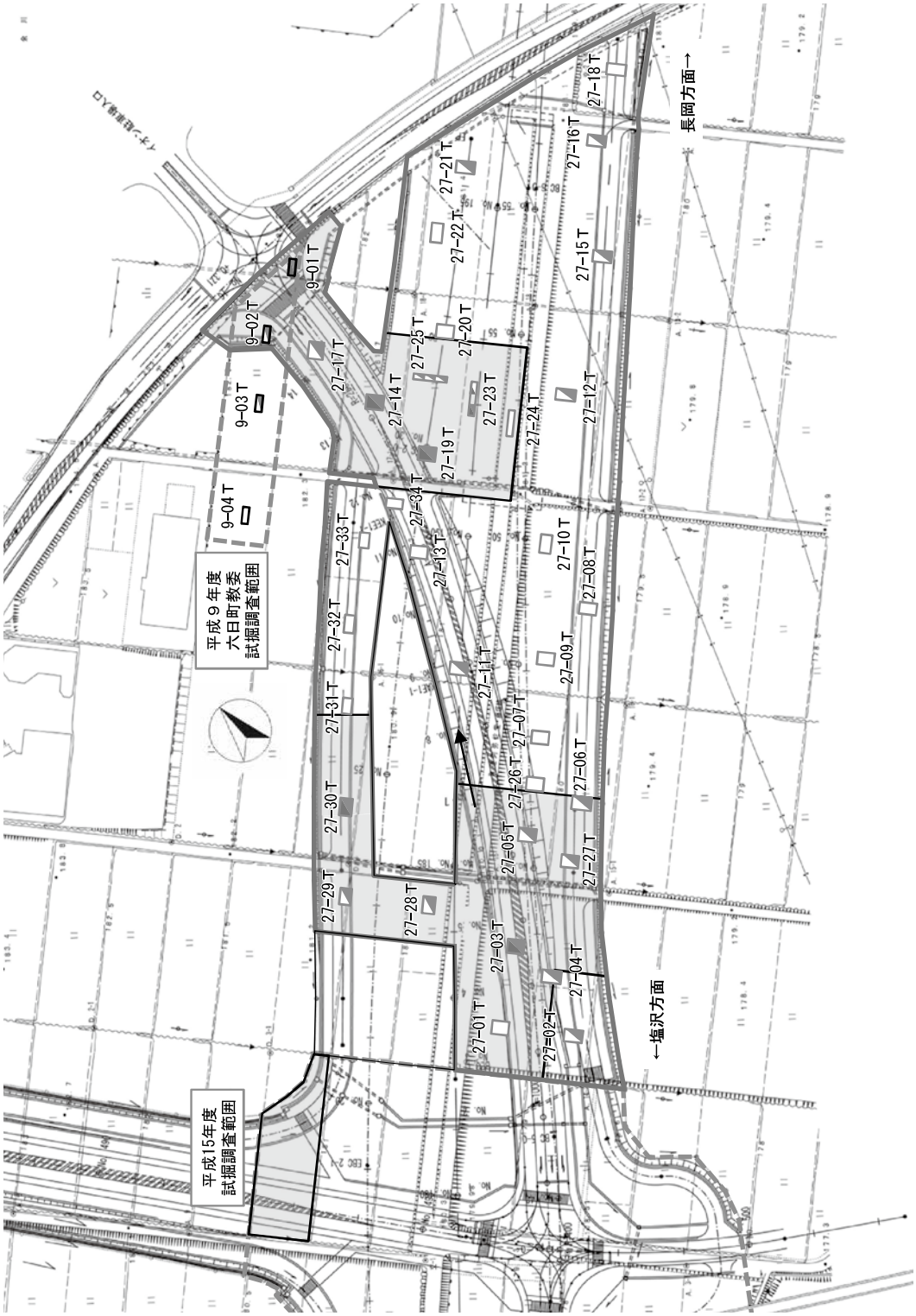
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、調査区中央付近（暫定線の杭№８～11付近）を除いた広い範囲で、中世以前の遺物が出土した。またいくつかのトレンチで、中世以前の遺構も検出できた。遺構・遺物の分布は、古墳時代中期～後期を主体とした一群（範囲①）が南寄りに、古代（７世紀末～８世紀）を主体とした一群（範囲②）が北寄りに分布する。

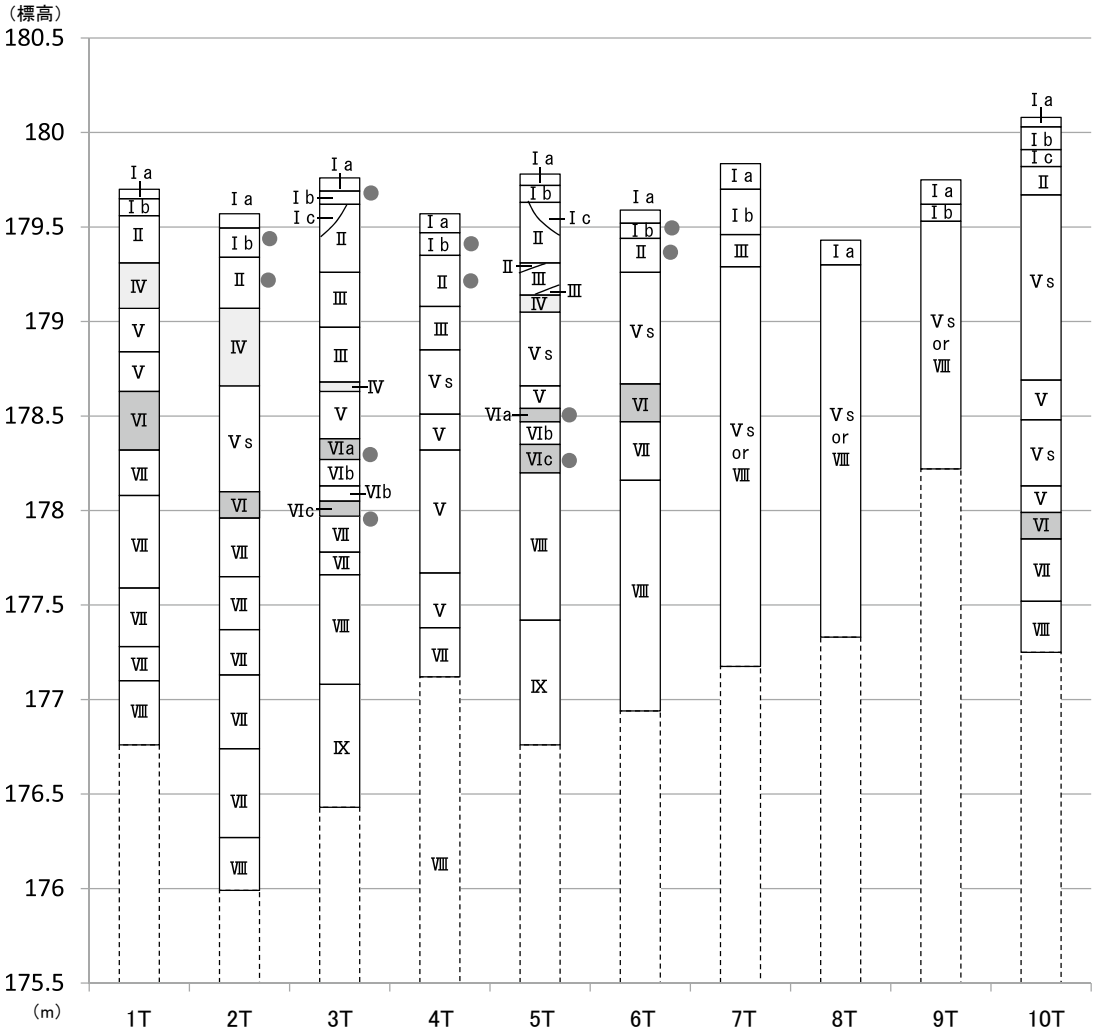
範囲①の西側には周知の六日町藤塚遺跡（古代）が存在し、30Ｔでも同様に古代の遺構・遺物が検出されたことから、遺跡が拡がっているものと判断した。本発掘調査が必要となる範囲は、古代と古墳時代で異なる。古代は30Ｔを中心とする範囲で、約910㎡（１層）である。古墳時代は３Ｔ・28Ｔを中心とする範囲で、さらに遺物包含層が２層に分かれる可能性があることから、延べ面積約8,960㎡（4,480㎡×２層）の本発掘調査が必要であると判断した。

範囲②の北側には周知の坂之上遺跡（古墳･古代）が存在し、今回の調査区でも同様に古墳時代の遺物、古代の遺構・遺物を検出したことから、遺跡が拡がっているものと判断した。畑作痕と考える溝群が認められることから、集落の縁辺部に位置する可能性がある。本発掘調査が必要となる範囲は、14Ｔ・19Ｔを中心とする範囲で、約３,780㎡（１層）である。該当範囲で古墳時代の遺物が出土したのは17Ｔのみで、遺物も少量であることから今回は本発掘調査の対象から除外した。ただし、旧六日町教育委員会が調査した９-１～３Ｔからは比較的大きな破片の遺物が出土していることから、部分的に古墳時代の調査も必要になる可能性がある。

以上のことから、今回の調査対象区で、六日町藤塚遺跡、坂之上遺跡の本発掘調査が必要と判断する。上記以外の範囲については本発掘調査は不要と判断する。

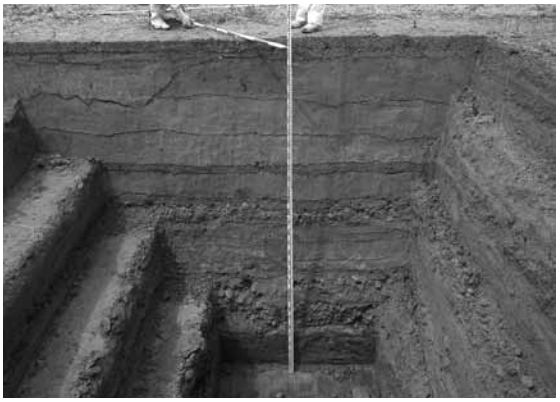


第２図　トレンチ位置図（１：2,000）

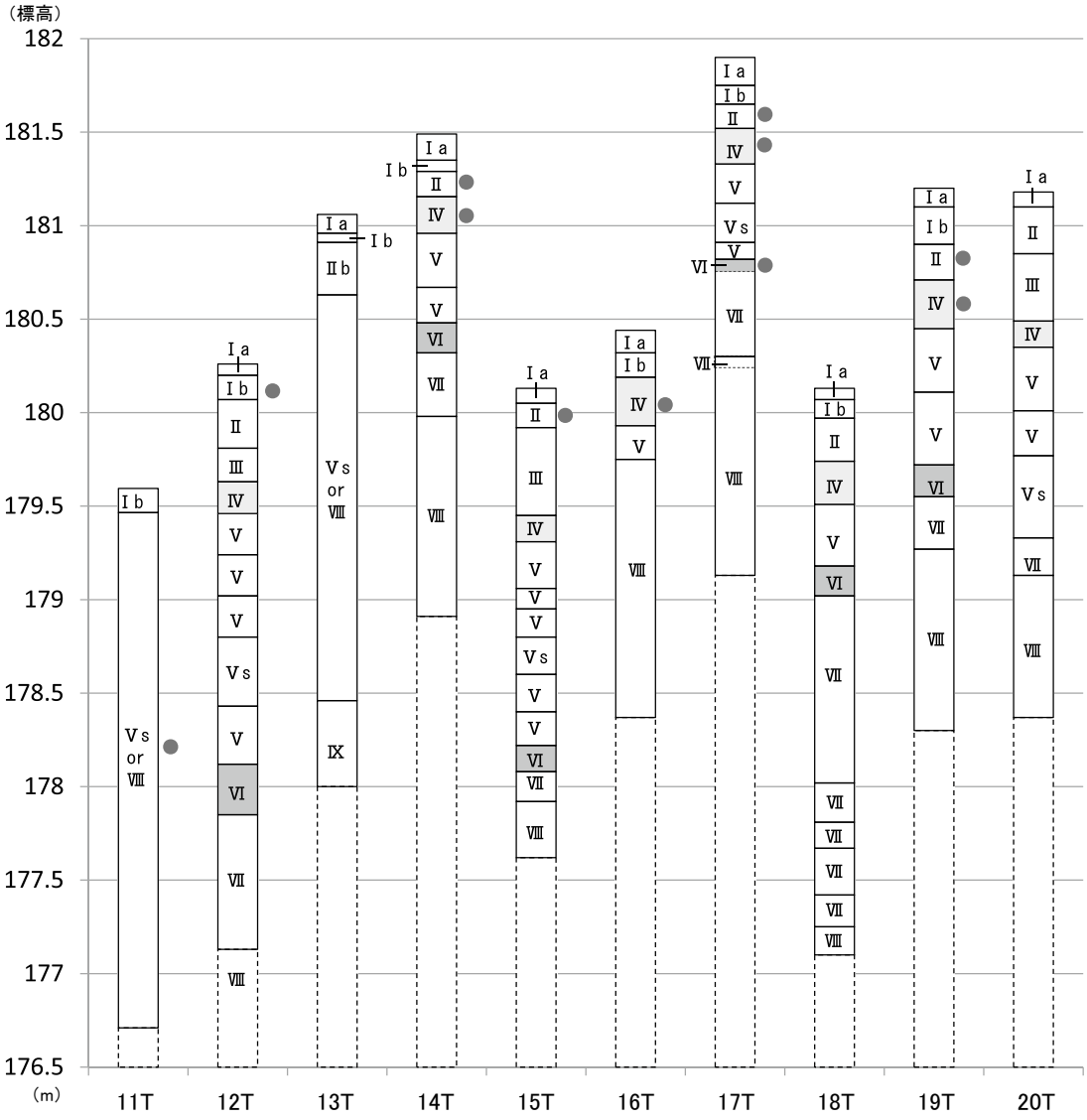


第３－１図　土層柱状図（１：40）

第５図　調査区全景（南から）



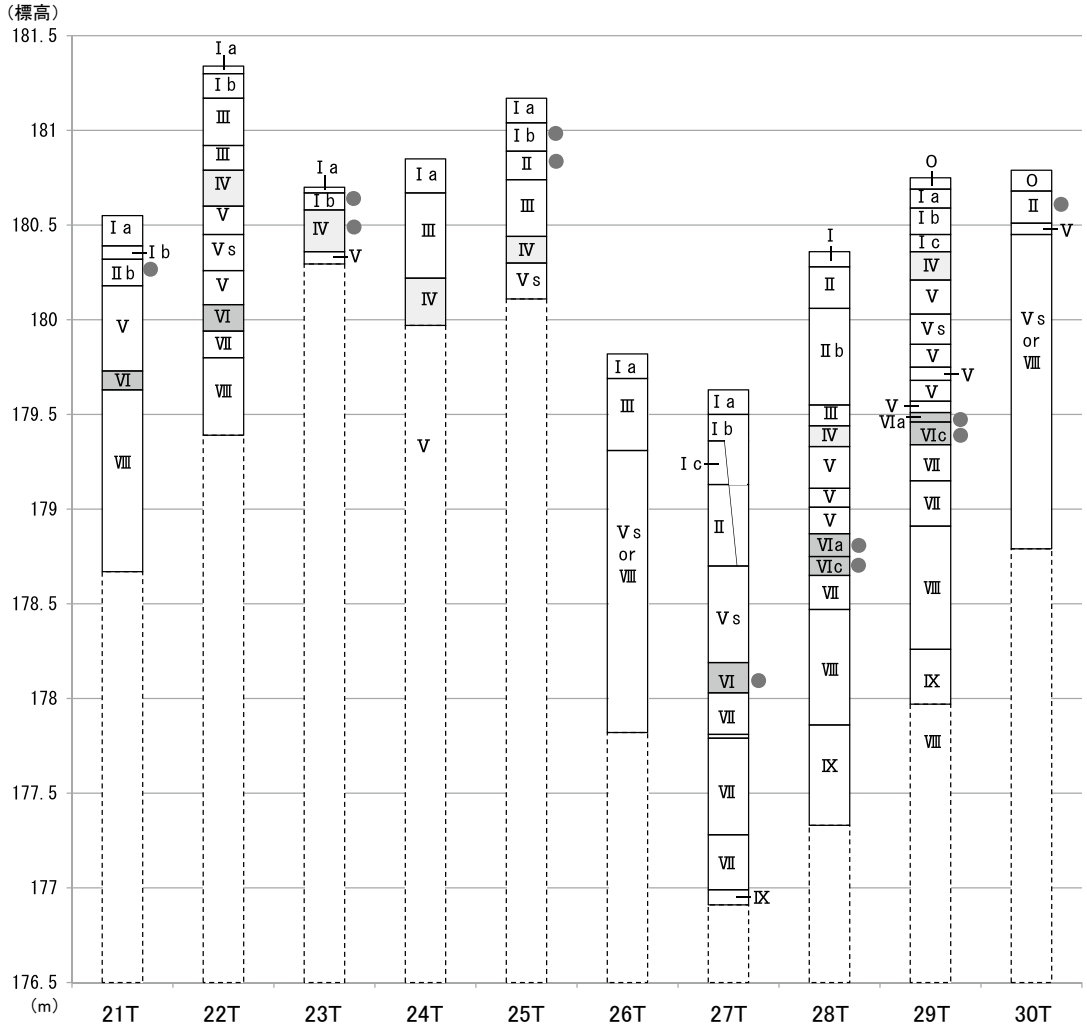
第６図　３Ｔ土層断面（北から）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

第７図　14T杭検出状況（北から）

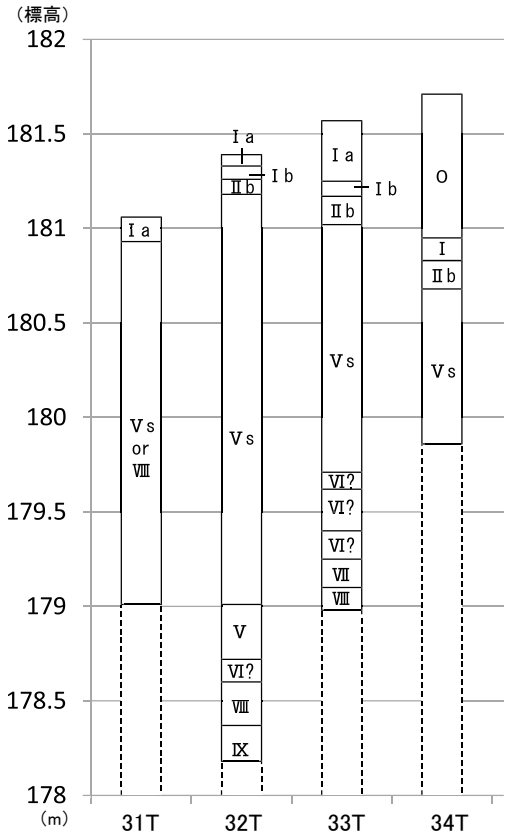
第８図　17T土層断面（北から）



第３－３図　土層柱状図（１：40）

第９図　21T杭検出状況（南西から）

第10図　28T土層断面（南東から）



第３－４図　土層柱状図（１：40）

第11図　32T土層断面（北西から）

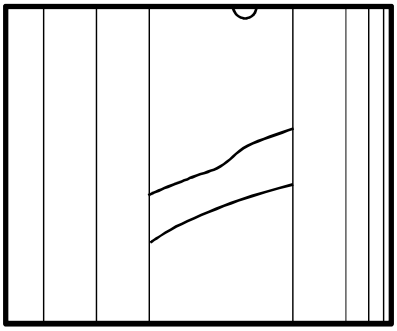
第12図　３T土層断面（北から）

第13図　14T遺構検出（北から）

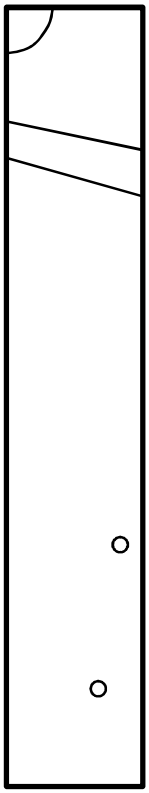
第14図　30T　ピット断面（南西から）

第15図　３T　Ⅵa層出土遺物（古墳時代）

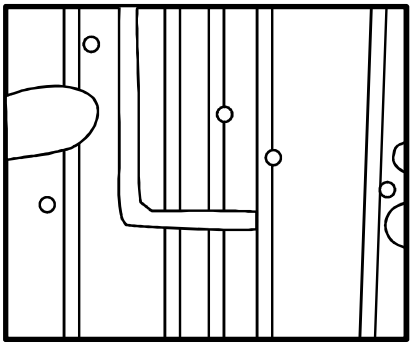
第16図　14T　Ⅳ層出土遺物（平安時代）



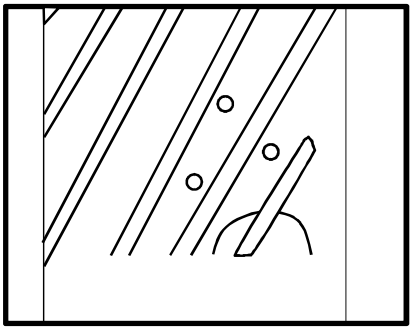
H27- 3 T



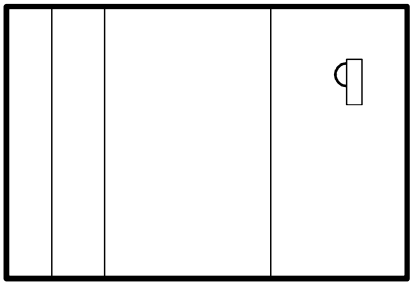
H27-23T



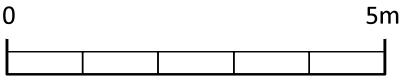
H27-14T



H27-19T



H27-30T



第４図　遺構平面図（１：100）

14　一般国道17号六日町バイパス事業関係

南魚沼市竹俣（たけまた）地区試掘調査

（1）立 地

魚野川の支流である鎌倉沢川右岸の沖積地で、両河川の氾濫原に位置する。標高は169.8～171.9m前後である。現況はＪＲ上越線を挟み、北側が荒蕪地（旧水田）、南側は市街地に近接した宅地・駐車場・水田となっている。

第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「十日町」1:50,000原図 平成10年発行）

（2）調査の概要

ＪＲ上越線を挟み、南側で10か所（35～44Ｔ）、北側で９か所（45～53Ｔ）のトレンチを設定して試掘調査を行った。盛土厚を除けば、30～50cm下で河川堆積物（鎌倉沢川由来）と考えられる層（Ⅲ層以下）が確認できた。

（3）層　序

０層　　盛土・攪乱。

Ⅰ層　　褐色土で、表土である。

Ⅱａ層　灰褐色粘質シルトで、46～53Ｔでは褐色土が斑点状に混じる。

Ⅱｂ層　暗褐色粘質シルトで、旧耕作土の可能性がある。

Ⅱb'層　暗褐色粘質シルトで、木片及び加工材を含む。

Ⅲａ層　青灰色砂質シルト。

Ⅲｂ層　青灰砂質土。

Ⅳ層　　青灰粘質シルトで、黄灰色シルトがブロック状に混じる。

Ⅴ層　　青灰色砂＋砂質土＋粘質シルトの互層である。

Ⅵ層　　暗青灰～暗緑灰色粘質シルト。

Ⅶ層　　青灰色粘質土で、小礫混じる。

Ⅷ層　　黄褐色砂層。

Ⅸ層　　褐灰色粘質シルトで、腐植物混じる。

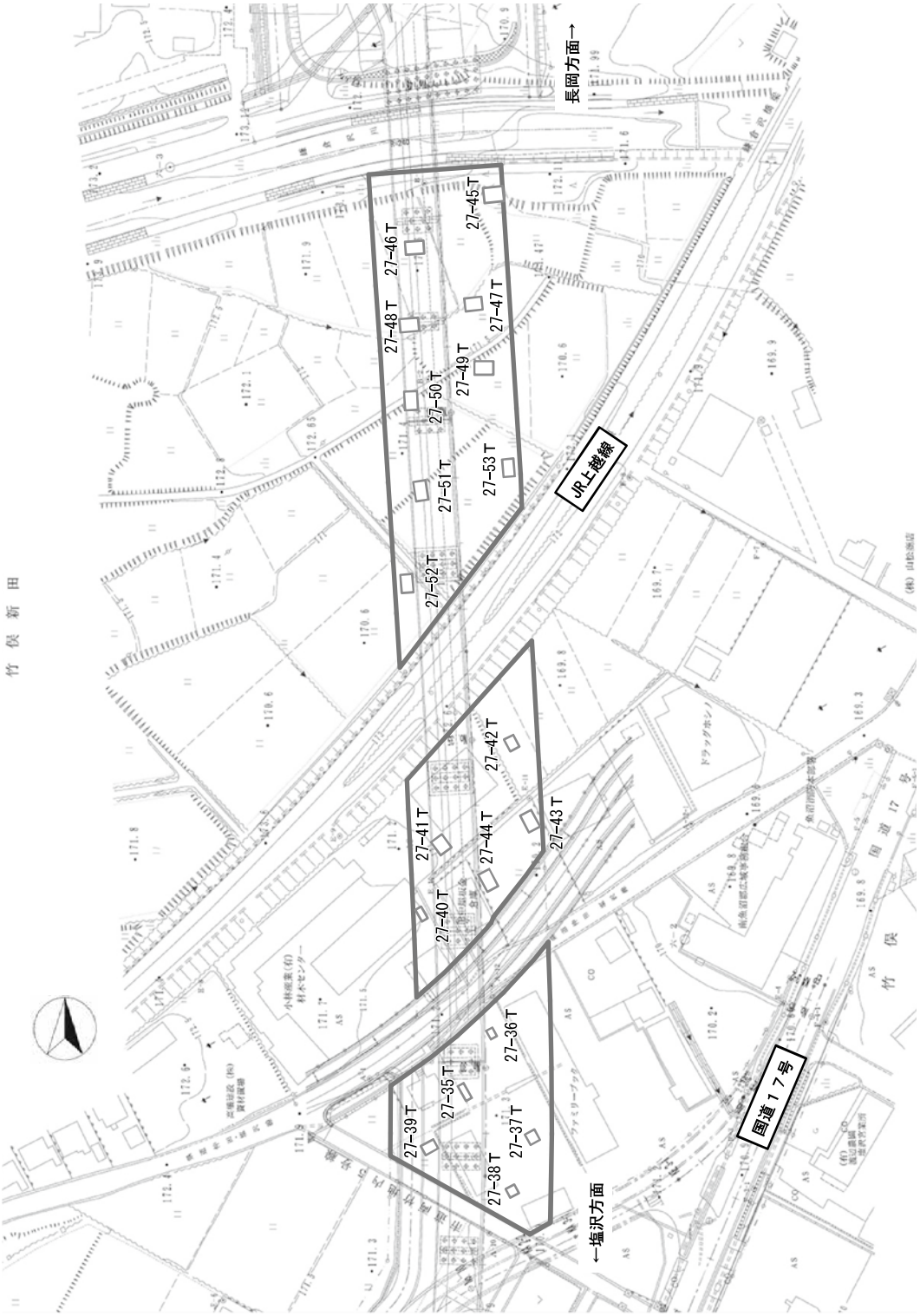
Ｘ層　　青灰色砂礫。

（4）遺構・遺物

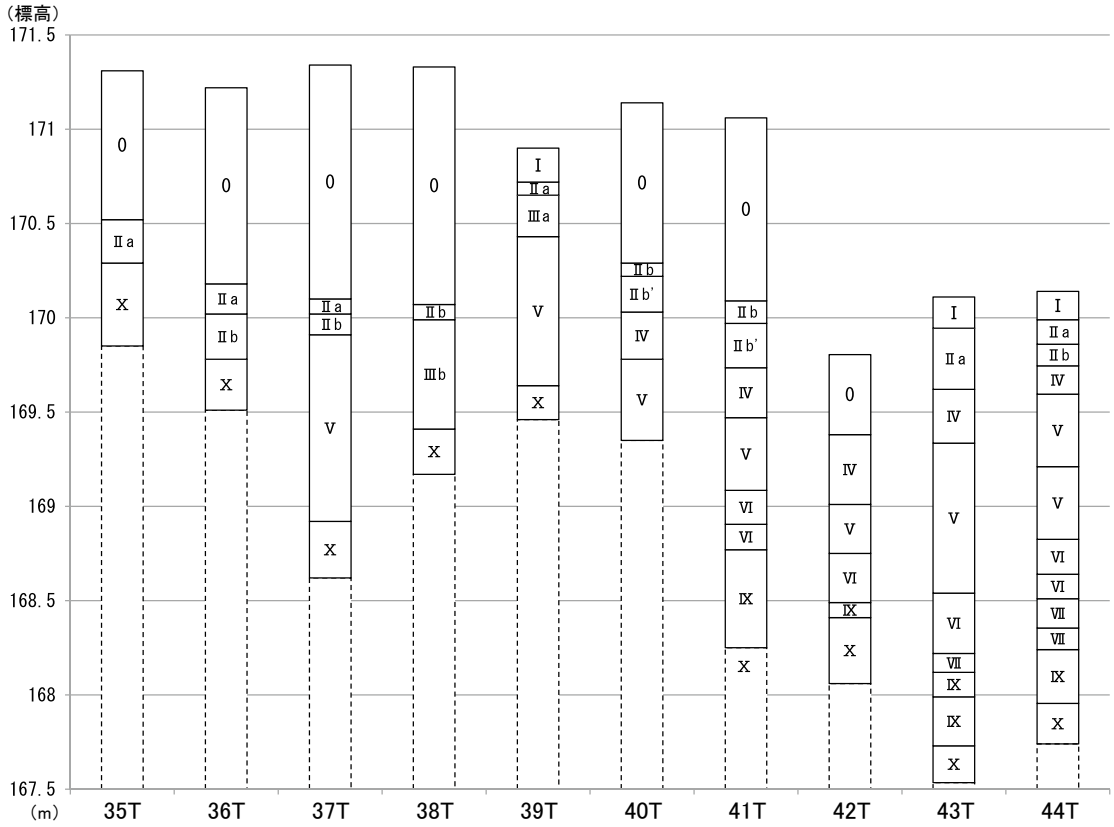
なし。

（5）調査の結果と取扱い

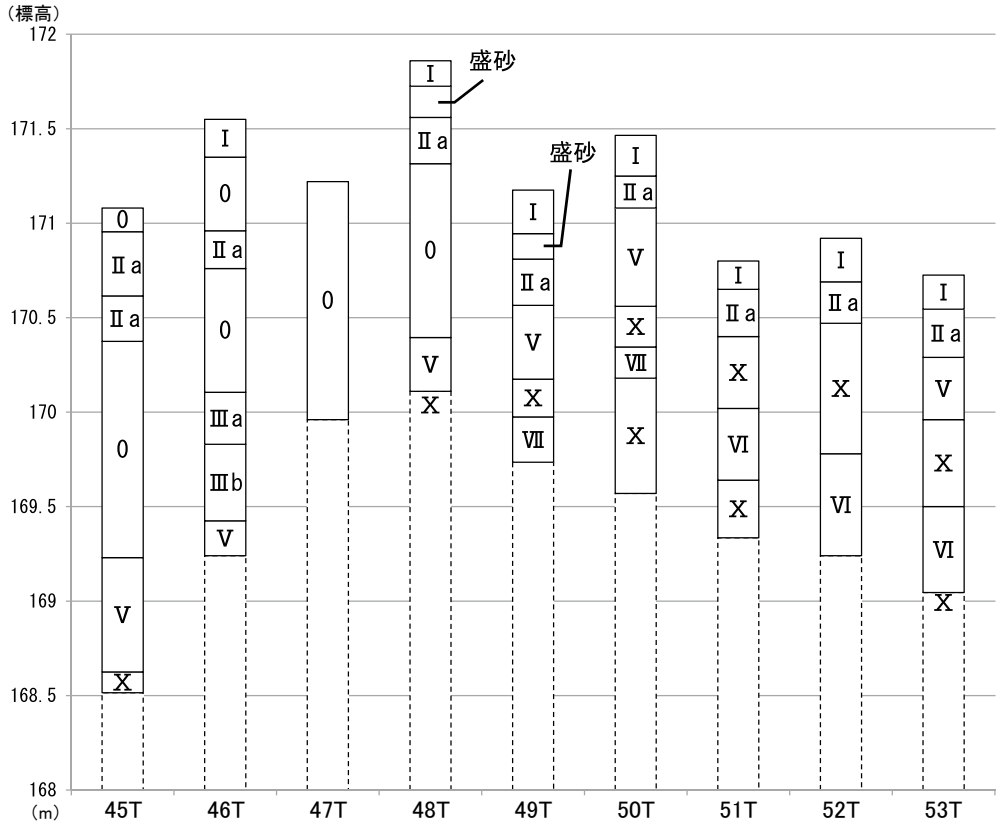
調査の結果、中世以前の遺構・遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３－１図　土層柱状図（１：40）



第３－２図　土層柱状図（１：40）

第４図　35～39T付近全景（東から）

第５図　38T土層断面（西から）

第６図　40～44T付近全景（東から）

第７図　43T土層断面（西から）

第８図　46T土層断面（南から）

第９図　49T土層断面（北から）

第10図　51～53T付近全景（北から）

第11図　53T土層断面（西から）

15　一般国道17号石打自転車歩行者道整備事業関係

南魚沼市下一日市（しもひといち）～南田中（みなみたなか）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川左岸の低位段丘面に立地し、調査区は下り線側（地点①、杭№100～126）と上り線側（地点②、杭№57～61）に分かれる。標高は地点①が198～203m、地点②が212m前後である。地形は全体的に南西から北東に向かって低く傾斜する。現況は宅地・水田跡・畑跡である。

（２）調査の概要

地点①では14か所のトレンチを、地点②では４か所のトレンチを設定して、試掘調査を行った。地点①、地点②共に耕作土（Ⅰ層）以下は河原礫が大半で、基本的に河川（魚野川）の氾濫原であったと考える。遺構は検出できず、中世以前の遺物も出土しなかった。

（３）層　序

過年度の調査となるべく対比させたが、対比できない層は土層柱状図に色調・土質を記した。

０層　造成に伴う盛土・砂利。

Ⅰ層　灰褐色粘質土等で、現代の水田耕作に関係する土層（客土含む）を一括する。

Ⅳ層　暗灰色粘質土。人頭大の礫をまばらに含む。

Ⅴ層　砂利層・礫層を一括する。

（４）遺構・遺物

なし。

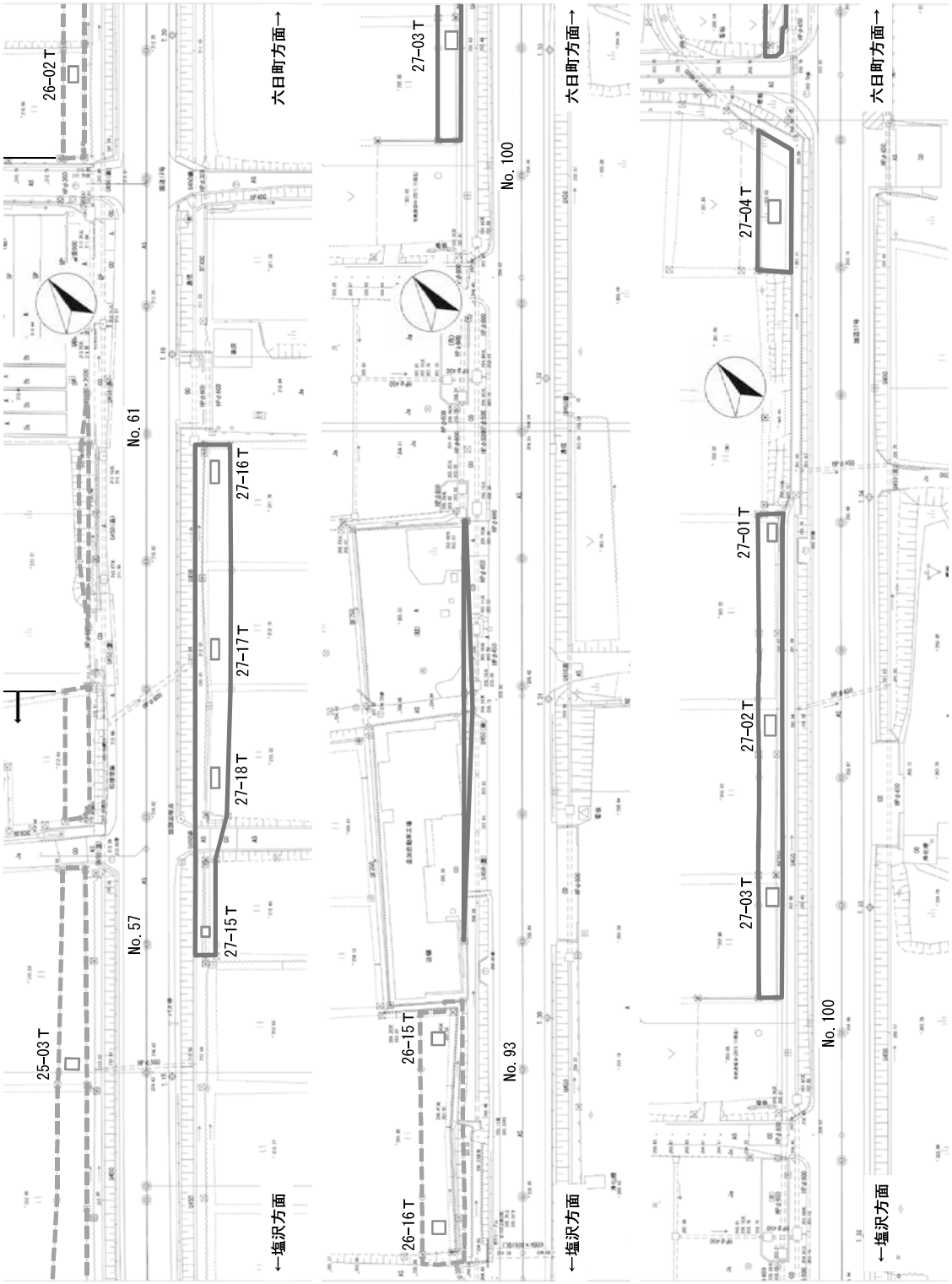
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、地点①･②ともに中世以前の遺構･遺物は検出できなかった。今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

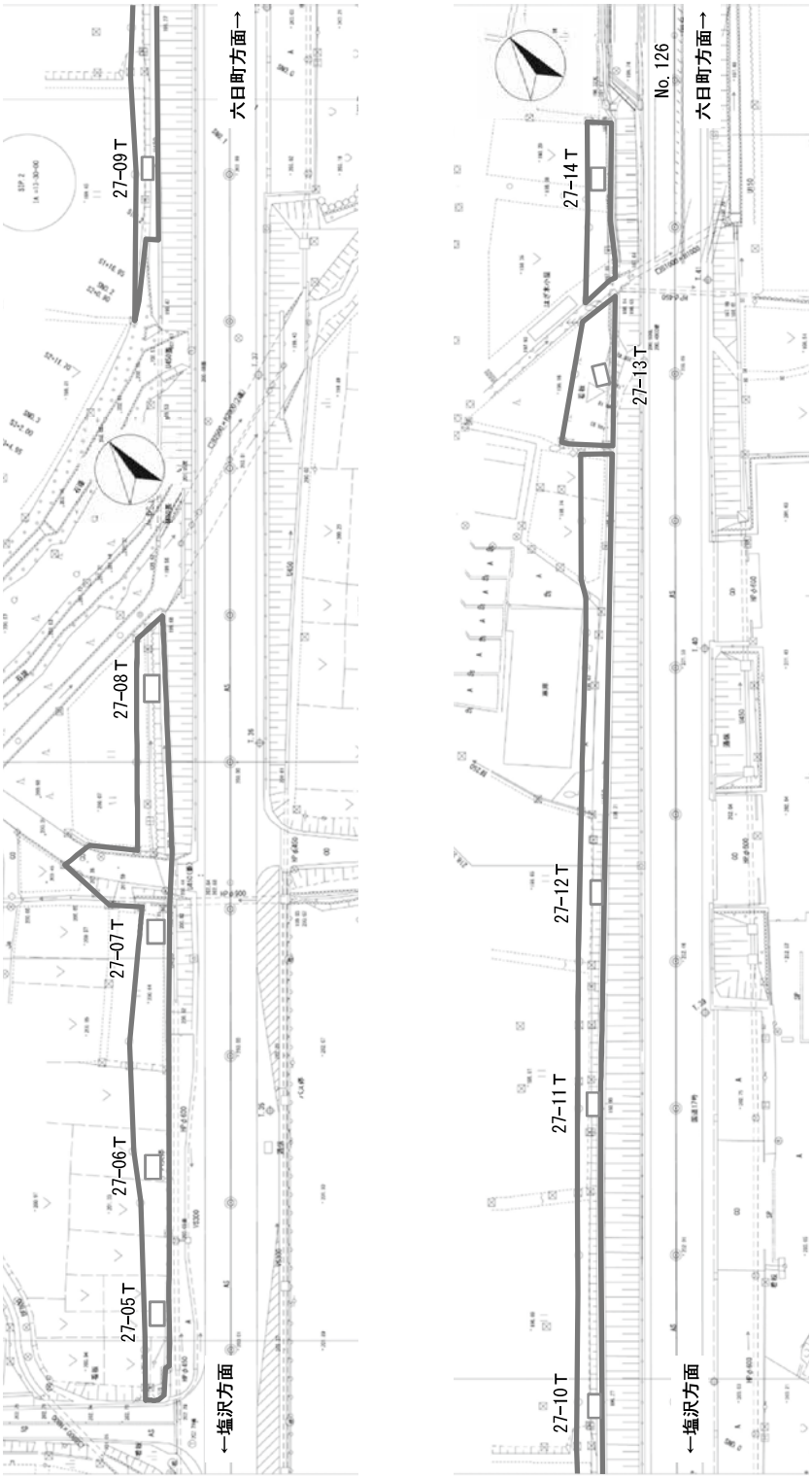
また杭№93+10（平成26年度試掘調査終点）～100の区間においては、新規事業用地が狭小であること、調査による既存の宅地盛土および排水路への影響が想定されることから、今回は調査を除外した。ただし延長方向の調査結果で、堆積環境に変化が認められないことから遺跡の存在する可能性は低く、今後の試掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１：50,000）

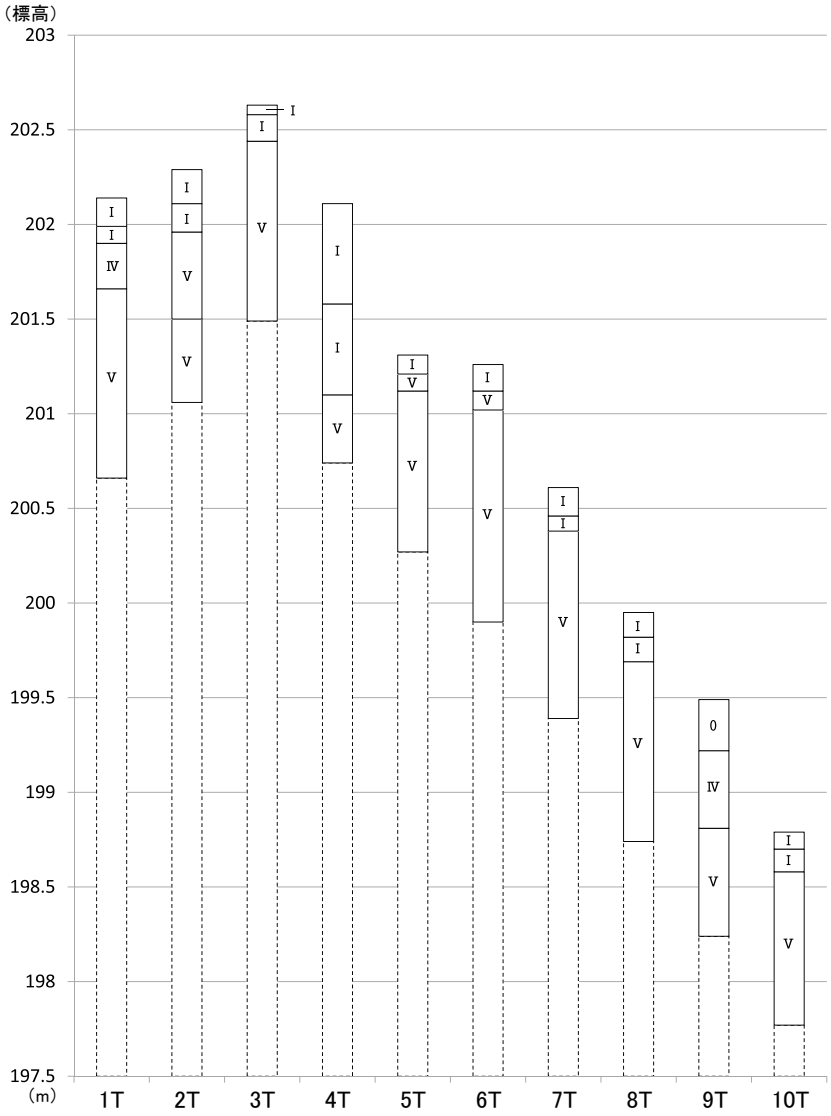
（国土地理院 平成10年「十日町」平成7年「越後湯沢」1:50,000原図）



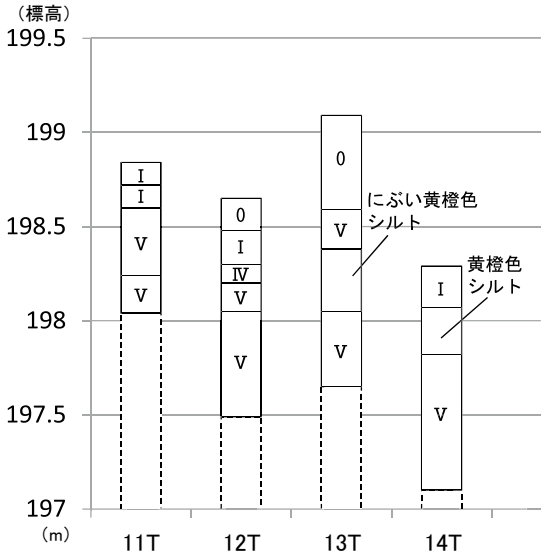
第２－１図　トレンチ位置図（１：2,000）



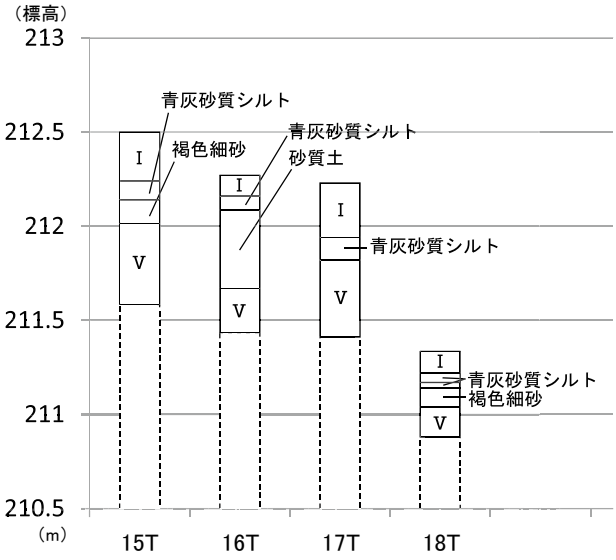
第２－２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３－１図　土層柱状図（１：40）



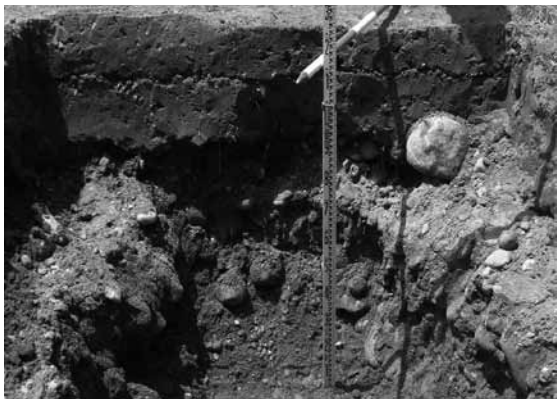
第３－２図　土層柱状図（１：40）



第３－３図　土層柱状図（１：40）

第４図　５～７T付近全景（南から）

第５図　２T土層断面（南西から）



第６図　14T土層断面（北東から）

第７図　16T土層断面（南東から）

16　一般国道８号柏崎バイパス建設事業関係

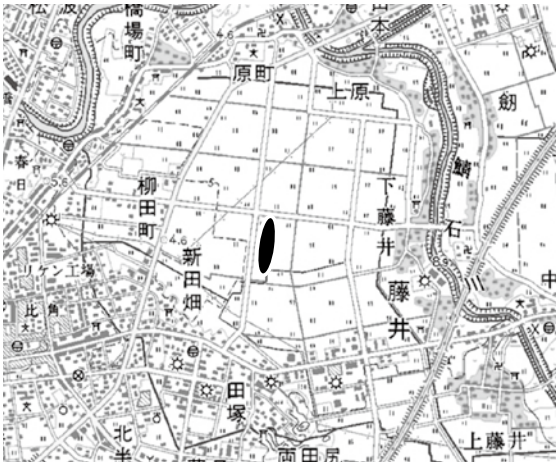
宝田遺跡（柏崎市宝田（たからだ）・藤井（ふじい）地区）確認調査

（１）立　地

柏崎平野東部、鯖石川下流の左岸に立地する。標高は4.5～5.5mで、北西方向に向かって緩く傾斜する。現況は道路及び水田で、周知遺跡の宝田遺跡の範囲内である。

（２）調査の概要

４か所の調査対象地で、計８か所（各２か所）のトレンチを設定して確認調査を行った。



第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「柏崎」1:50,000原図 平成7年発行）

（３）層　序

０ａ層・０ｂ層　盛土

Ⅰａ層　暗褐色粘質シルトで、現耕作土。

Ⅰｂ層　暗褐色粘質シルトで、床土。

Ⅱ層　暗緑灰色粘質シルトで、近世以降の水田耕作土。

Ⅲ層　暗灰色粘質シルトで、近世の水田耕作土。本調査Ⅴ層に対応する。

Ⅳ層　緑灰色粘質シルト。

Ⅴａ層　暗灰色粘質シルトで、中世の水田耕作土。本調査Ⅷａ層に対応する。

Ⅴｂ層　黒褐色粘質シルトで、古代の水田耕作土。本調査Ⅷｂ層に対応する。下層との境界は耕作による影響で凹凸が著しい。

Ⅴｃ層　緑灰色粘質シルトで、漸移層。本調査Ⅸ層に対応する。

Ⅵ層　緑灰粘質シルト・灰色砂質シルトの互層。水性堆積層で場所によって土質に差がある。ａ～ｃ層に細分した。

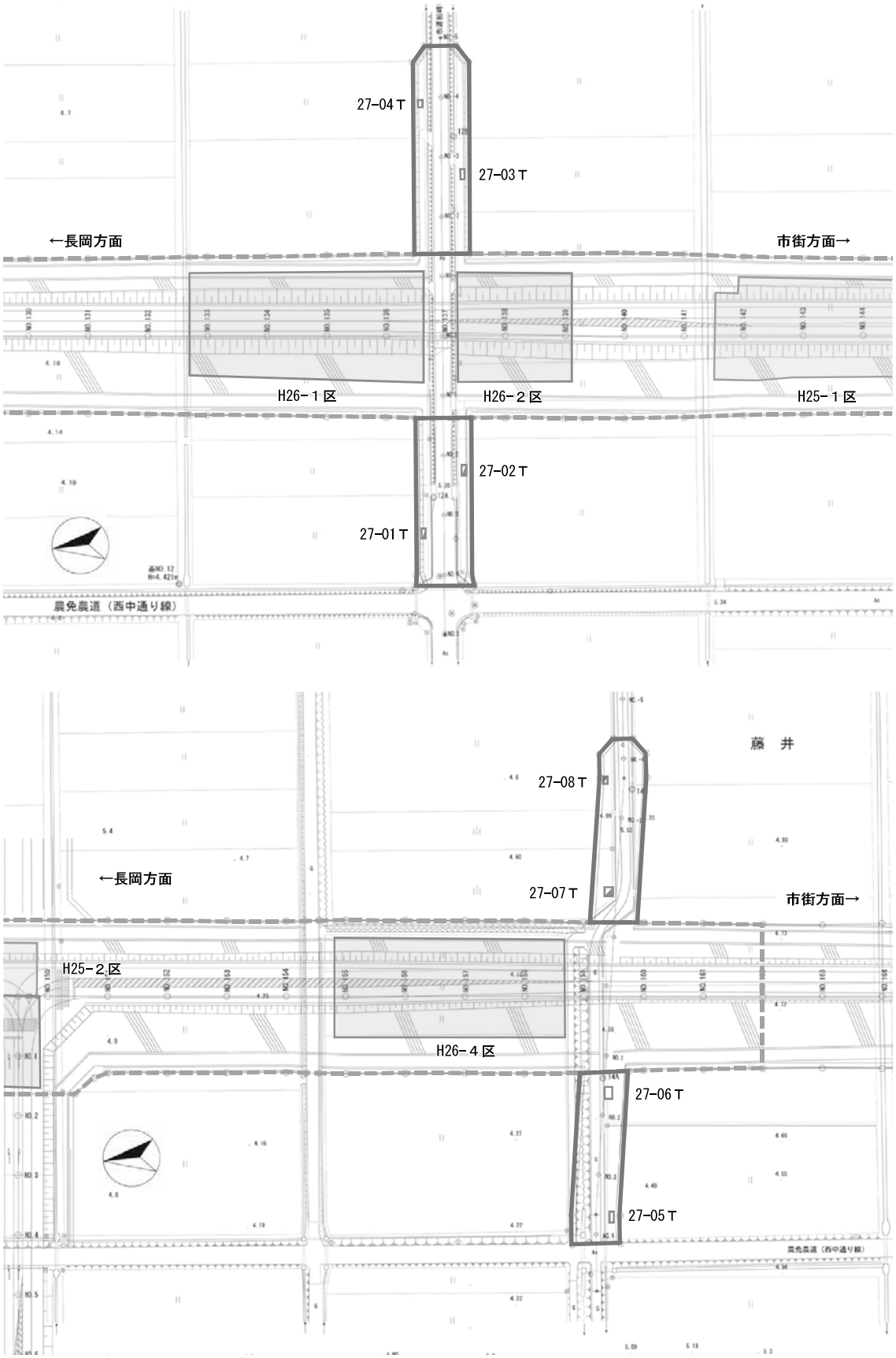
（４）遺構・遺物

遺構は１～８Ｔの全てのトレンチで、2014年度本発掘調査と同様の古代・中世の水田面（Ⅴ層）を検出した。８Ｔの壁面では、畦畔状の盛り上がりを確認した。他に土坑・ピット等は検出できなかった。

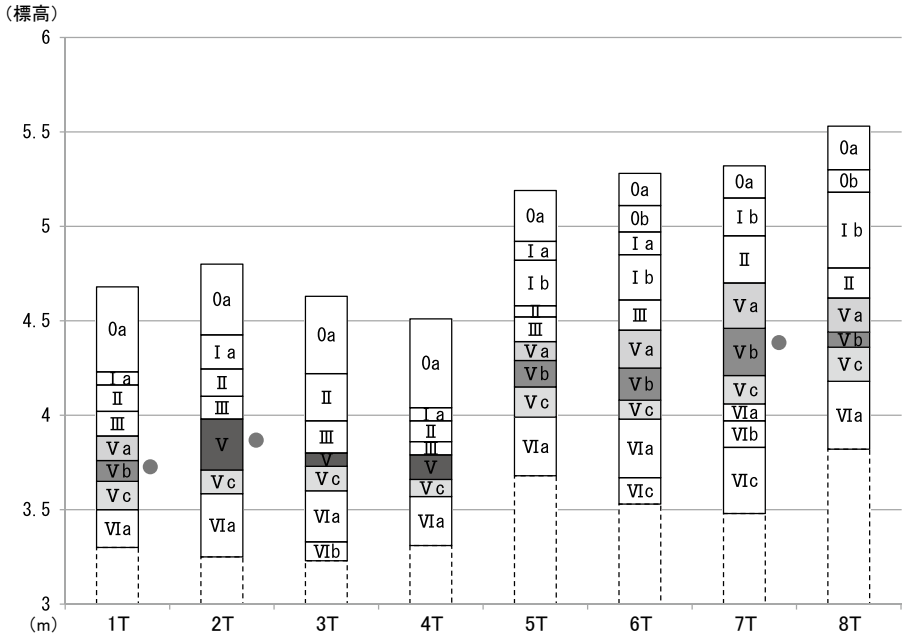
遺物は１ＴのⅤｂ層から土師器１点、２ＴのⅤ層から須恵器（壺？）１点と土師器１点、７ＴのⅤｂ層から土師器１点がそれぞれ出土した。出土層位から古代の遺物と考える。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、中世と古代の水田関連遺構と当該期の遺物を検出した。しかし、区画を想定できる遺構（畦畔・溝）などを明確にすることはできなかった。調査トレンチ幅が十分に確保できず、面的に精査できなかったことも要因の一つと考える。その他の遺構（土坑・ピット等）が検出できず、また遺物の出土も希薄な状況は、当該地が古代から現代に至るまで生産域であった可能性が高い。しかし、宝田遺跡における古代・中世の生産域のあり方は、近接する柏崎バイパスの本線部分の本発掘調査で必要な情報が得られる可能性が有るので、今回の調査範囲は本発掘調査対象区から除外する。



第２図　トレンチ位置図（１：2,000）



第３図　土層柱状図（１：40）

第４図　１T土層断面（西から）

第５図　４T土層断面（西から）

第６図　８T畦畔検出（北から）

第７図　２TⅤ層出土遺物

17　一般国道253号上越三和道路建設事業関係

上越市駒林（こまばやし）・三和区岡木（おかぎ）試掘・確認調査

（１）立　地

高田平野の東部、飯田川右岸の沖積地に立地する。現況は林及び荒蕪地で、標高は15.6～16.2mである。調査対象区の北東側には、周知遺跡である谷内割遺跡が隣接する。

（２）調査の概要

17か所のトレンチを設定して試掘・確認調査を行った。古墳時代の遺構・遺物を調査区北東寄りで、古代の遺構・遺物を南西寄りで検出した。時代により検出した範囲・深さは異なり、わずかに距離も離れることから別の集落（遺跡）と考えた。調査区南西の上越・安塚・浦川原線沿い（10・15Ｔ）は現代の攪乱が多く、明確に遺跡の範囲を捉えることはできなかった。

（３）層　序

Ⅰ層　表土層で、旧耕作土も含む。

Ⅱ層　黒褐色シルト層で、13・14Ｔ付近の局所的に認められた。古代の遺物包含層と考える。

Ⅲ・Ⅳ層　自然堆積層で、土性と色調からⅢ層黄褐色シルト、Ⅳａ層にぶい褐色粘質シルト、Ⅳｂ層灰褐色粘質シルトに分層した。

Ⅴ層　古墳時代の遺物包含層で、砂質を含むⅤｃ層（灰白色砂質シルト）までをⅤａ層・Ⅴｂ層に分層したが、色調は近似している。粘性は非常に強い。明黄褐色～褐灰色粘質シルトをⅤａ層、にぶい黄褐色粘質シルトをⅤｂ層とした。

Ⅵ層以下は自然堆積層で、Ⅵ層上面は古墳時代の遺構確認面となる。Ⅵａ層が明黄褐色～灰白粘質シルト、Ⅵｂ層が灰白色粘質シルトとした。Ⅶ層以下は青灰色粘質シルトを基本とし、色調・粘性・しまり・含有物などで細分（Ⅶａ～ｃ層、Ⅷａ・ｂ層）した。

（４）遺構・遺物

１・２Ｔで古墳時代の遺構を、12～14・17Ｔで古代の遺構をそれぞれ検出した。

１Ｔでは、径約1.2mの不整円形な土坑を１基検出し、壁面が急斜度で落ち込んでいることを確認した。２Ｔでは0.5～1.0mの楕円形の土坑２基、径30～40cmのピット２基を検出した。

12Ｔで溝１条・ピット４基、13Ｔで溝１条・土坑１基・ピット２基、14Ｔで溝３条・ピット６基、17Ｔで溝１条をそれぞれ検出した。12Ｔから13Ｔにかけて検出した溝（ＳＤ６）は、幅約2.0m、深さ約1.1mの大型の溝で、壁面が直線的なＶ字に近い。埋土は分層が困難で、一気に埋まった可能性がある。

遺物は１・２・６・10・12・13Ｔから出土しているが、このうち１・２・12・13Ｔでは遺構埋土からも出土した。１・２・６Ｔは古墳時代前期の遺物（土師器・石製品）で、平成16・24年度出土遺物と同様の時期と考える。10・12・13Ｔの遺物は器面が荒れて判然としないが、古代の遺物が主体で、古墳時代の遺物もわずかに含まれる。

（５）調査の結果と取扱い

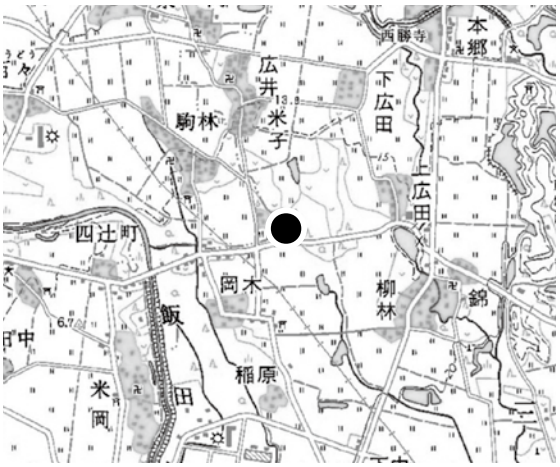
調査の結果、古墳時代と古代の大きく２時期の遺構・遺物を検出した。遺構・遺物の分布は、古墳時代前期を主体とした一群（範囲①）が調査区北東寄りに、古代（10世紀頃か）を主体とした一群（範囲②）が調査区南西寄りに分布する。

範囲①の東側には周知の谷内割遺跡が存在し、平成16・24年度調査の出土遺物と同時期であることから、今回の調査区まで遺跡が拡がっているものと判断した。本発掘調査が必要となる範囲は、５Ｔ以東（杭№292以東）で、今年度調査区での面積は、約1,950㎡（１層）である。平成16年度の必要範囲約1,705㎡、平成24年度の必要範囲3,900㎡と合計して約7,555㎡（１層）の本発掘調査が必要であると判断した。遺跡の中心は、杭№294～297付近であることが推定される。そのため、その遺跡の中心となる所在地に従い、遺跡名を従来の谷内割遺跡から弥五郎（やごろう）遺跡に変更する。

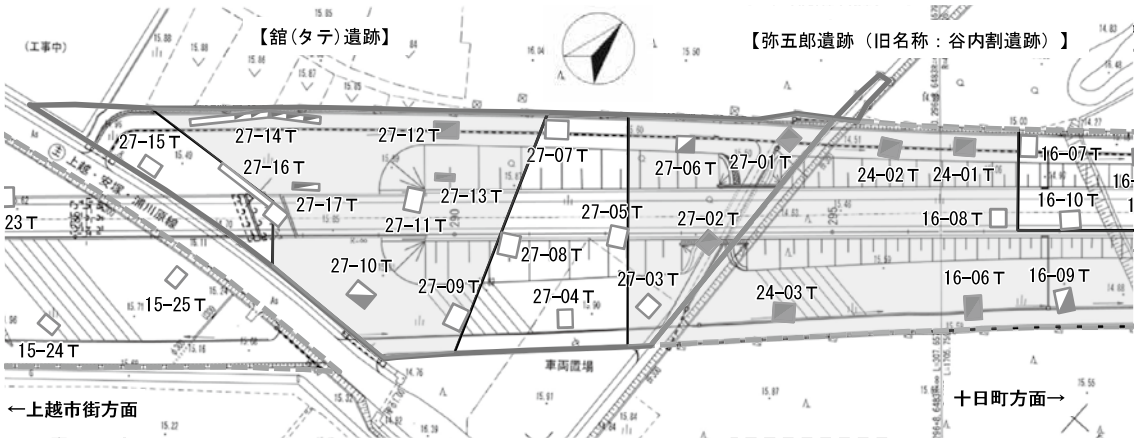
もう一方の範囲②は、範囲①と約30ｍしか離れていないが、時代が異なることから別遺跡と判断した。新発見の遺跡であることから、舘（たて）遺跡として周知化する。本発掘調査が必要となる範囲は、７～９Ｔ以西（杭№291以西）で、面積は約3,980㎡（１層）である。

トレンチ№	層位・遺構	土師器	石製品
１Ｔ	SK１	１点	
	Ｖａ層	12点	
２Ｔ	SK２	28点	
	SK３	１点	１点
	Pit４	２点	
６Ｔ	Ｖｂ層	１点	
10Ｔ	攪乱	３点	
12Ｔ	SD６	16点	
13Ｔ	SD６	１点	

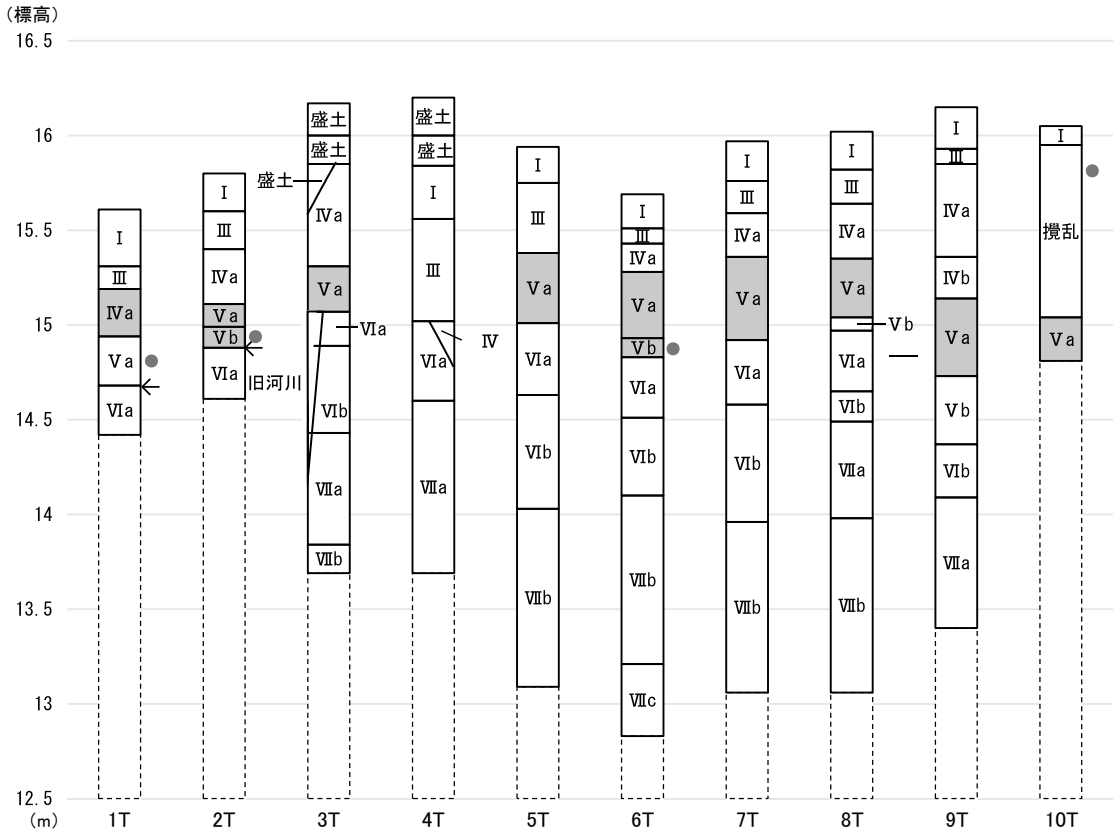
第１表　遺物出土表

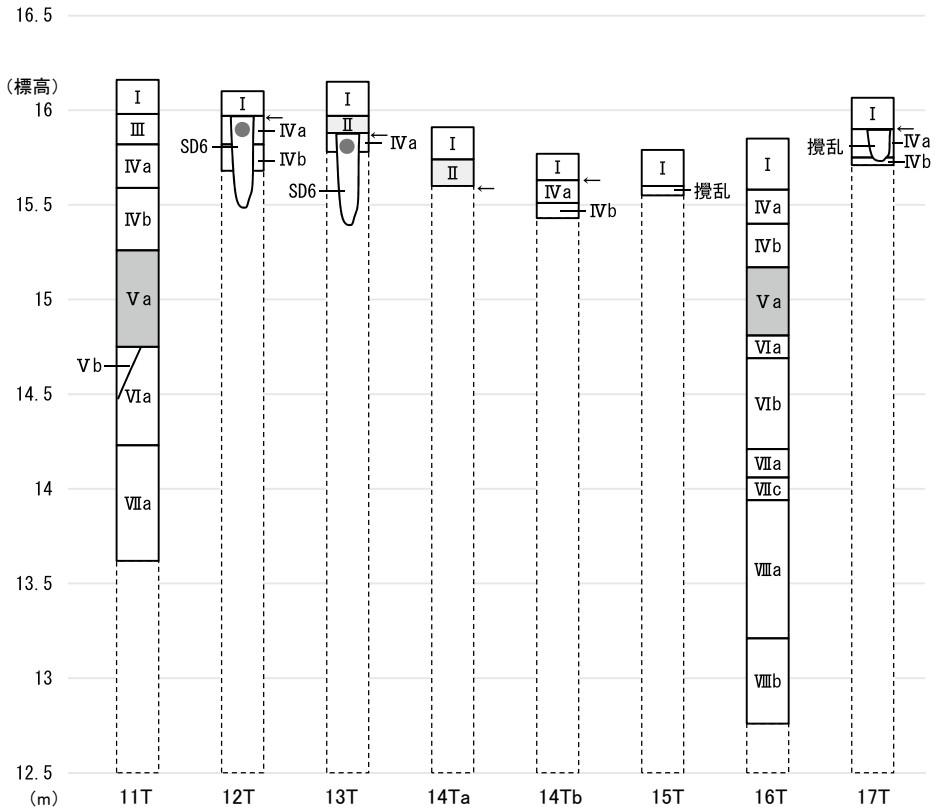


第１図　位置図（１：50,000）
（国土地理院「高田東部」1:50,000原図 平成11年発行）

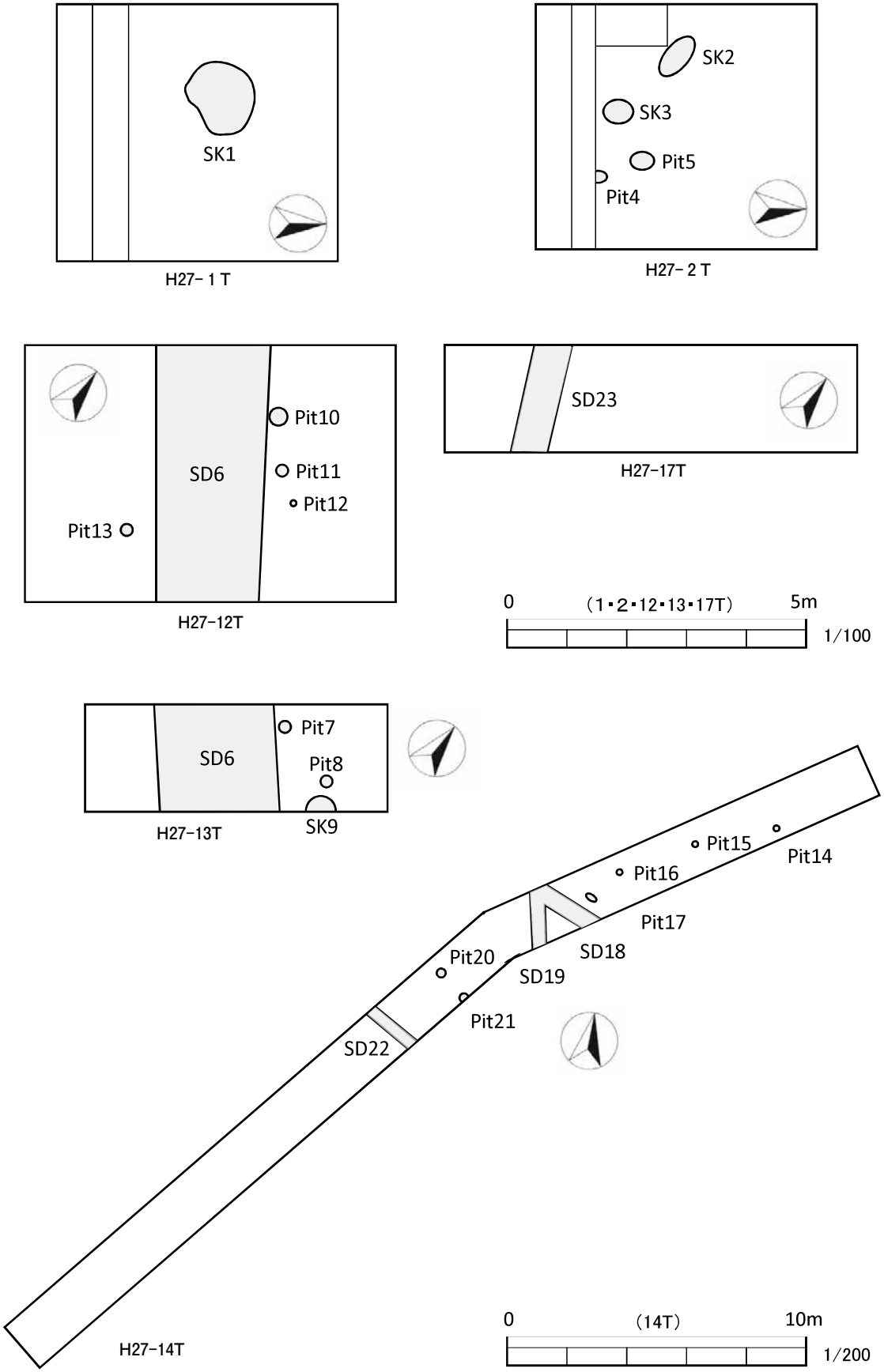


第２図　トレンチ位置図（１：2,000）





第３図　土層柱状図（１：40）


SK1
H27-1T
SK2
SK3
Pit5
Pit4
H27-2T
Pit10
SD6
Pit11
Pit12
Pit13
H27-12T
SD23
H27-17T
0
(1・2・12・13・17T)
5m
1/100
Pit7
SD6
Pit8
SK9
H27-13T
Pit15
Pit14
Pit16
Pit17
SD18
Pit20
SD19
Pit21
SD22
H27-14T
0
(14T)
10m
1/200

第4図　遺構平面図

第５図　調査前全景（東から）

第６図　１Ｔ土層断面・遺構検出（東から）

第７図　２Ｔ土層断面・遺構検出（東から）

第８図　８Ｔ土層断面（東から）

第９図　12・13Ｔ　ＳＤ６検出（南から）

第10図　12Ｔ　ＳＤ６断面（南から）

第11図　16Ｔ土層断面（南から）

第12図　２Ｔ　ＳＫ２出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	へいせいにじゅうろく・にじゅうななねんどけんないいせきしくつ・かくにんちょうさほうこくしょ
書　　名	平成26・27年度県内遺跡試掘・確認調査報告書
副 書 名	県内遺跡発掘調査報告書
巻　　次	Ⅴ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第272集
編 著 者 名	石川智紀・加藤元康・牧野耕作
編 集 機 関	新潟県教育委員会
所　在　地	新潟県中央区新光町４番地１
発行年月日	2017（平成29）年３月24日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上野遺跡（うえのいせき）	村上市猿沢字上野（むらかみしさるさわあざうえの）	152129	608	38°17′32″	139°31′46″	20150604～20151215	342	国道建設
六日町藤塚遺跡（むいかまちふじつかいせき）	南魚沼市余川字藤塚（みなみうおぬましよかわあざふじつか）	152269	301	37°04′38″	138°52′40″	20150706～20151119	184	国道建設
坂之上遺跡（さかのうえいせき）	南魚沼市余川字坂之上（みなみうおぬましよかわあざさかのうえ）	152269	297	37°04′44″	138°52′44″	20150706～20150710	102	国道建設
宝田遺跡（たからだいせき）	柏崎市宝田（かしわざきしたからだ）	152056	1000	37°22′46″	138°35′19″	20151217･18	48	国道建設
弥五郎遺跡（やごろういせき）	上越市三和区岡木字弥五郎（じょうえつしさんわくおかぎあざやごろう）	152226	1474	37°08′28″	138°19′50″	20150825～20150828	81	国道建設
舘遺跡（たていせき）	上越市駒林字舘（じょうえつしこまばやしあざたて）	152226	1576	37°08′20″	138°19′46″	20150825～20150828	196	国道建設
六反田南遺跡（ろくたんだみなみいせき）	糸魚川市大和川字六反田（じょうえつしやまとがわあざろくたんだ）	152161	275	37°03′02″	137°53′27″	20150611, 20150727･28	160	浄水設備建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野遺跡	集落跡	縄文	土坑・ピット	縄文土器・石器・土偶・耳飾り	
六日町藤塚遺跡	集落跡	古代・古墳	溝・ピット	須恵器・土師器	
坂之上遺跡	集落跡	古代	溝・ピット	須恵器・土師器	
宝田遺跡	散布地	古代・中世	水田	土師器	
弥五郎遺跡	古戦場	古墳	土坑・ピット	土師器	旧名「谷内割遺跡」
舘遺跡	古戦場	古代	溝・ピット	須恵器・土師器	
六反田南遺跡	古戦場	古墳・縄文	なし	なし	

要　約	道路事業に伴う試掘・確認調査を18か所で実施した。舘遺跡を新発見し、周知遺跡である上野遺跡、六日町藤塚遺跡、坂之上遺跡、弥五郎遺跡の範囲が拡大した。特に上野遺跡は、縄文時代後期を中心とする遺物が広範囲から出土し、土偶・耳飾り等も出土した。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 272 集

県内遺跡発掘調査報告書Ⅴ

平成26・27年度県内遺跡試掘・確認調査

平成29（2017）年３月17日印刷
平成29（2017）年３月24日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町４番地１
電話　025（285）5511

印刷・製本　株式会社ハイングラフ
〒950-2022　新潟市西区小針１丁目 11 番８号
電話　025（233）0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第272集『平成26･27年度県内遺跡試掘･確認調査』　正誤表

2019年9月追加

頁	位置	誤	正
７p･９p	見出し	関川村大内渕地区	関川村大内淵地区
抄録	所収遺跡　１行目	うえのいせき	かみのいせき
抄録	所在地　１行目	うえの	かみの
抄録	種別　５～７行目	古戦場	集落跡
抄録	市町村コード	１５２１２９	１５２１２
抄録	市町村コード	１５２２６９	１５２２６
抄録	市町村コード	１５２０５６	１５２０５
抄録	市町村コード	１５２２２６	１５２２２
抄録	市町村コード	１５２１６１	１５２１６
抄録	舘遺跡 北緯	３７度０８分２０秒	３７度０８分２６秒
抄録	舘遺跡 東経	１３８度１９分４６秒	１３８度１９分４４秒